

沼田北部地区遺跡群II

MATI DA ZYŪ NI HARA
(町田十二原 遺跡)

平成2年度県営ほ場整備事業沼田北部
地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1993

沼田市教育委員会

序

県営は場整備事業沼田北部地区に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、平成元年度以来、工事により遺跡の消滅する部分を対象に、毎年実施してまいりました。当該地域は、すでに関越自動車道建設に伴い発掘調査された「戸神諏訪遺跡」をはじめ「沼田北部工業団地遺跡」等、遺跡の宝庫ともいべき地域がありました。

本報告は平成2年度に調査を実施した地域の成果をまとめたもので、礎石を有する大型竪穴住居跡、火災住居跡から発見された多量の灰釉陶器や鉄鋤先等沼田の原始・古代を解明する上で貴重な資料を得ることができました。郷土の歴史を広く市民に紹介するため、この成果を学校教育や社会教育の場で活用していくければと考えています。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本書をまとめるにあたり、終始御指導、御協力をいただきました関係者の皆様に心から厚く感謝の意を表し序といたします。

平成5年3月

沼田市教育委員会

教育長 萩野 明正

例　　言

- 1 本報告書は、平成2年度県営ほ場整備事業沼田北部地区に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 沼田北部地区遺跡群II（町田十二原遺跡）は、群馬県沼田市町田町字十二原・小沢に所在する。
- 3 発掘調査は、平成2年9月3日～平成2年12月14日まで実施し、整理作業は一時中断したが、平成5年3月まで行った。
- 4 発掘調査及び整理作業は、沼田市教育委員会が文化庁の補助事業及び土地改良事務所からの受託事業として実施したものである。
- 5 調査・整理体制は以下の通りである。

平成2年度

教　育　長　佐藤　国利（～9/30）
　　〃　　荻野　明正（10/1～）
教　育　次　長　松井　誠二
社会教育課長　藤井　章二
文化財保護係長　都丸　肇（担当）
社会教育主事　小池　雅典（担当）
主　　事　宮下　昌文

平成4年度

教　育　長　荻野　明正
教　育　次　長　小野里靖夫
社会教育課長　角田　巻由
文化財保護係長　鳥羽　昭男
社会教育主事　小池　雅典（担当）
主　　事　宮下　昌文

- 6 本書の執筆、編集は小池が行った。
- 7 39号竪穴住居跡は欠番である。
- 8 石器の石材同定は飯島静男氏による。
- 9 本遺跡の資料は、沼田市教育委員会が沼田市文化財調査事務所収蔵庫で保管している。
- 10 発掘調査及び本書の作成において次の方々から御指導・御協力をいただいた。記して感謝申し上げます。（敬称略）

群馬県教育委員会文化財保護課、（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団、沼田土地改良事務所、沼田北部土地改良区、沼田市農政部農地整備課

凡　　例

- 1 第1図は、国土地理院発行の2万5千分の1の地形図「沼田」「後閑」を使用した。
- 2 全体図の北は座標北を、遺構実測図の北は磁北を表す。
- 3 図中に記載した断面基準線の数字は、海拔高である。
- 4 遺構図・遺物図は、基本的に以下のように統一したが、遺物で縮尺が異なる場合は表示した。

全体図1/600 住居跡・掘立柱建物跡・竪穴状遺構・土壙1/60 遺物1/3

5 遺物実測図のスクリーントーン | は灰釉施釉を は赤色塗彩を表す。

6 遺構図中の遺物番号と遺物実測図中の番号及び遺物写真の番号は一致する。

7 遺物観察表の土器の色調については、1989年版「新版標準土色帖」によった。

目 次

序

例 言

凡 例

I 調査に至る経緯と遺跡の環境

1 調査に至る経緯	1
2 遺跡の位置と環境	1
3 周辺の遺跡	1

II 調査の方法と遺跡の概要

1 調査の方法	6
2 遺跡の概要	6
3 基本層序	6

III 検出された遺構と遺物

1 竪穴住居跡	7
2 掘建柱建物跡	51
3 竪穴状遺構	54
4 土 壙	56

IV まとめ

遺物実測図	58
-------	----

遺物観察表	78
-------	----

写真図版	
------	--

I 調査に至る経緯と遺跡の環境

1 調査に至る経緯

昭和63年度から事業が開始された県営ほ場整備事業沼田北部地区は、薄根川の右段丘面上の広範な地域を占める。この区域には当初から関越自動車道建設に伴う発掘等や、詳細分布調査の結果から多くの遺跡が存在することが確認されており、その取扱いが問題となっていた。市教育委員会は沼田土地改良事務所及び農地整備課と遺跡の保存等について協議を重ねた結果、工事の大幅変更は不可能であるとの結論に達し、遺跡の破壊される切土部分と道路部分について、記録保存のため発掘調査を実施することとなった。

2 遺跡の位置と環境

沼田北部地区遺跡群II（町田十二原遺跡）は、沼田市のはば中央に所在する。この地区は西流する薄根川右岸上位段丘面にあたり、北には戸神山がそびえ、西側は小河川の小沢川により西の台地と区画されている。調査地区は、小沢川左岸の台地先端部分で川からの距離は約30m、比高差約13mを測る。標高は398m～405mで、調査前の現況は畠地及び水田であった。

3 周辺の遺跡

本遺跡周辺地区の旧石器時代から平安時代までの歴史的経緯について、主な調査遺跡を時代別に挙げてみたい。（第1図参照）

旧石器時代は3の遺跡から、ナイフ等が数点検出されているにすぎない。

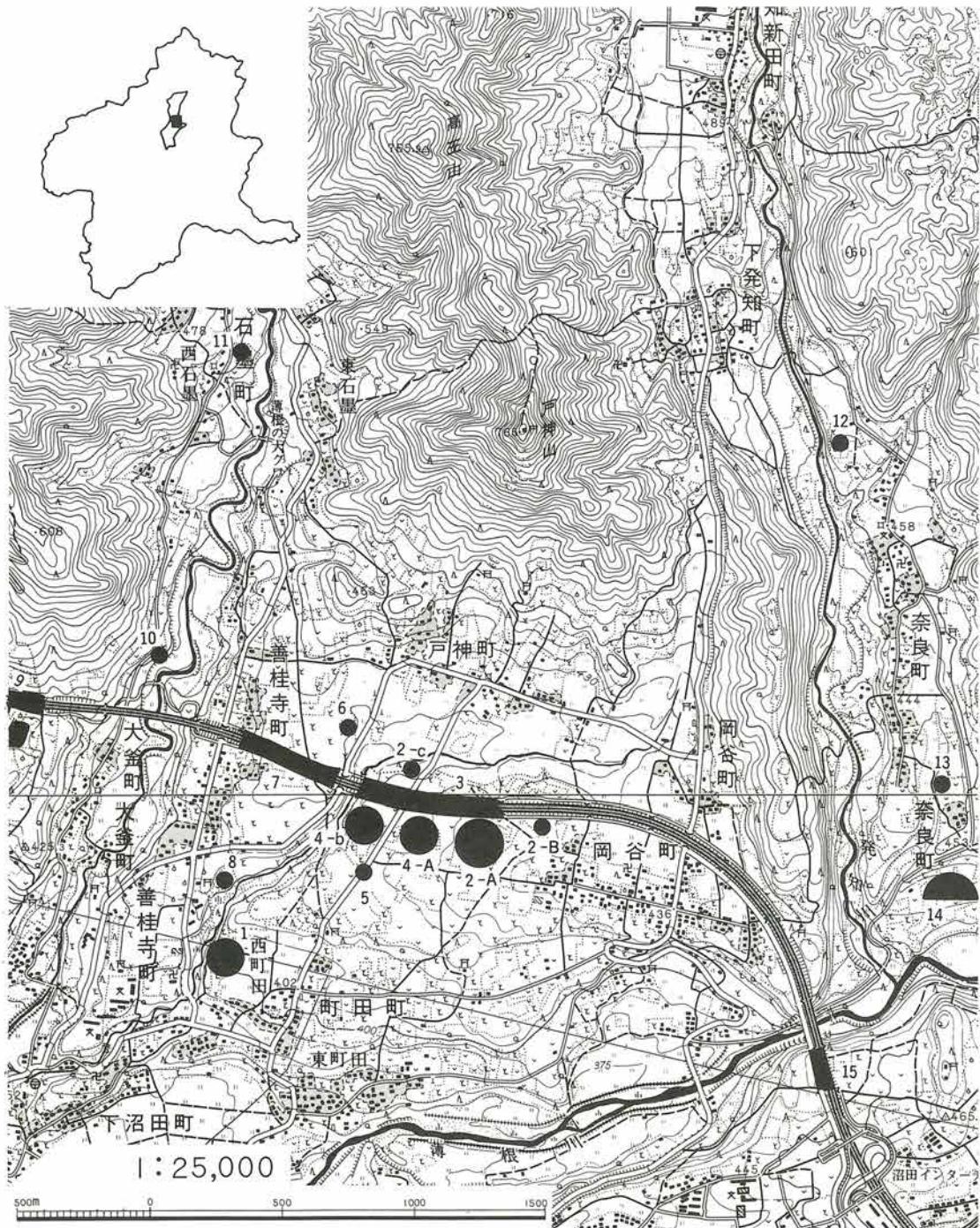
縄文時代になると確認される遺跡の数も多くなり、2・3・4・7・12の遺跡から陥し穴・土壙、前期の住居跡等が、11の遺跡からは中期の住居跡と多量の遺物が検出されている。

弥生時代は後期に属するものがほとんどで、3・4・6・7・8・12・13・15の遺跡からは住居跡が、4・7の遺跡からは円形周溝墓も検出されている。

古墳時代になると2・3・4・6の遺跡から前期の住居跡が、7の遺跡からは前期・後期の住居跡が検出されている。また、4の遺跡からは方形周溝墓も検出されている。

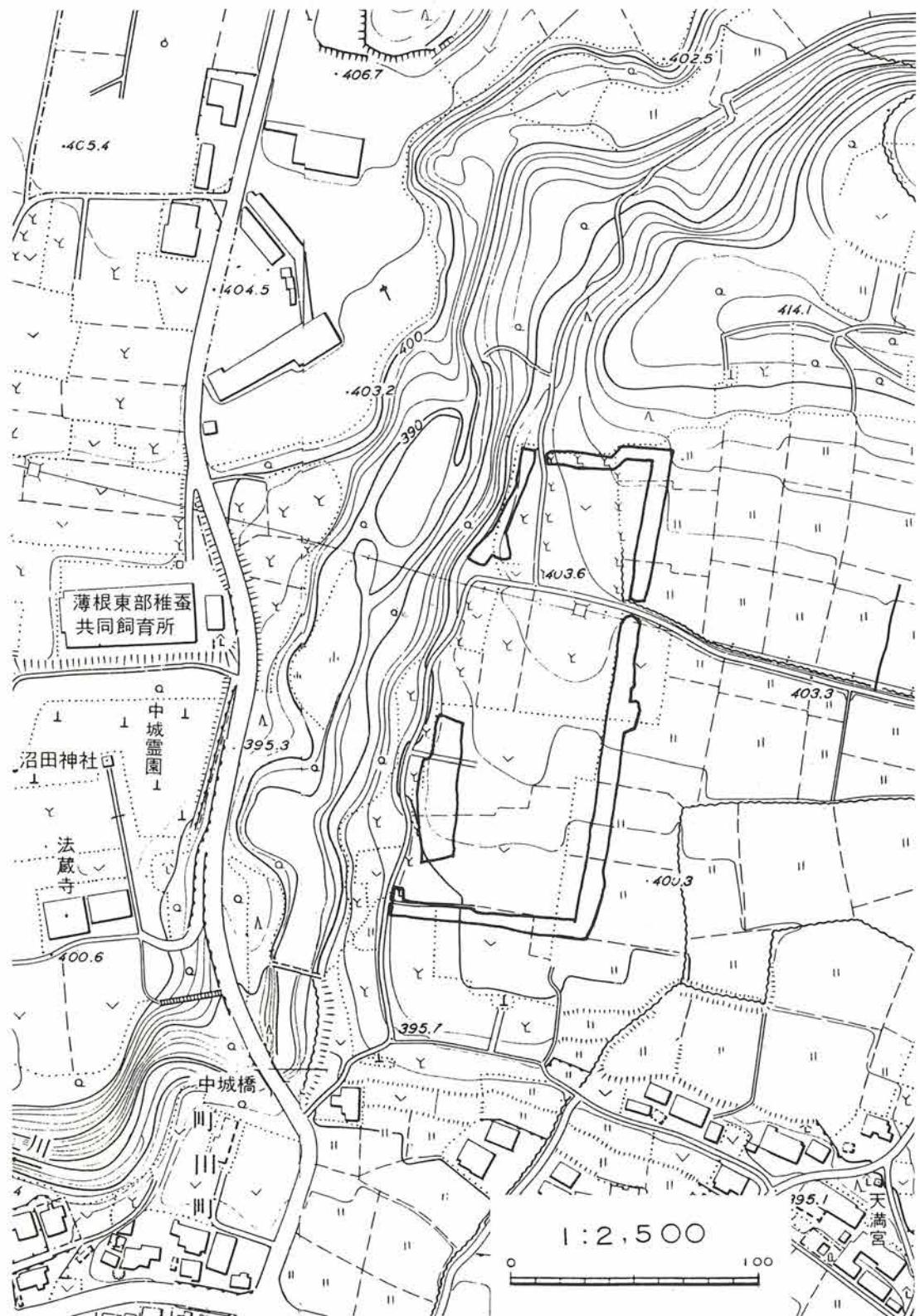
古墳は周辺の山裾に点在しており、発掘調査されているのは、10と14の遺跡の一部のみであるが、他の古墳を含め全て横穴式石室を主体部とした小円墳と考えられる。

奈良・平安時代になると、遺跡及び検出される遺構が増大し2・3・4・5・7・8・9・12・13の遺跡から多くの住居跡等が、2・3の遺跡からは溝で囲まれた「宮田寺」と称する寺跡も検出されている。

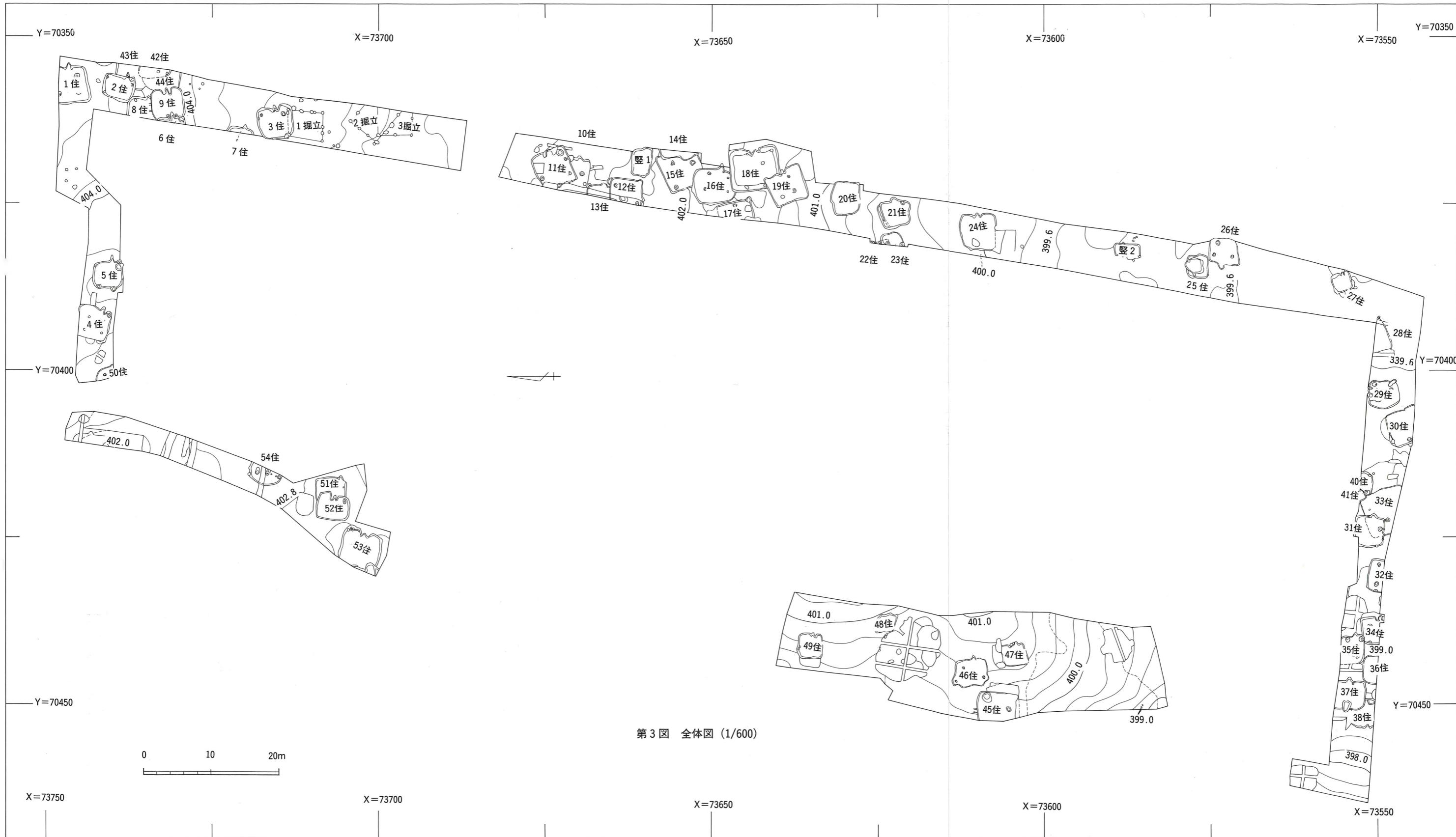


第1図 遺跡の位置と周辺の主な遺跡

- | | | | |
|---------------|--------------|----------|--------------|
| 1 沼田北部地区遺跡群II | 2 沼田北部地区遺跡群I | 3 戸神諏訪遺跡 | 4 沼田北部工業団地遺跡 |
| 5 土塔原遺跡 | 6 戸神吉田遠跡 | 7 石墨遺跡 | 8 町田小沢遺跡 |
| 9 大釜遺跡 | 10 大釜漏1号古墳 | 11 寺入遺跡 | 12 奈良原遺跡 |
| 13 奈良田向遺跡 | 14 奈良古墳群 | 15 鎌倉遺跡 | |



第2図 調査区域と周辺の地形



II 調査の方法と遺跡の概要

1 調査の方法

直接的に地下遺構の破壊が予想される道水路予定地及び掘削予定地において、試掘調査により、遺構の確認された箇所を調査対象とした。平安時代の遺構確認面までは、重機により土を除去しその後手掘りによる発掘作業を実施した。調査の進捗状況に合わせ、写真撮影・遺物分布及び遺構の作図等の記録を行った。図面は調査区域に合わせ、任意のポイントを設定して遺構の大きさ、状況等により1/10、1/20、のいずれかを適宜選択した。また全体図は、1/100で20cmのコンタと公共座標を入れて作成した。

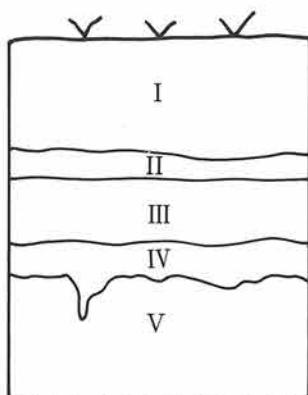
2 遺跡の概要

調査地区域は道水路部分が主な対象となったため、トレンチ状を呈し南北に長い。

検出した遺構は、縄文時代の竪穴住居跡2軒と土壙1基、古墳時代の竪穴住居跡11軒と掘建柱建物跡3棟、奈良・平安時代の竪穴住居跡40軒と土壙1基、竪穴状遺構2基である。遺物も遺構とほぼ同時期の資料が出土している。遺構では、礎石と仕切りを有する大型竪穴住居跡が、遺物では、火災竪穴住居跡から検出された多量の灰釉陶器や鉄鋤先が特筆される。

3 基本層序

調査地区は南北に長く畠地と水田地では一部異なるが、基本的には同様の層序であった。比較的土層の安定している畠地平坦部の土層を基本層序として示すと以下の通りである。

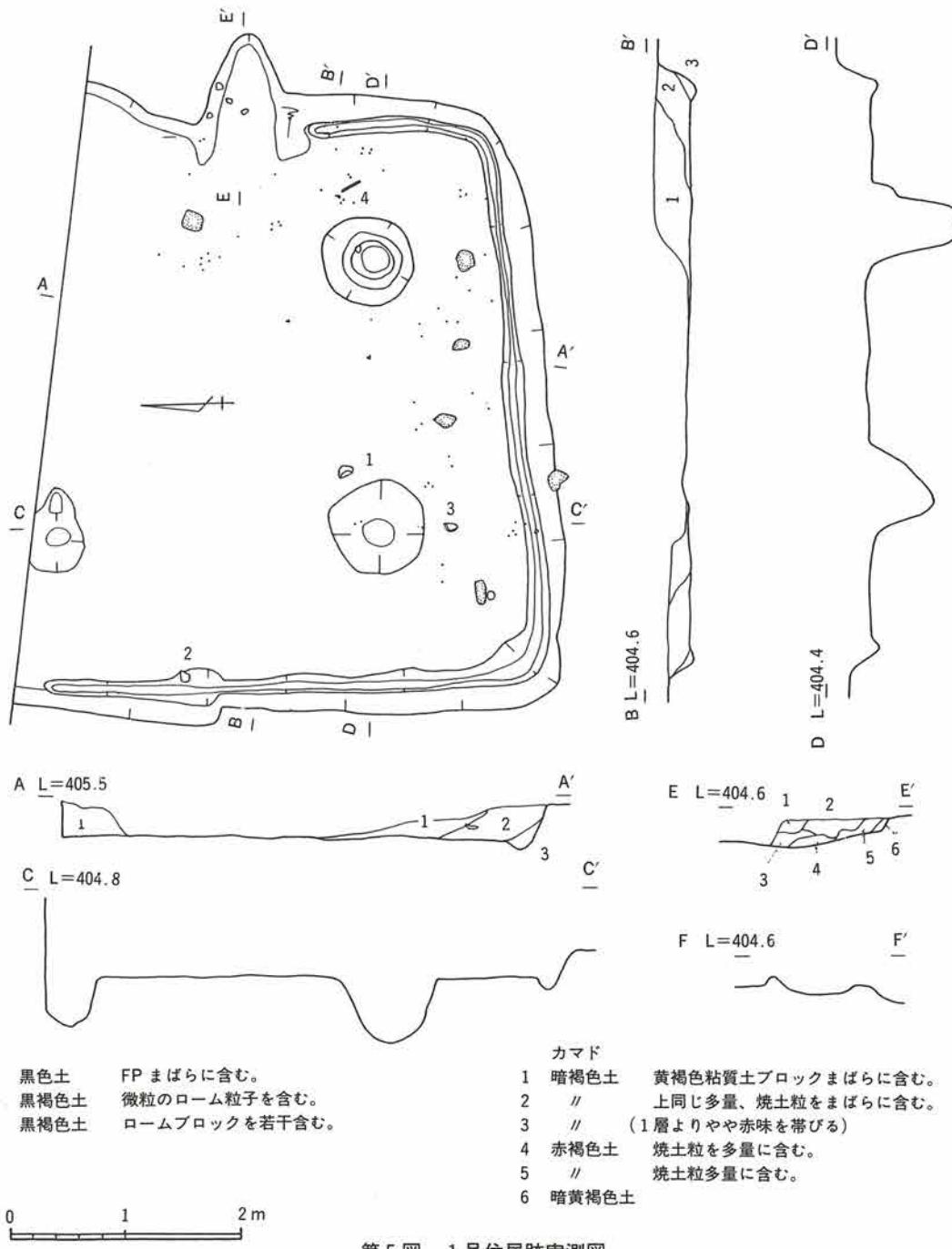


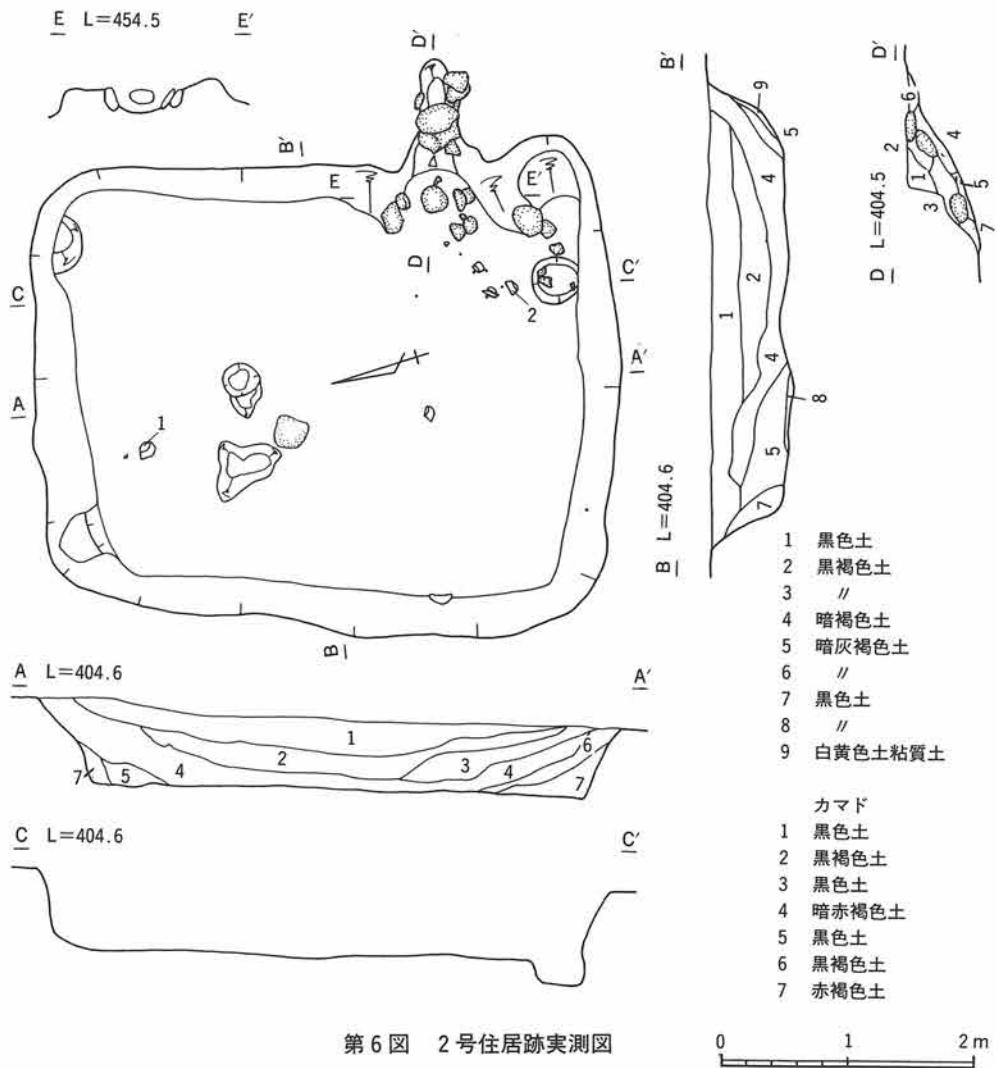
- | | |
|------------|----------------------------------|
| I層 表土。 | 耕作土で浅間B軽石・榛名二ツ岳軽石を多く含む。 |
| II層 黒褐色土。 | 榛名二ツ岳軽石を多量に含む層で低地では軽石の純堆積が認められる。 |
| III層 黒褐色土。 | ややしまりがあり、混入物が少い。遺構確認面。 |
| IV層 褐色土。 | ローム漸移層でローム粒子を少量含む。 |
| V層 黄褐色土。 | ローム層でしまりがある。 |

第4図 基本層序概念図

III 検出された遺構と遺物

1 竪穴住居跡





第6図 2号住居跡実測図

1号竪穴住居跡

調査区北東端に位置する。2号住居跡の北2.6mの地点である。

平面形は、5.40m×4.8m以上を測る隅丸方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で32cmで、一部を除き壁下には浅い周溝が巡る。主軸方位はN-90°-Eを示す。

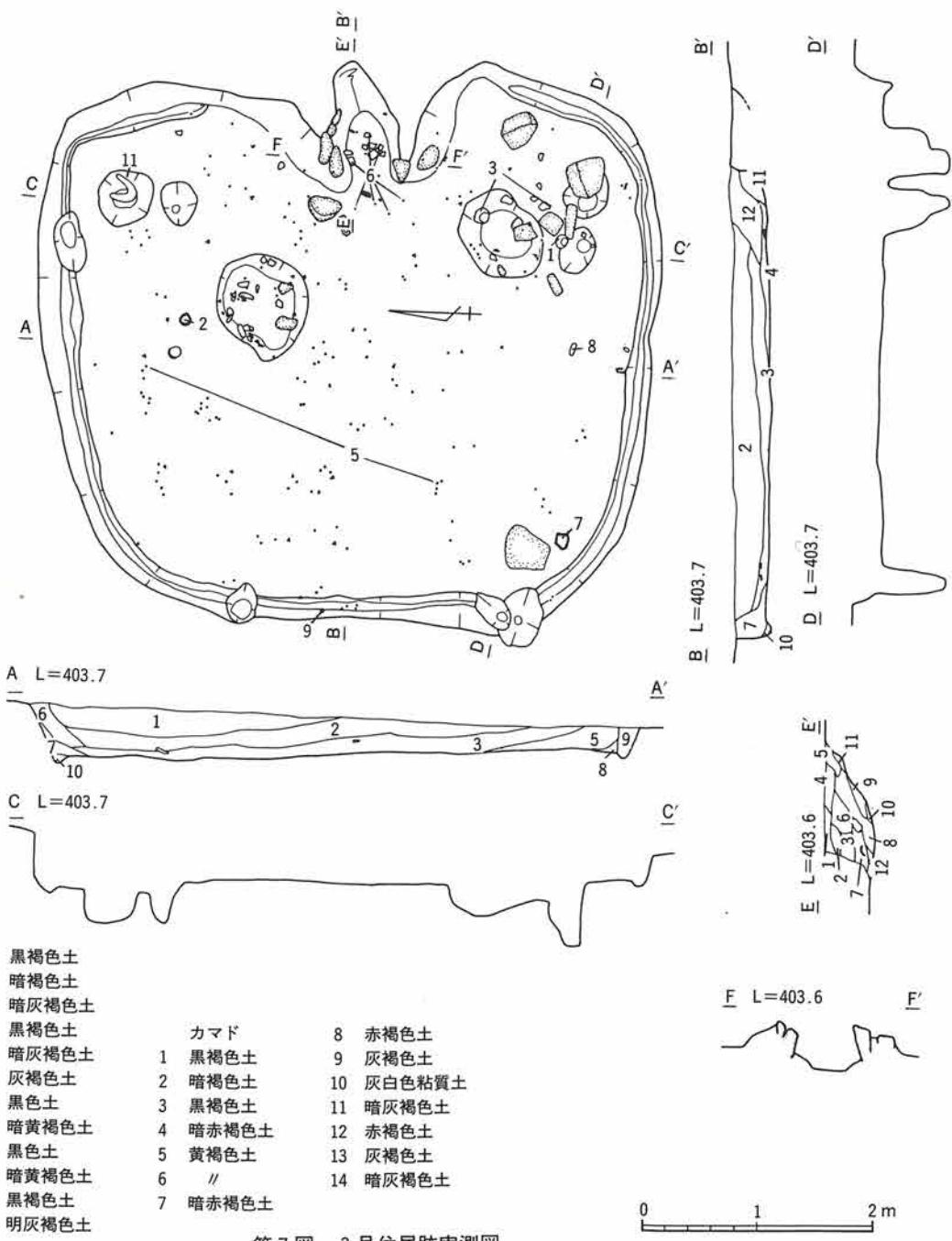
柱穴は調査区外の1本を除き3本が検出された。カマドは東壁中央に設置されている。

出土遺物は破片が多く、カマド前面と南側にまとまりが認められた。墨書き土器と刀子が各1点検出されている。

2号竪穴住居跡

調査区北東側に位置する。南東側が43号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

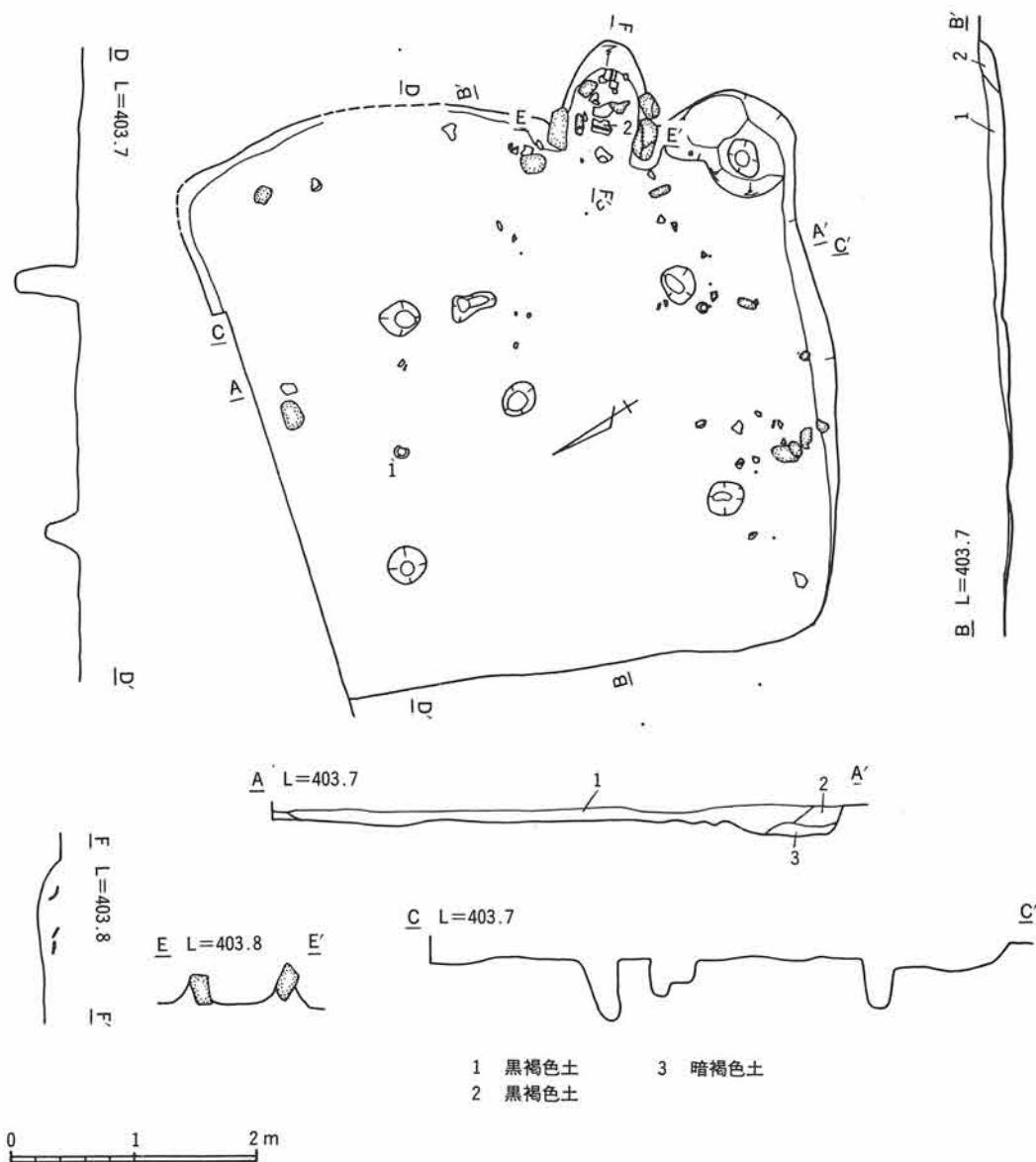
平面形は、3.76m×4.70mを測る隅丸長方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で60cmで



ある。主軸方位はN-74°-Wを示す。

明確な柱穴は検出されなかったが、南東側に貯蔵穴の施設か検出された。カマドは、石組みで東壁南寄りに設置されている。

出土遺物は少ないが、カマド前方右側にややまとまりが認められた。



第8図 4号住居跡実測図

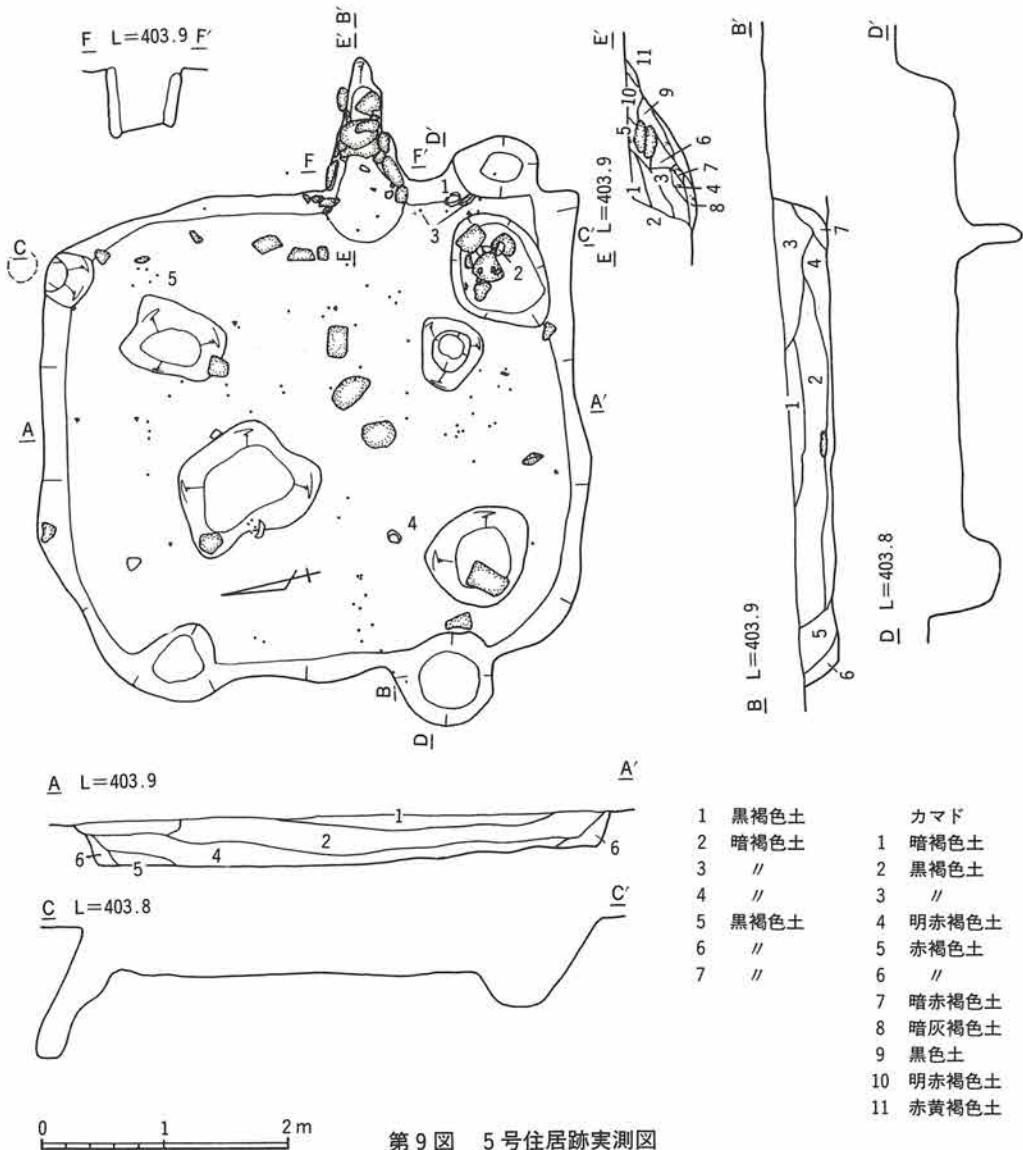
3号竪穴住居跡

調査区北側に位置する。7号住居跡の南1.6mの地点である。

平面形は5.00m×5.43mを測る隅丸方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で44cmで、壁下には周溝が巡る。主軸方位は、N-88°-Eを示す。

柱穴は8本検出されたが、同時存在は4本である。貯蔵穴は南東側に位置する。カマドは石組みで東壁中央に設置されている。

出土遺物は多く主に土器が占めるが、鉄鋤先と石製勾玉が特異である。



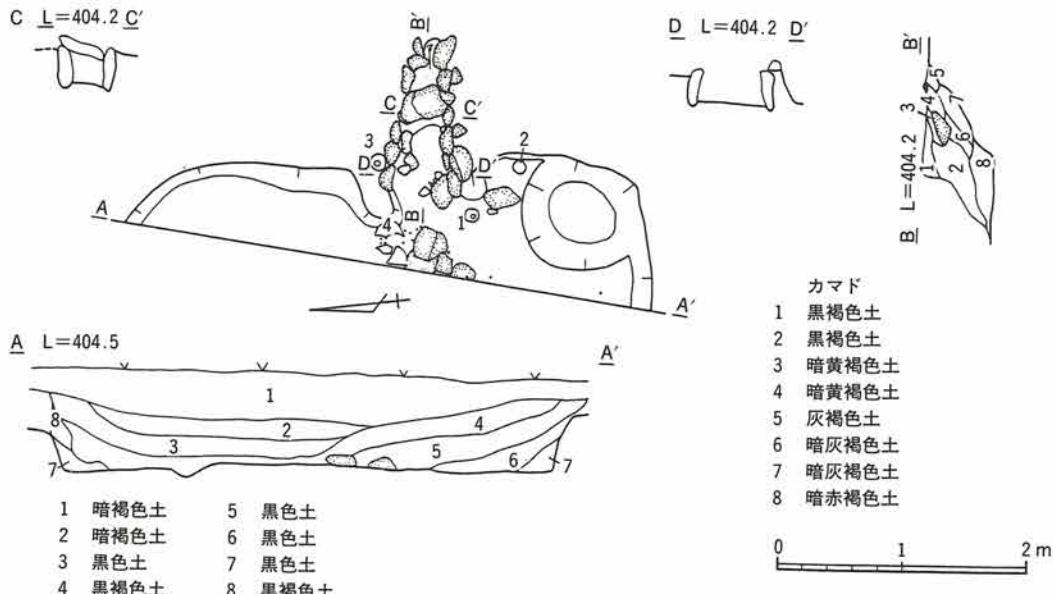
第9図 5号住居跡実測図

4号竪穴住居跡

調査区北側に位置する。5号住居跡の西3.2mの地点である。

平面形は $4.61m \times 4.98m$ を測る隅丸方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で21cmである。主軸方位は、N-62°-Wを示す。

柱穴は6本検出されたが、主柱穴は4本である。南東コーナーには貯蔵穴が設置される。カマドは石組みで東壁南寄りに設置されている。



第10図 6号住居跡実測図

5号竪穴住居跡

調査区北側に位置する。4号住居跡の東3.2mの地点である。

平面形は3.92m×4.41mを測る隅丸方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で46cmである。主軸方位は、N-81°-Wを示す。

柱穴は6本検出されたが、主柱穴は4本である。南東側には貯蔵穴が設置される。カマドは石組みで東壁やや南寄りに設置されている。

出土遺物は多く検出されたが、土器は破片がほとんどである。墨書き土器が2点存在する。

6号竪穴住居跡

調査区北東側に位置する。東側は9号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

調査した部分は東側のみであるが、平面形は南北4.20mを測る隅丸方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で44cmである。主軸方位は、N-84°-Wを示す。

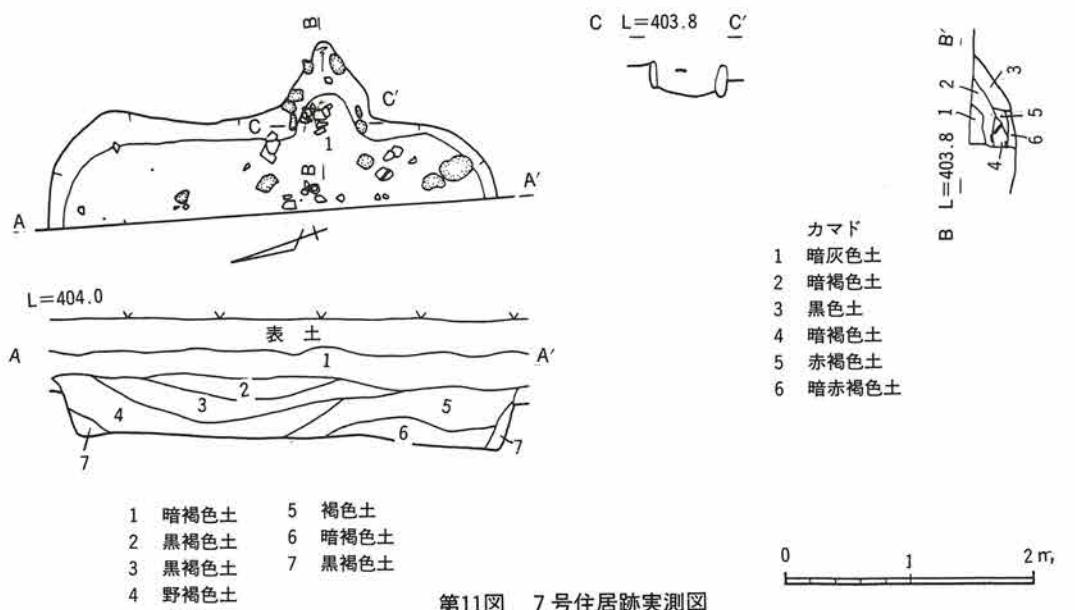
柱穴の存在は不明であるが、南東コーナーに貯蔵穴が設置される。カマドは石組みで東壁ほぼ中央に設置されている。

出土遺物はカマド周辺に検出され、完形土器が多い。

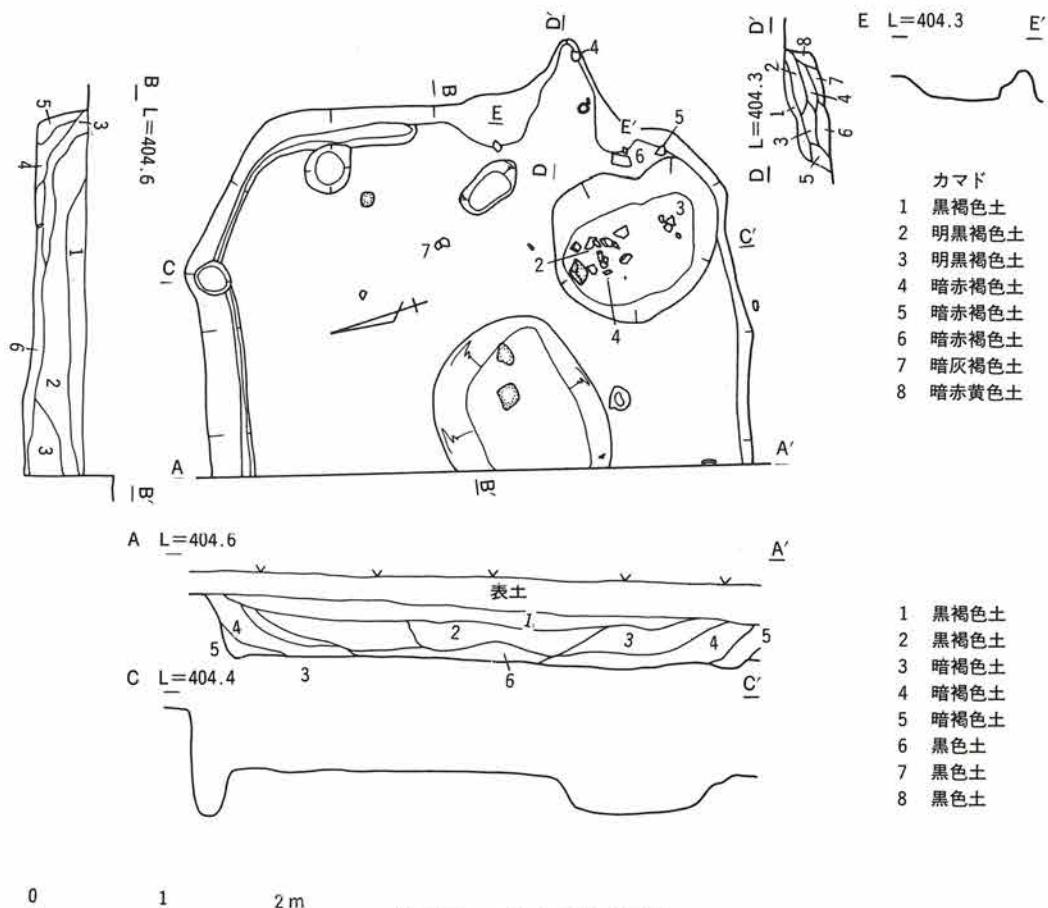
7号竪穴住居跡

調査区北東側に位置する。3号住居跡の北側1.6mの地点である。

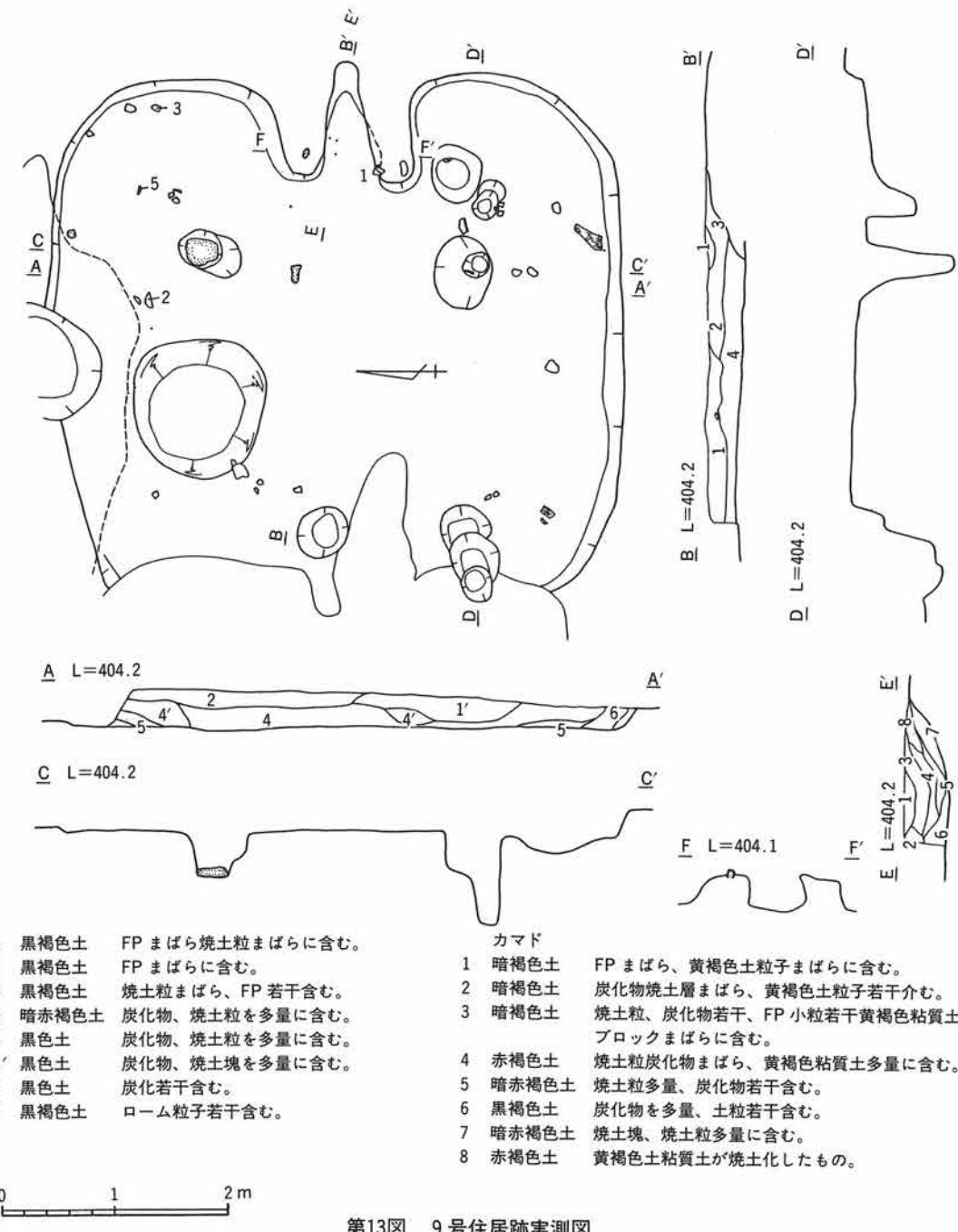
調査した部分は東側のみであるが、平面形は南北3.60mを測る隅丸方形状を呈し、壁高は比較



第11図 7号住居跡実測図



第12図 8号住居跡実測図

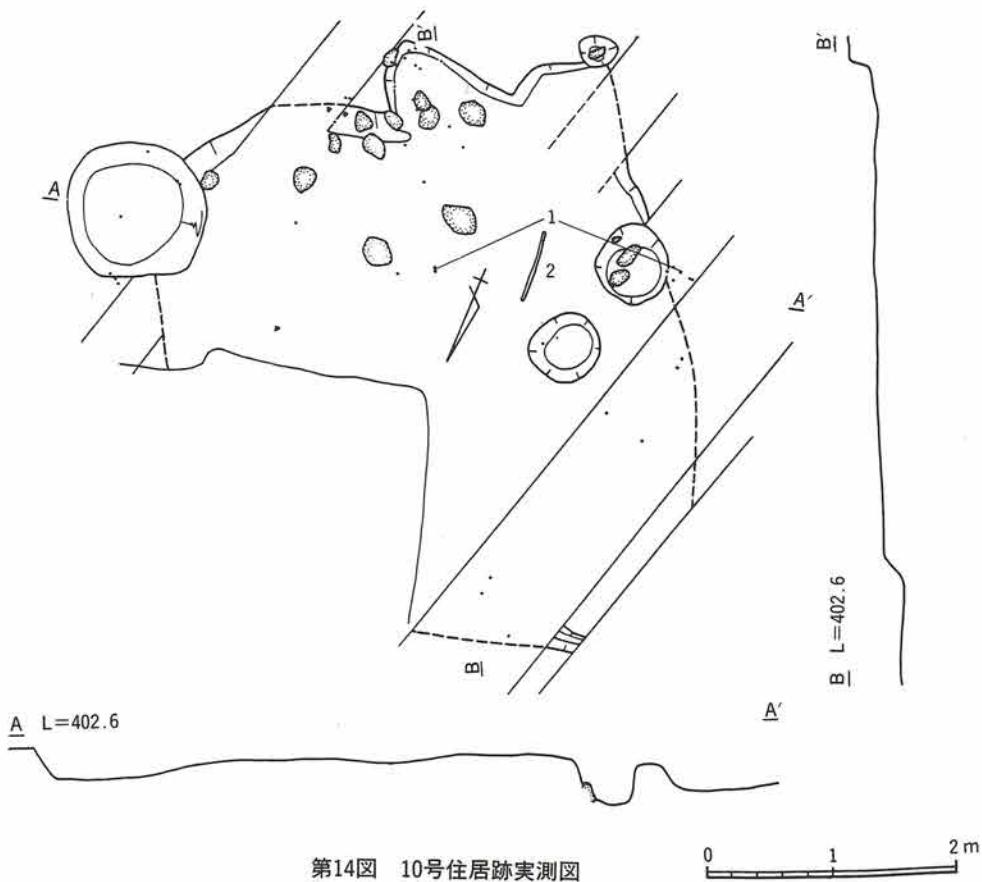


第13図 9号住居跡実測図

的残りの良い部分で35cmである。主軸方位は、N-75°-Wを示す。

柱穴は未検出である。カマドは石組みで東壁やや南寄りに設置されている。

出土遺物は比較的多いが、破片がほとんどである。カマド周辺にややまとまりが認められた。



第14図 10号住居跡実測図

8号竪穴住居跡

調査区北東側に位置する。南側が9号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

西側は未調査であるが、平面形は南北4.20mを測る隅丸方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で46cmである。主軸方位は、N-73°-Wを示す。

柱穴は2本検出された。南側には床下土壙状の落ち込みが2ヵ所認められた。カマドは東壁南寄りに設置されている。

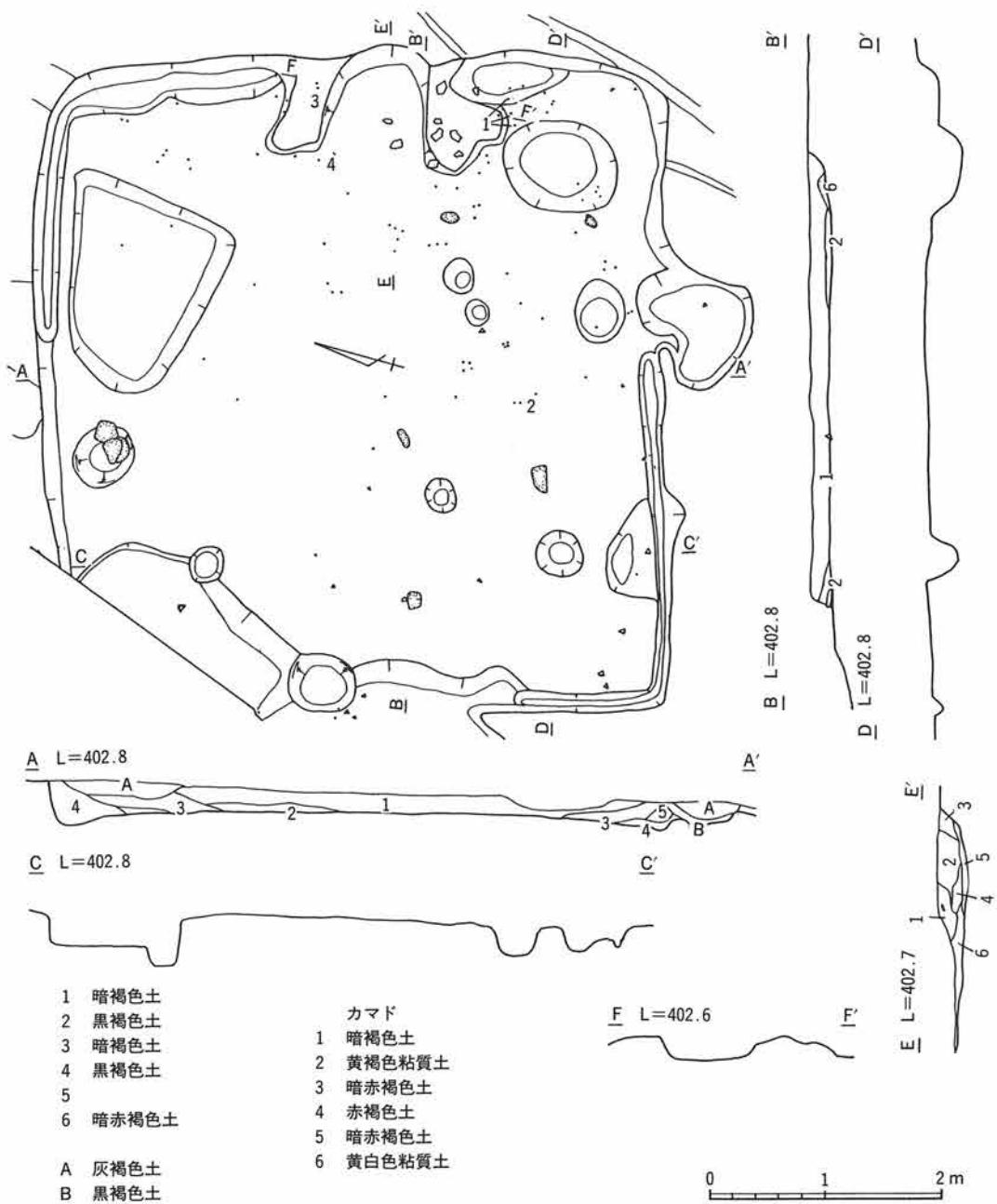
出土遺物はやや少ないが南側土壙内にまとまりが認められた。墨書き土器が1点検出されている。

9号竪穴住居跡

調査区北東側に位置する。西及び北側が6・8号住居跡と重複し、本住居跡が8号住居跡より新しく6号住居跡より古い。

平面形はほぼ4.7m×5.11mを測る隅丸方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で22cmである。主軸方位は、N-87°-Eを示す。

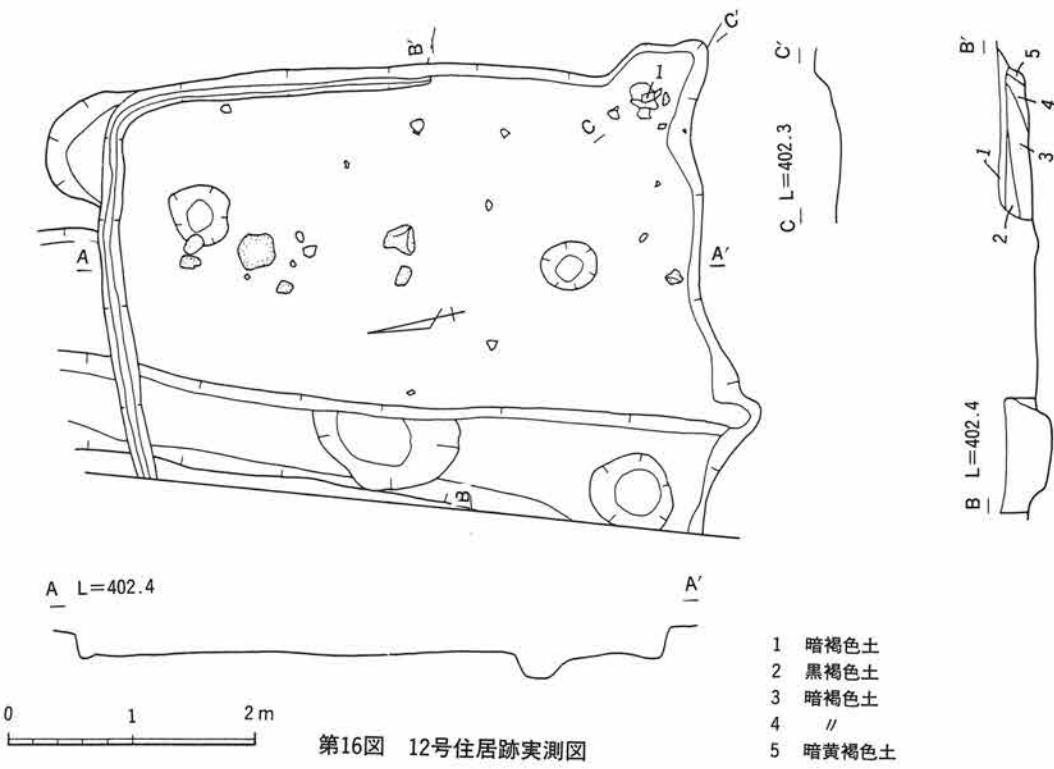
柱穴は7本検出された。北東側柱穴内には礎石状の平石が認められた。貯蔵穴はカマド右側に



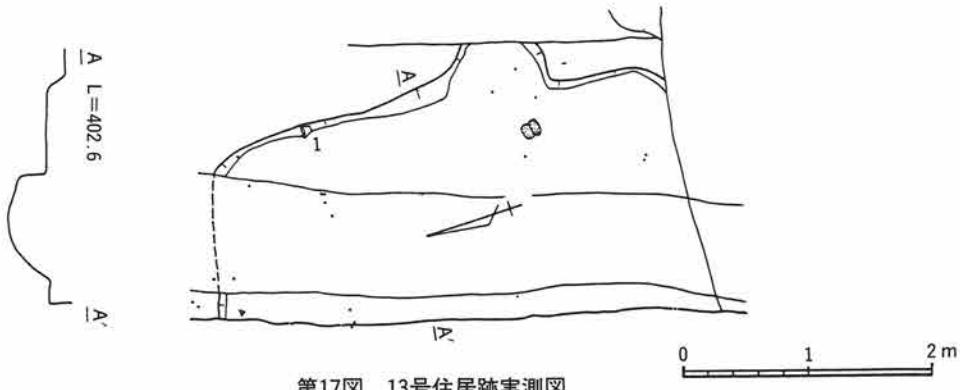
第15図 11号住居跡実測図

に検出された。カマドは東壁に設置されている。

出土遺物は少ないが鉄製品2点が認められた。



第16図 12号住居跡実測図



第17図 13号住居跡実測図

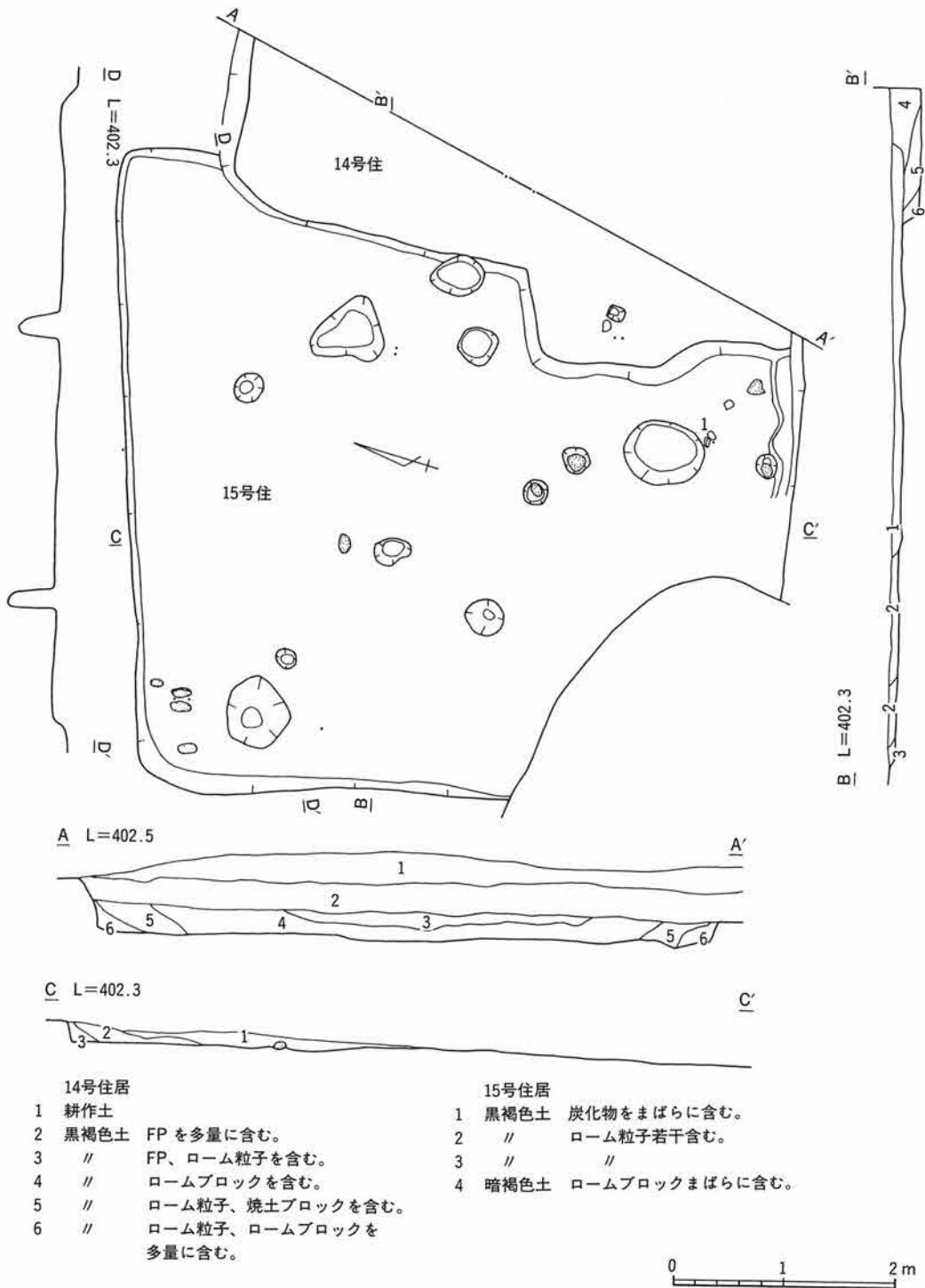
10号竪穴住居跡

調査区東側に位置する。北側は11号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

平面形は攪乱が著しいため不明瞭であるが、 $4.1m \times 4.1m$ 程を測る方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で21cmである。主軸方位は、N-33°-Wを示す。

柱穴は2本検出されたが、本住居に付随するものか不明確である。カマドは東壁に設置されている。

出土遺物は少ないが不明鉄製品1点が検出されている。

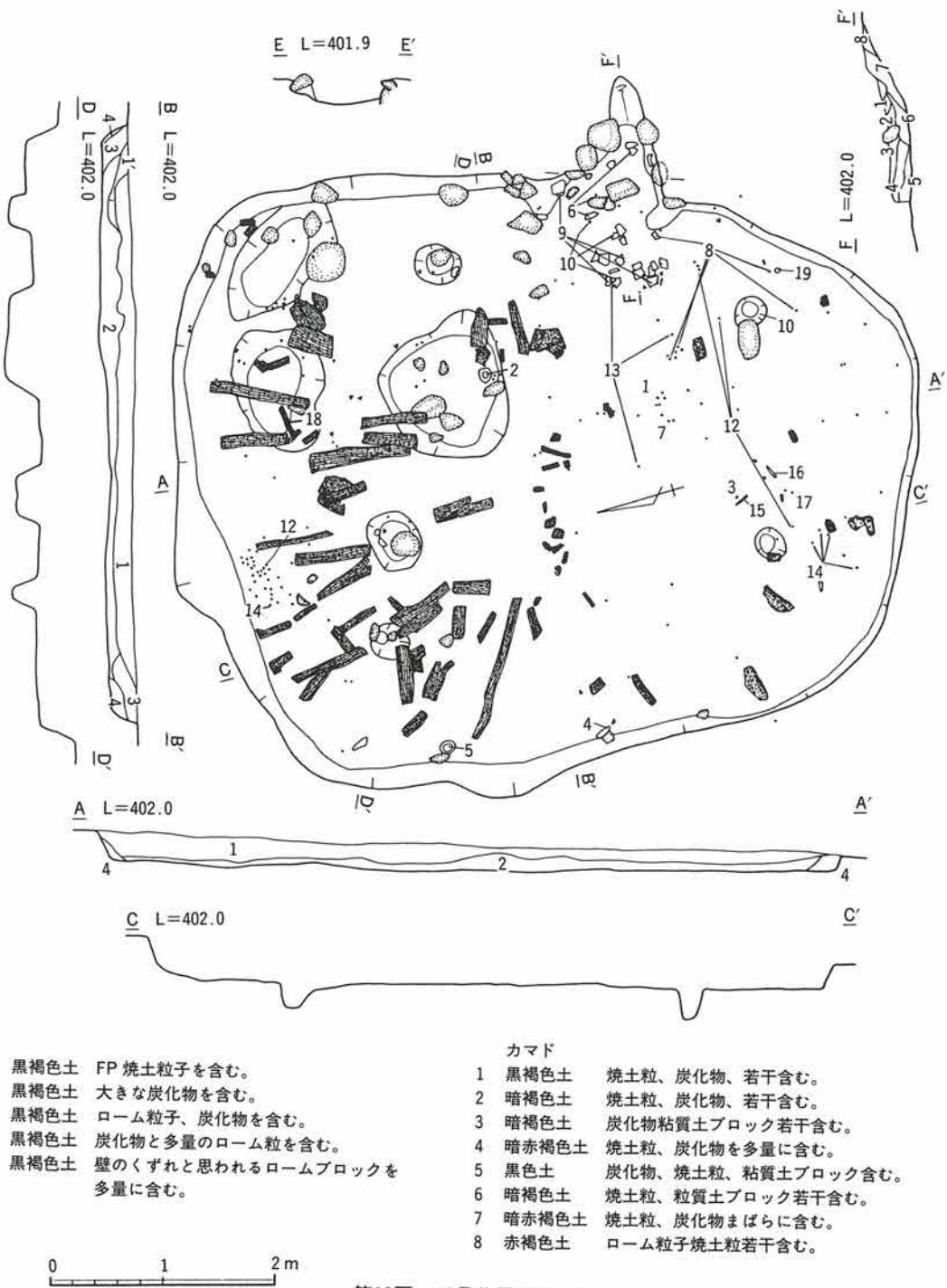


第18図 14、15号住居跡実測図

11号竪穴住居跡

調査区東側に位置する。南側は10号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

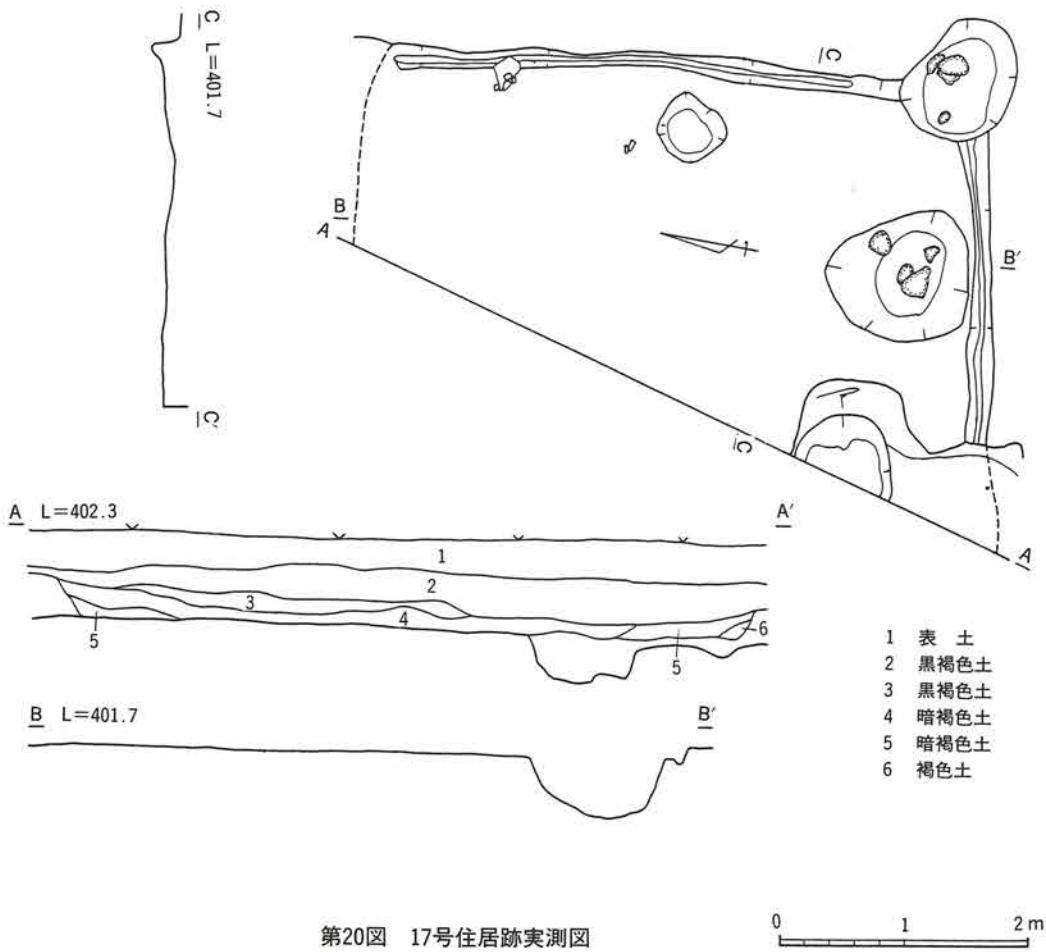
平面形は $5.67m \times 5.38m$ 程を測る方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で27cmで北東コーナー側と南東コーナー側には周溝が巡る。主軸方位は、N-73°-Eを示す。



第19図 16号住居跡実測図

柱穴は6本検出された。南コーナーには貯蔵穴状の施設が認められた。カマドは東壁中央に設置されている。

出土遺物はカマドから貯蔵穴付近にかけてややまとまりが認められたが、小破片がほとんどである。石製紡錘車が1点検出されている。



第20図 17号住居跡実測図

0 1 2 m

12号竪穴住居跡

調査区東側に位置する。北側は13号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

西側は未調査であるが、平面形は南北4.88m程を測る方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で21cmで、東壁から北壁にかけて浅い周溝が巡る。主軸方位は、N-81°-Wを示す。

柱穴は3本検出された。カマドは南東コーナーに設置されている。

出土遺物は少ない。

13号竪穴住居跡

調査区東側に位置する。南側は12号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

平面形は西側が未調査で、調査部分も搅乱が激しいため不明瞭であるが南北3.7m以上を測る方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で16cmである。主軸方位は、N-84°-Wを示す。

柱穴、貯蔵穴とも未検出。カマドは東壁に設置されている。

出土遺物は少ない。

14号竪穴住居跡

調査区東側に位置する。西側は15号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

平面形は未調査部分が多いが、南北5.5m以上を測る方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で30cmである。主軸方位は、N-85°-Eを示す。

柱穴、貯蔵穴、カマドとも未検出。

出土遺物は少ない。

15号竪穴住居跡

調査区東側に位置する。東側は14号住居跡と南西は16号住居跡と重複し、いずれの住居跡より本住居跡が古い。

平面形は5.81m×6.10mを測る方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で18cmである。主軸方位は、N-73°-Eを示す。

柱穴は3本検出されたが、主柱穴は北側の2本以外は不明確である。

出土遺物は少ない。

16号竪穴住居跡

調査区東側に位置する。北側は15号住居跡と南側は18号住居跡と重複し、いずれの住居跡より本住居跡が新しい。

平面形は5.42m×6.60mを測る不整隅丸長正方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で40cmである。主軸方位は、N-74°-Eを示す。

柱穴は6本検出されたが、4本主柱穴である。カマドは石組みで、東壁に設置されている。

本住居跡は火災住居であるため、北側を主に炭化材が良好に残存していた。

出土遺物は多量に認められたが特に灰釉陶器が多く検出され、図示したものだけで12点を数える。また、鉄製品も紡錘車を含め5点検出した。

17号竪穴住居跡

調査区東側に位置する。16号住居跡の西に近接した地点である。

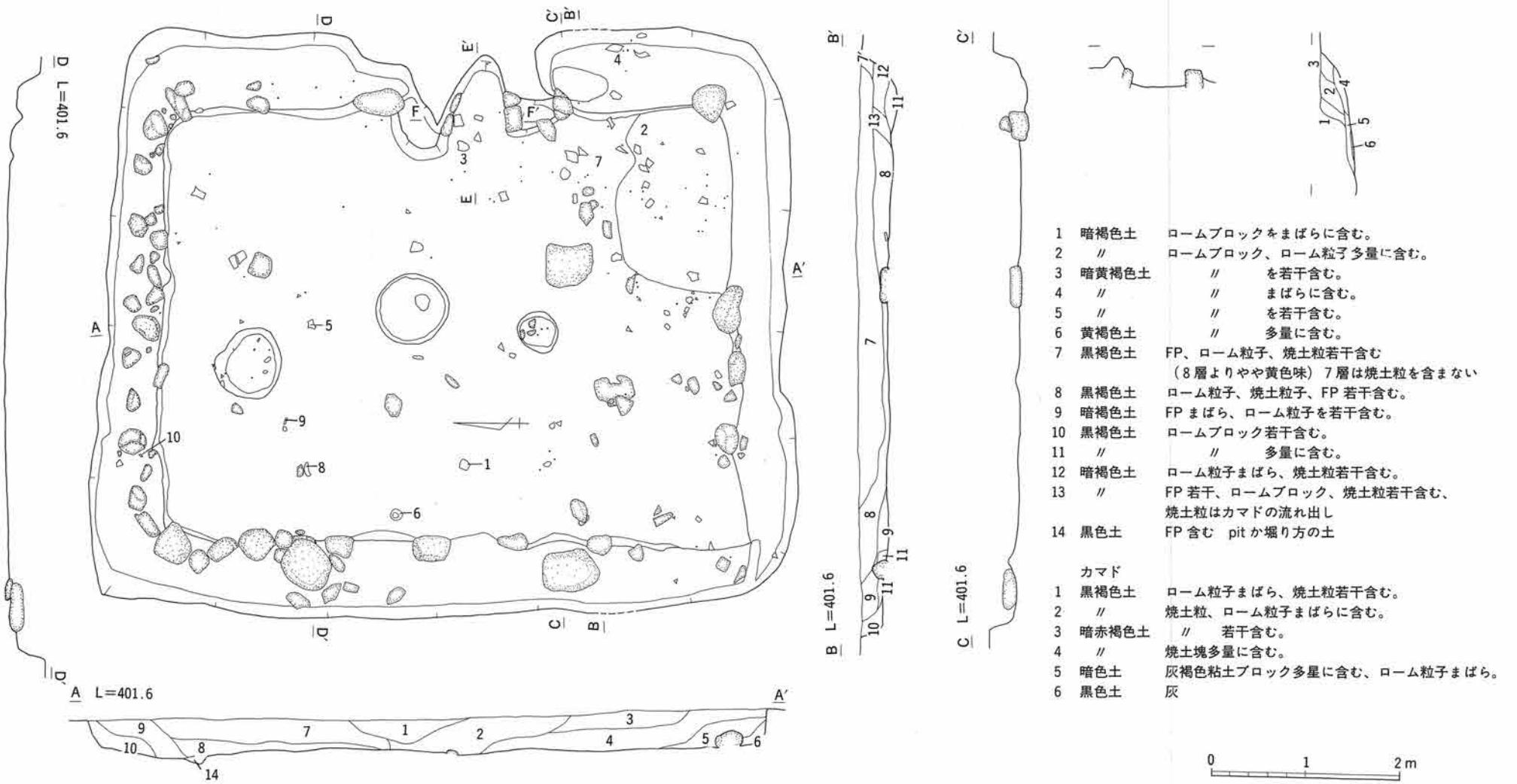
平面形は西側が未調査であるが、南北5.07mを測る正方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で15cmであり、東壁から南壁にかけて浅い周溝が巡る。主軸方位は、N-81°-Eを示す。

柱穴1本と土壙を検出したが、本住居跡に伴うものか明確ではない。

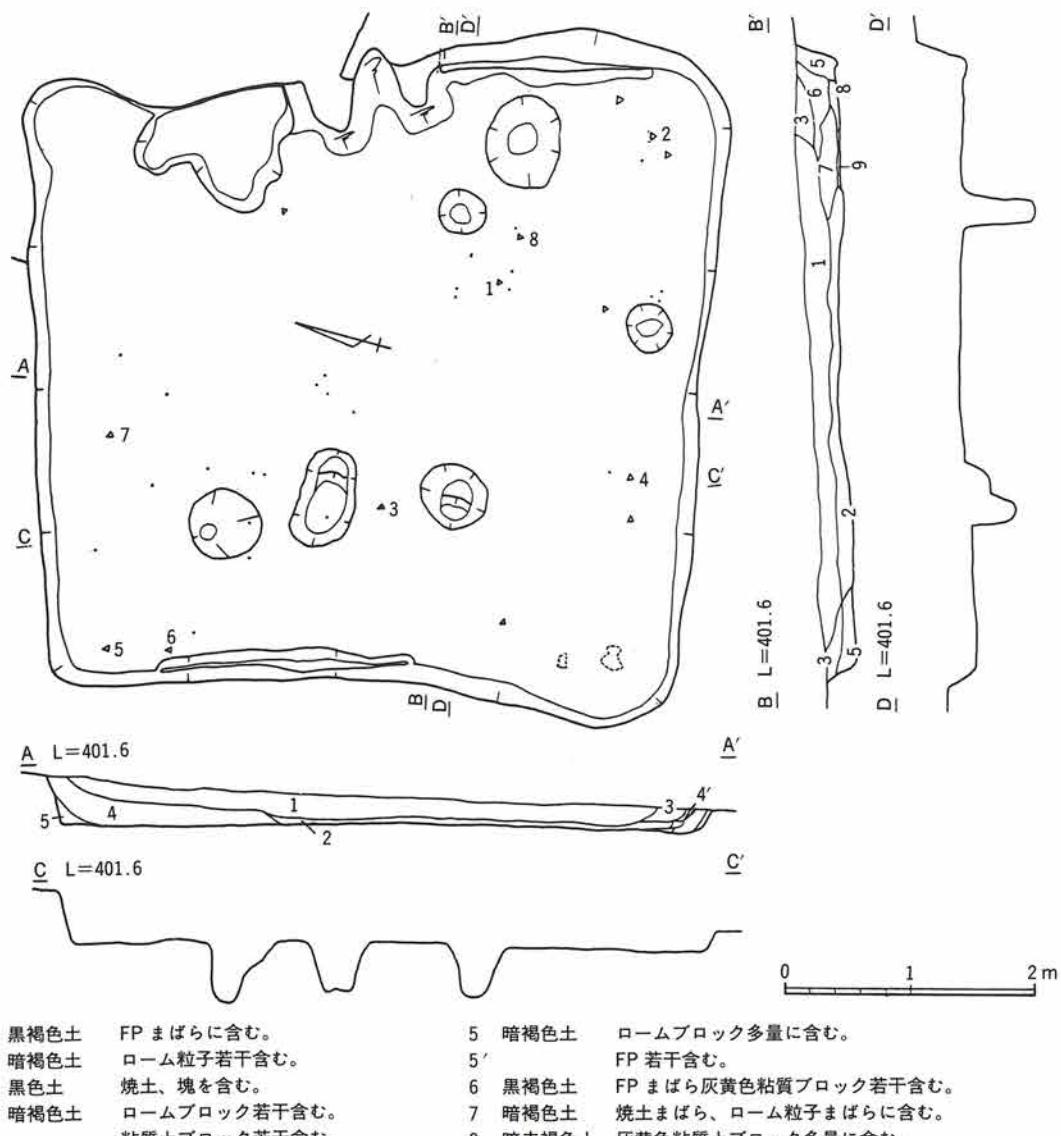
出土遺物は少ない。

18号竪穴住居跡

調査区東側に位置する。16号住居跡と、南側が19号住居跡と重複し、いずれの住居跡よりも古



第21図 18号住居跡実測図

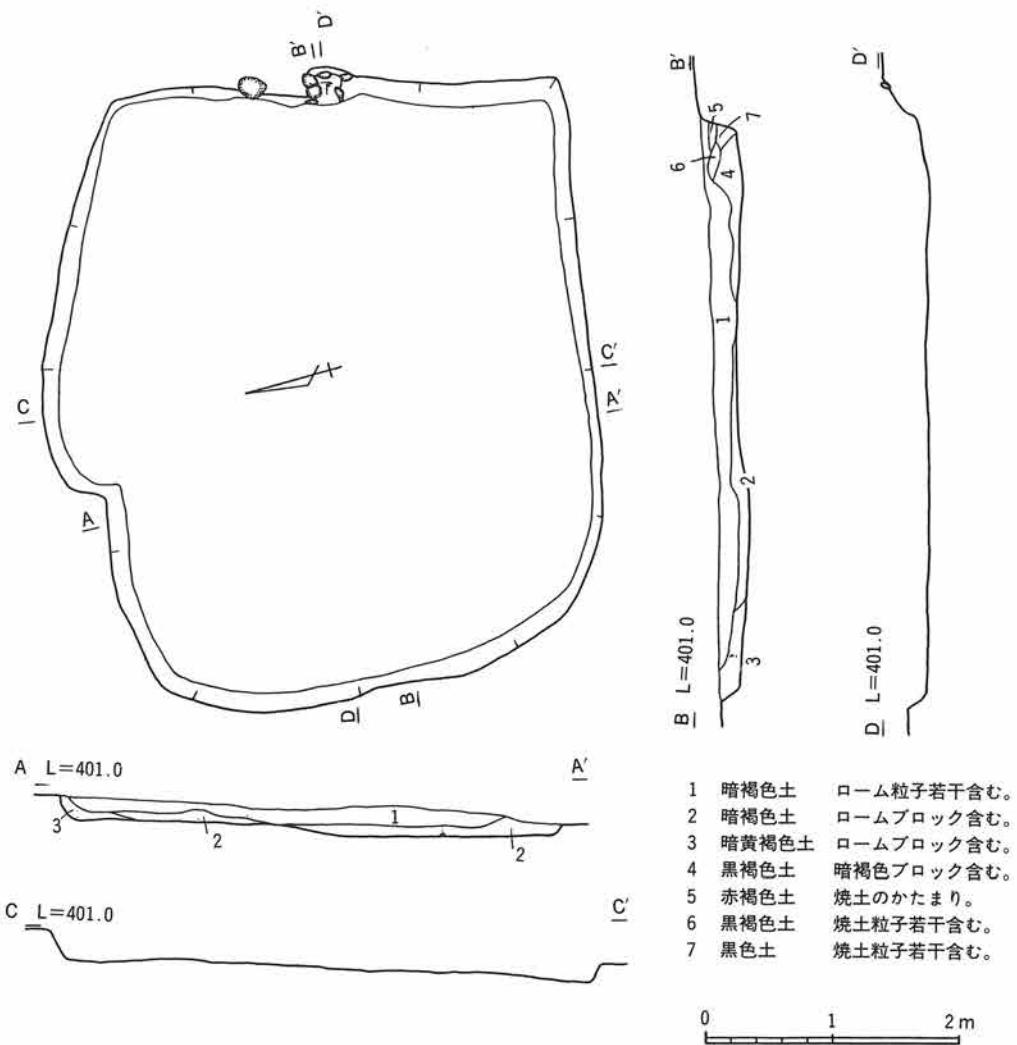


第22図 19号住居跡実測図

。

平面形は $6.17m \times 7.23m$ を測る隅丸長方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で40cmである。主軸方位は、N-90°-Eを示す。

壁から60~90cmの範囲の内側に石を多く設置した仕切り状の施設を検出した。柱穴は未検出であるが、床面上に設置された50cm大の礎石状の平石3点が検出された。カマドは、石組みで東壁ほぼ中央に設置されている。



第23図 20号住居跡実測図

出土遺物は多いが、破片が多数を占める。分布は南東側にまとまりが認められた。鉄鎌が2点と石帶が1点検出されている。

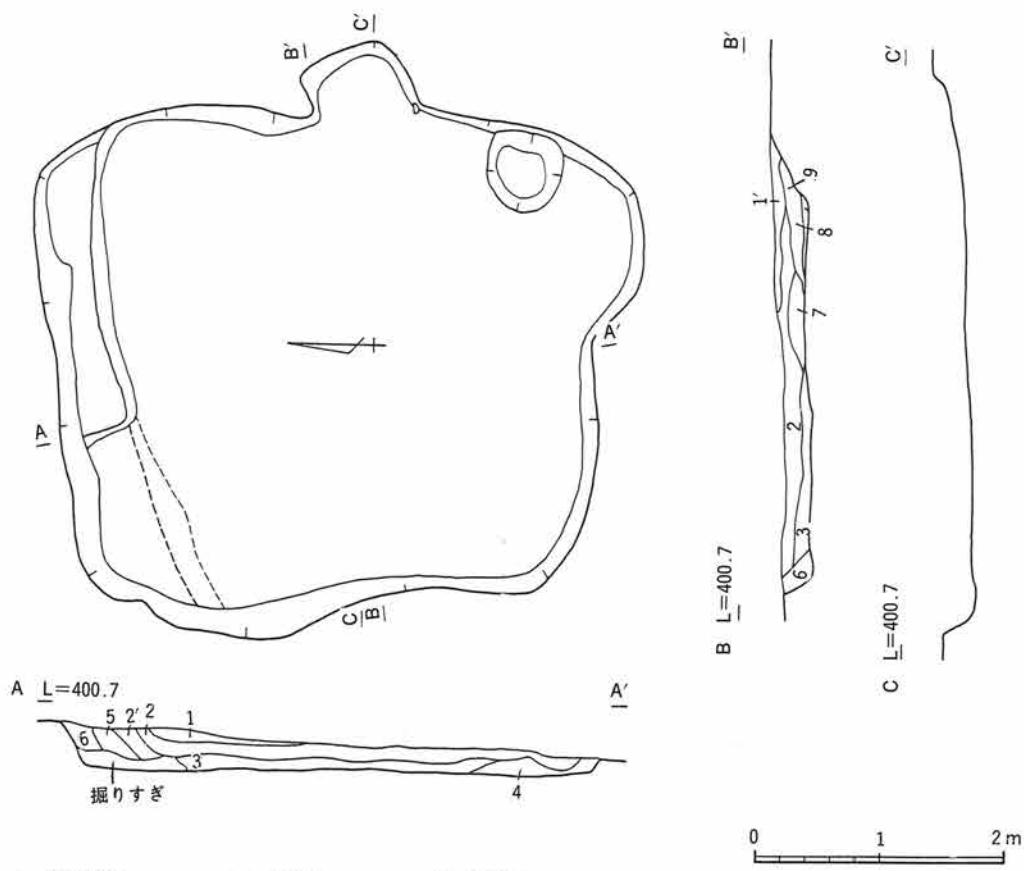
19号竪穴住居跡

調査区東側に位置する。北側が18号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

平面形は $5.21m \times 5.45m$ を測る隅丸方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で42cmである。主軸方位は、N-76°-Eを示す。

柱穴は5本検出された。カマドは東壁中央に設置されている。

出土遺物は少ないが、編物石が8点検出された。



第24図 21号住居跡実測図

20号竪穴住居跡

調査区東側に位置する。19号住居跡の南3.3mの地点である。

平面形は4.86m×4.33mを測る不整方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で29cmである。主軸方位は、N-74°-Wを示す。

柱穴等は未検出。カマドは石組みで、東壁中央に設置されている。

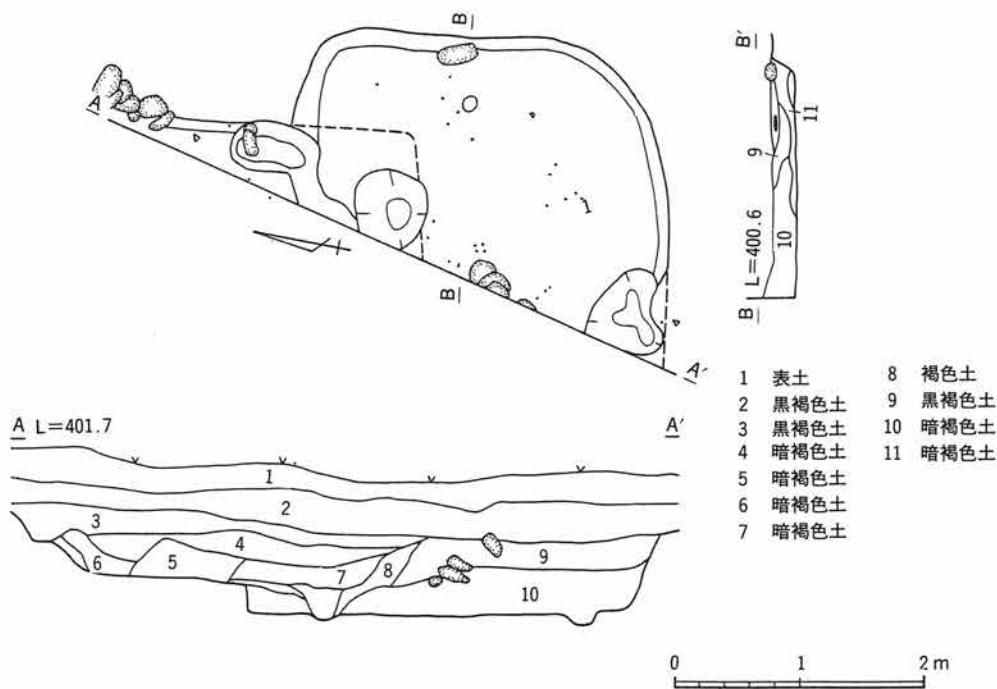
出土遺物はない。

21号竪穴住居跡

調査区東側に位置する。23号住居跡の東に近接した地点である。

平面形は4.22m×4.32mを測る不整隅丸方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で30cmである。主軸方位は、N-88°-Eを示す。

柱穴は未検出であるが、南東に貯蔵穴状の施設を確認した。カマドは、東壁ほぼ中央に設置さ



第25図 22、23号住居跡実測図

れている。

出土遺物は検出されなかった。

22号竪穴住居跡

調査区東側に位置する。23号住居跡と南側が重複し、本住居跡が新しい。

東端一部分のみの調査で、大部分が未調査であるため平面形、規模は不明である。壁高は比較的残りの良い部分で40cmである。主軸方位は、N-77°-Eを示す。

柱穴状の落ち込みは2ヵ所検出された。カマドは石組みで、東壁に設置されている。

出土遺物は僅かである。

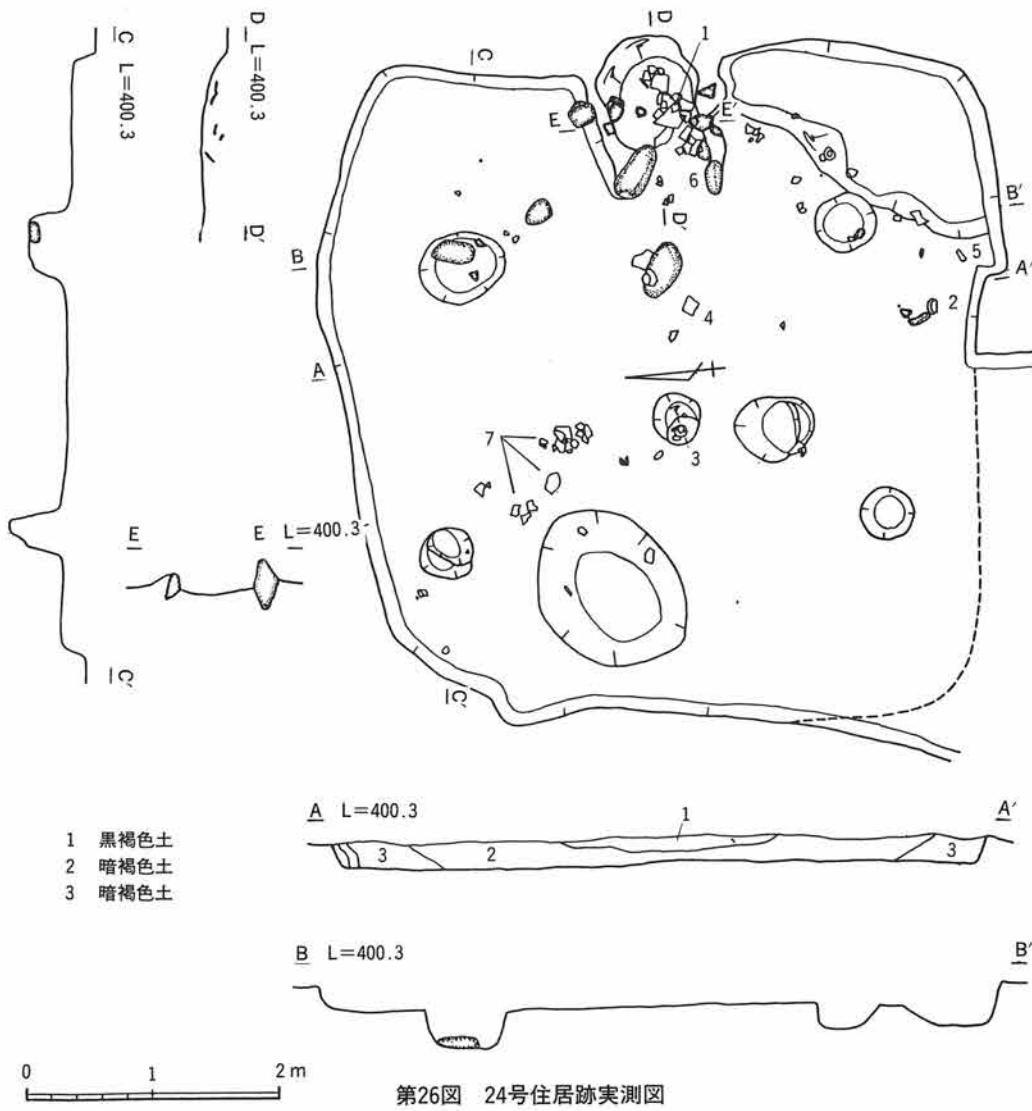
23号竪穴住居跡

調査区東側に位置する。北側が22号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

平面形は西側が未調査であるが南北2.95mを測る隅丸方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で19cmである。主軸方位は、N-77°-Eを示す。

明確な柱穴、カマドは未検出である。

出土遺物は少量である。



第26図 24号住居跡実測図

24号竪穴住居跡

調査区東側に位置する。21号住居跡南側7.4mの地点である。

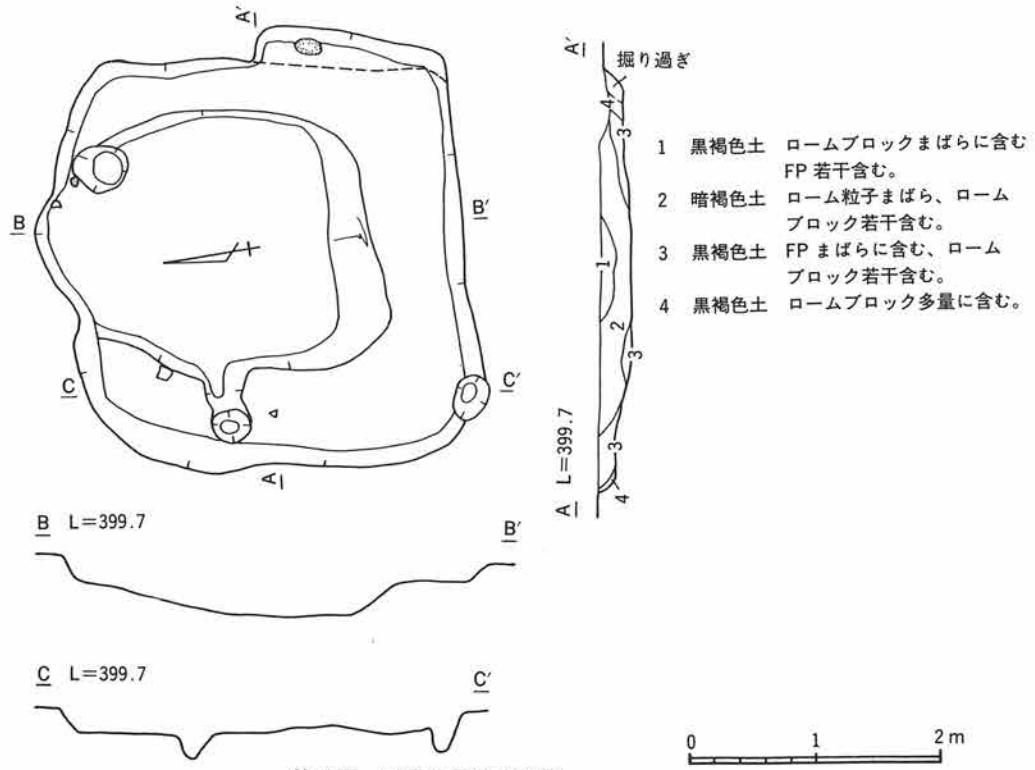
平面形は5.08m×5.33mを測る方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で22cmである。主軸方位は、N-87°-Wを示す。

柱穴は6本検出されたが4本主柱である。カマドは石組みで、東壁中央に設置されている。

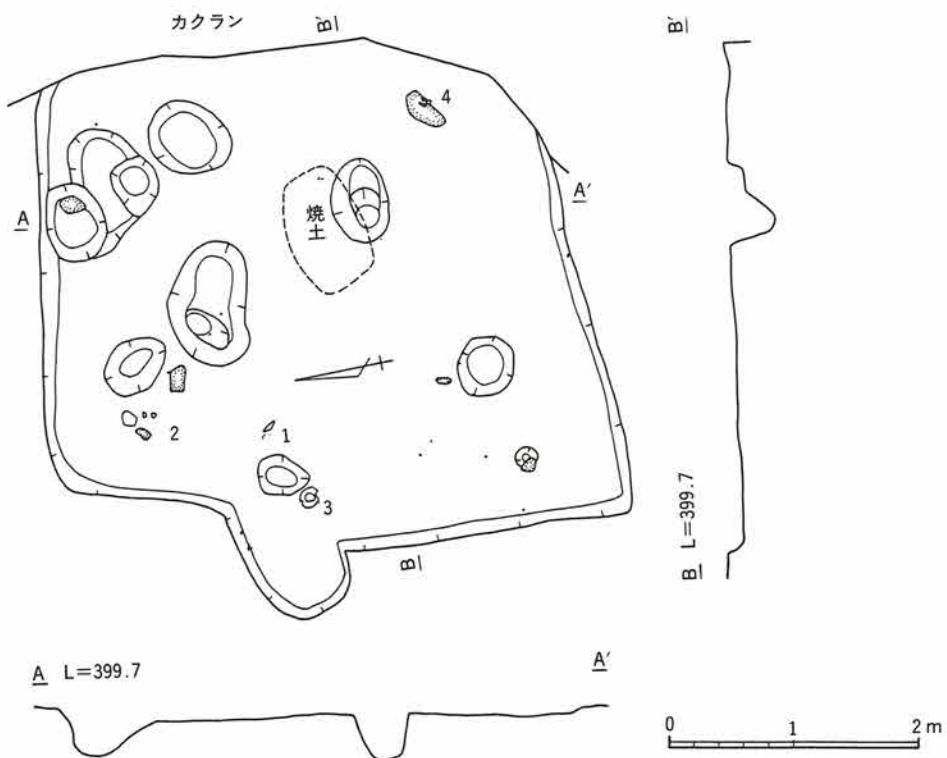
出土遺物は、カマド周辺と中央部付近にややまとまりが認められた。鉄鎌が1点検出されている。

25号竪穴住居跡

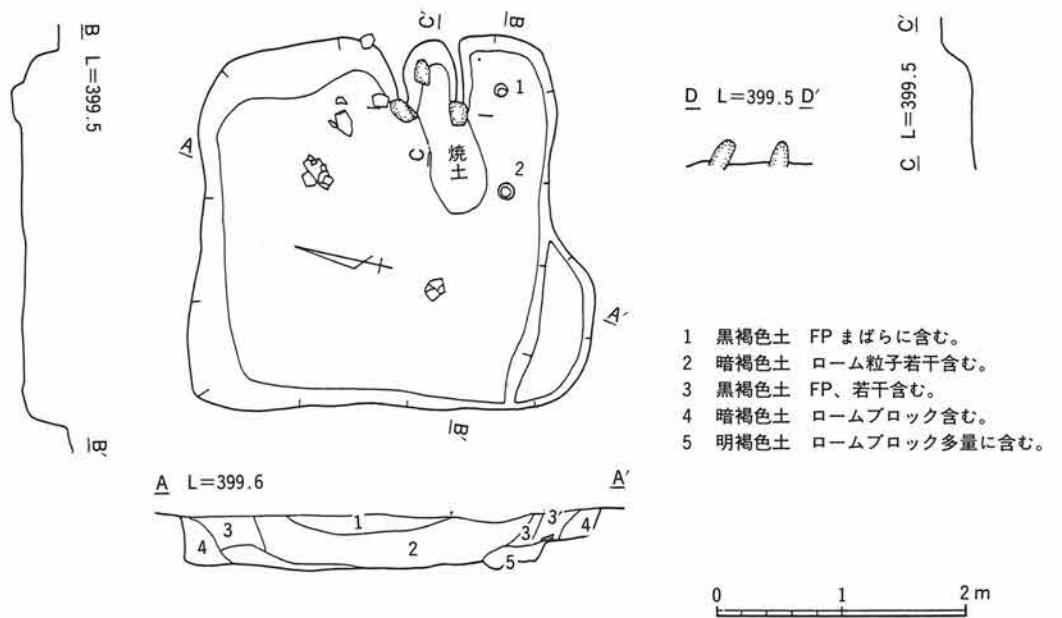
調査区南東側に位置する。26号住居跡の北西に近接した地点である。



第27図 25号住居跡実測図

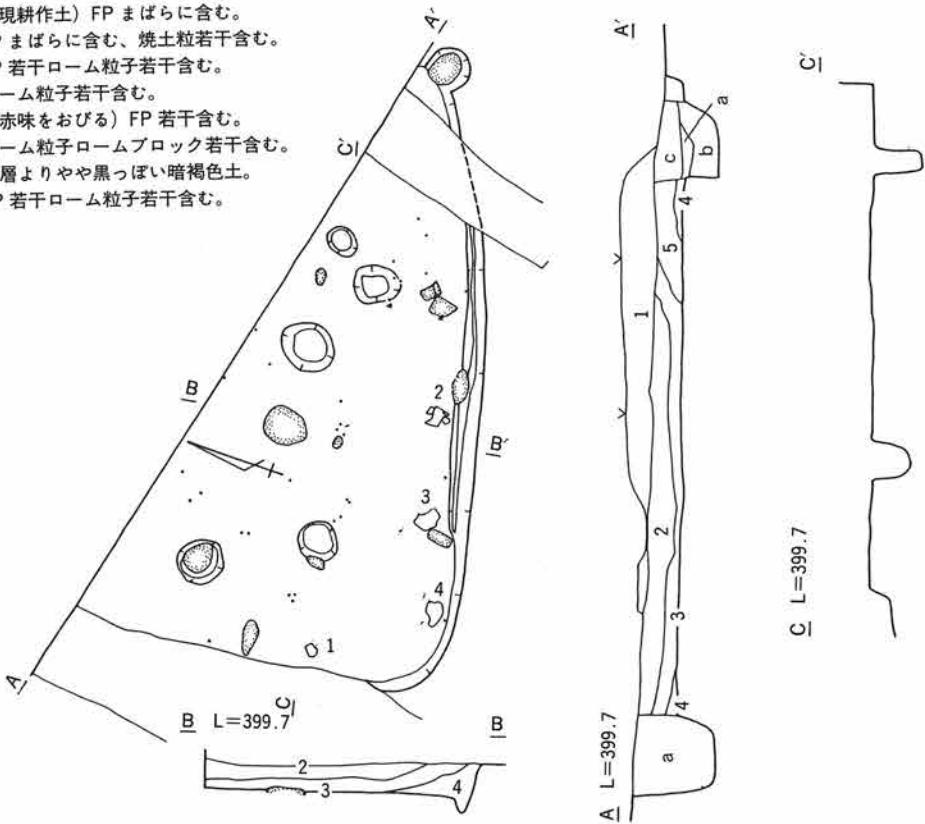


第28図 26号住居跡実測図

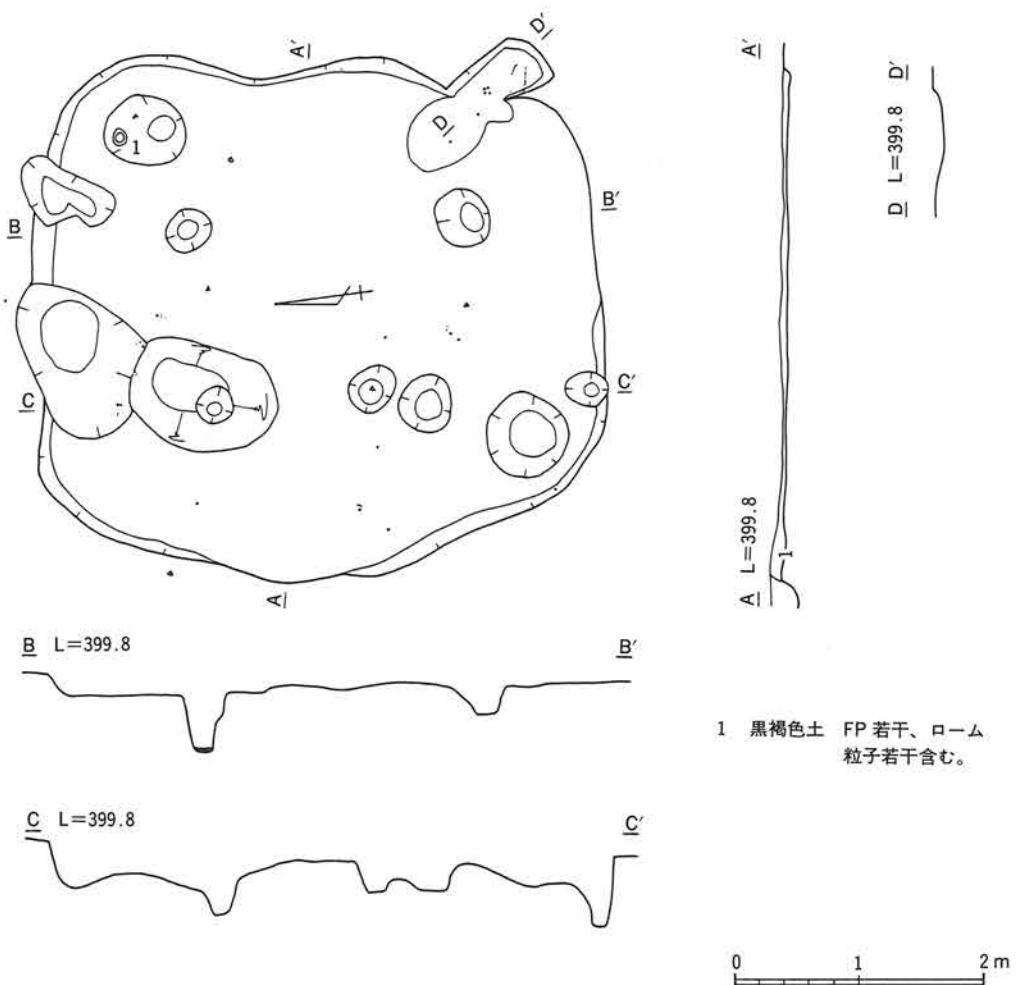


第29図 27号住居跡実測図

- 1 暗褐色土 (現耕作土) FP まばらに含む。
- 2 黒褐色土 FP まばらに含む、焼土粒若干含む。
- 3 黒褐色土 FP 若干ローム粒子若干含む。
- 4 黒色土 ローム粒子若干含む。
- 5 暗褐色土 (赤味をおびる) FP 若干含む。
- a 暗褐色土 ローム粒子ロームブロック若干含む。
- b // a層よりやや黒っぽい暗褐色土。
- c 黒褐色土 FP 若干ローム粒子若干含む。



第30図 28号住居跡実測図



第31図 29号住居跡実測図

平面形は $3.32m \times 3.19m$ を測る不整隅丸方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で24cmである。主軸方位は、N-85°-Wを示す。

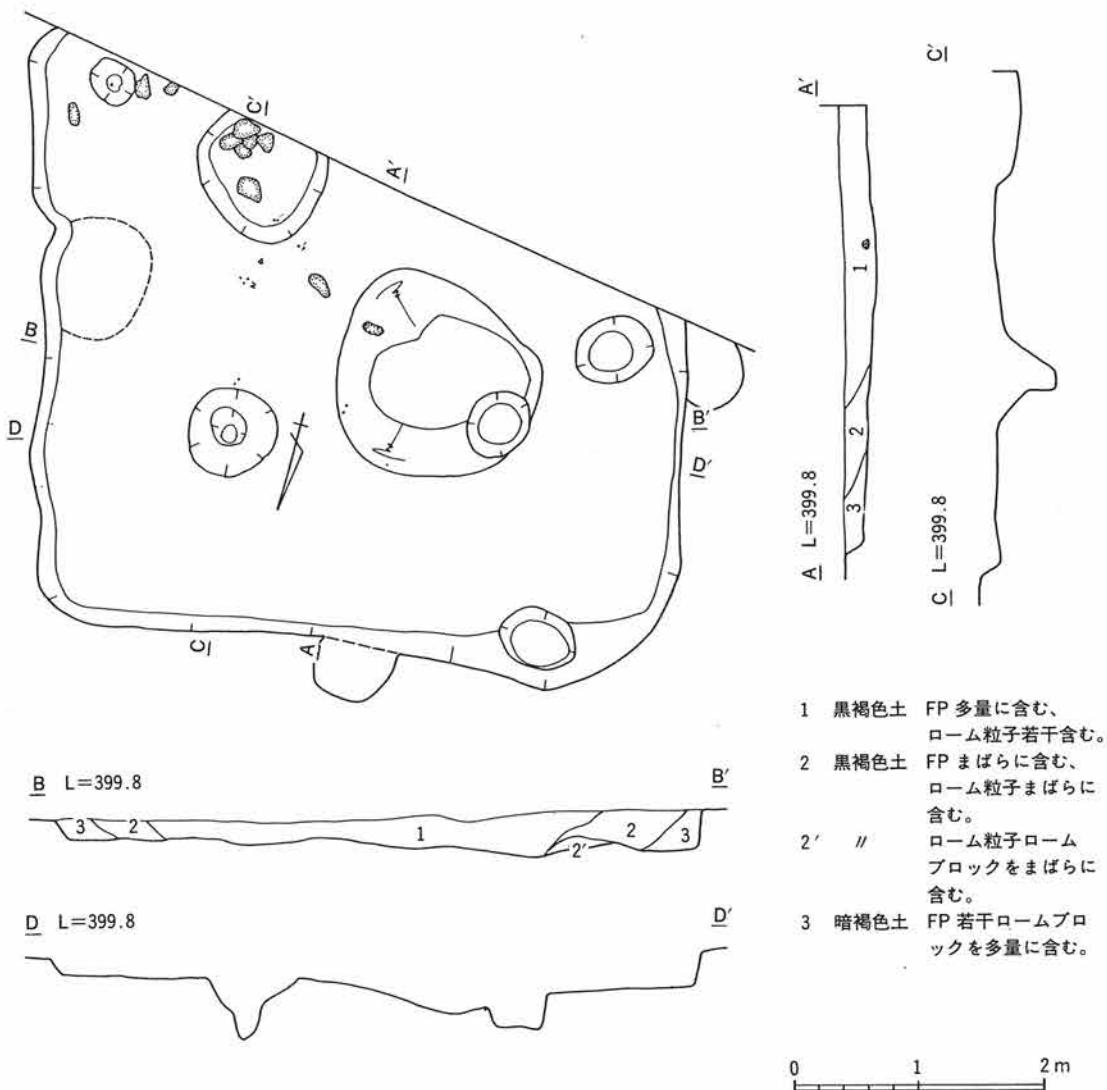
中央から北側にかけて1段低い落ち込み部分が認められた。柱穴は3本検出されたが、カマドは未検出である。

出土遺物は少い。

26号竪穴住居跡

調査区南東側に位置する。25号住居跡の南東に近接する地点である。

平面形は東側が未調査であるが南北 $4.42m$ を測る不整形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で14cmである。主軸方位は、N-80°-Wを示す。



第32図 30号住居跡実測図

柱穴は9ヵ所確認された。カマドは調査区外のため未検出である。

出土遺物は僅かである。

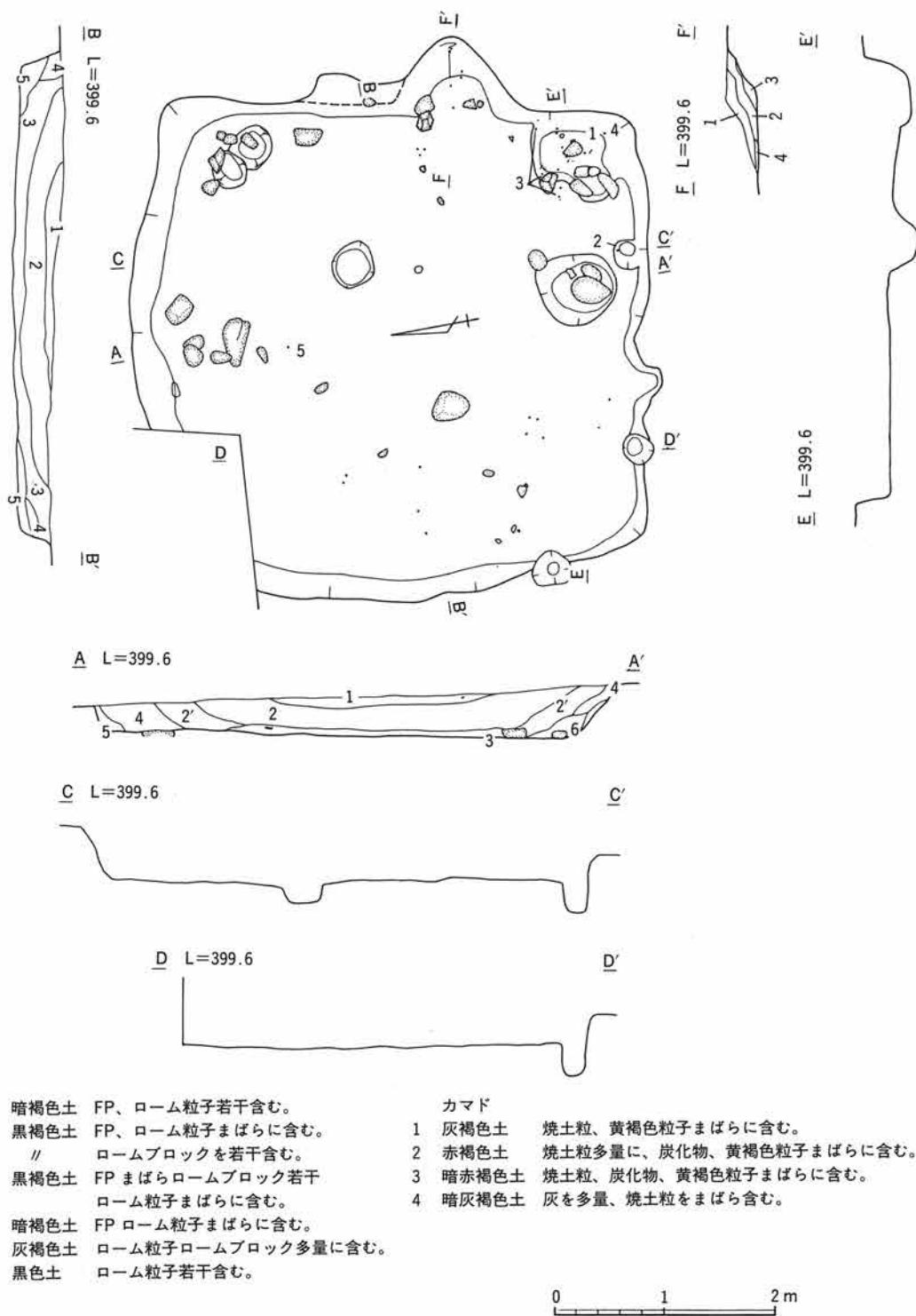
27号住居跡

調査区南東に位置する。26号住居跡の南14mの地点である。

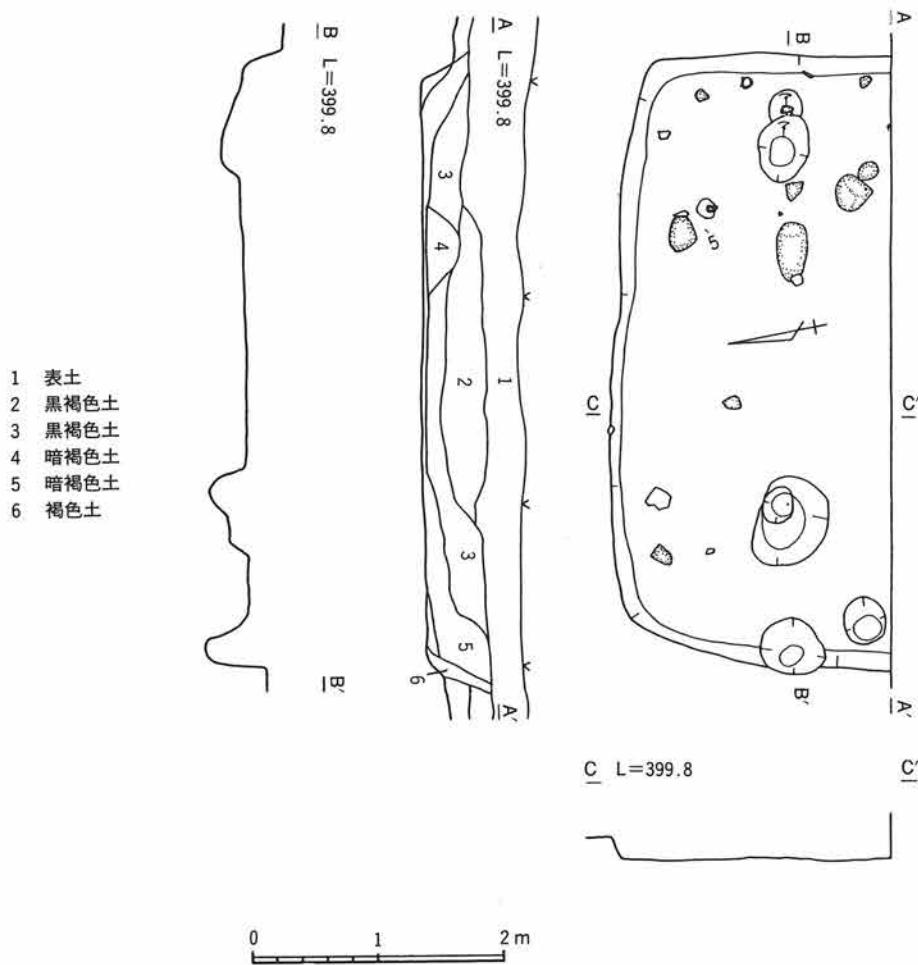
平面形は $2.92m \times 2.90m$ を測る隅丸方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で38cmである。主軸方位はN-77°-Eを示す。

柱穴等は未検出であるが。カマドは石組みで、東壁やや南寄りに設置される。

出土遺物は少ないが、比較的大破片が多くを占めた。



第33図 31号住居跡実測図



第34図 32号住居跡実測図

28号住居跡

調査区南東に位置する。27号住居跡の南西 6 m の地点である。

北側は未調査であるが、平面形は東西 5 m 程を測る方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で 24cm である。主軸方位は N-76°-E を示す。

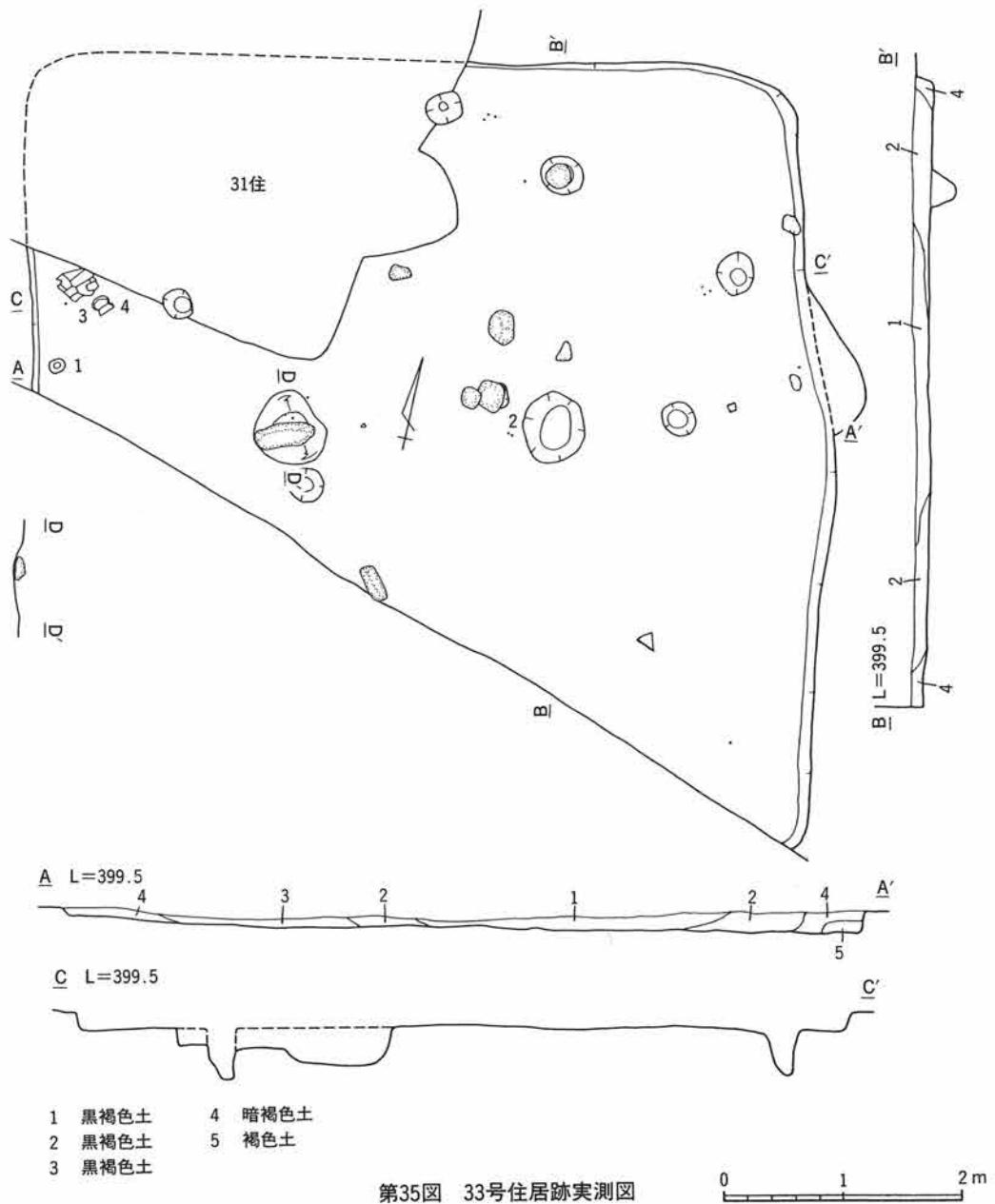
柱穴等は 6 本検出された。

出土遺物は比較的多く認められた。

29号住居跡

調査区南東に位置する。30号住居跡の東 1 m の地点である。

平面形は 4.10m × 4.53m を測る不整隅丸長方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で 22cm である。主軸方位は N-82°-W を示す。

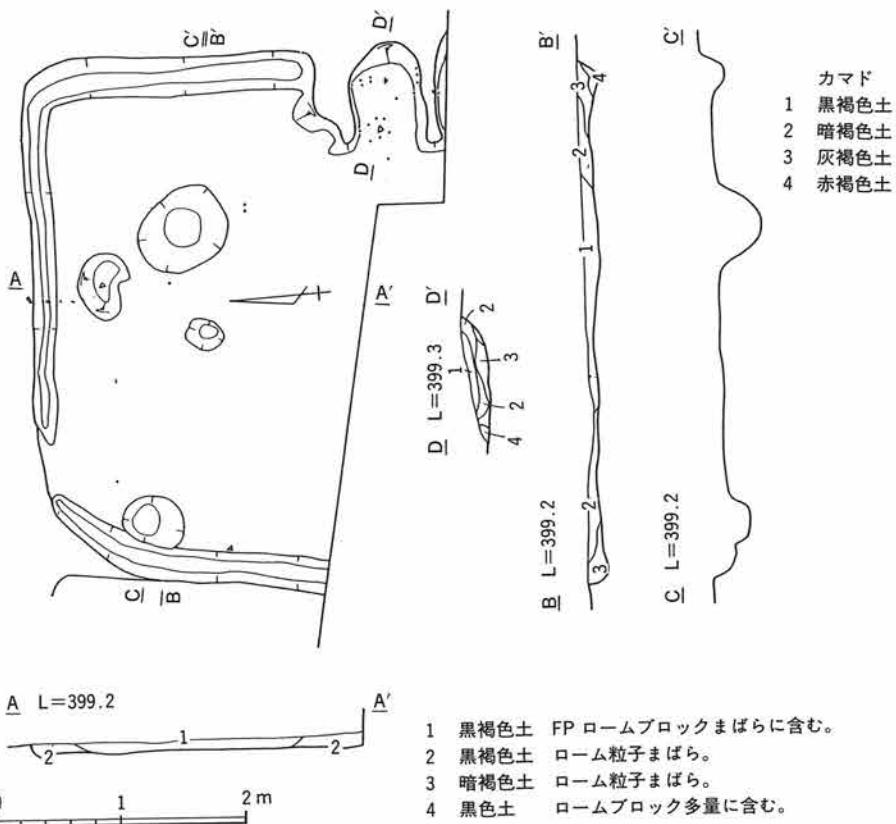


柱穴は8本検出されたが、4本主柱である。カマドは南東コーナー側に設置される。
出土遺物は僅かである。

30号住居跡

調査区南東に位置する。29号住居跡の西1mの地点である。

南側が未調査であるが、平面形は5.15m×4.8m程を測る方形状を呈し、壁高は比較的残りの良



第36図 34号住居跡実測図

い部分で33cmである。主軸方位はN-77°-Eを示す。

柱穴は5本検出された。カマドは東壁ほぼ中央に設置されていたが、痕跡が僅かに残るのみである。

出土遺物は僅かである。

31号住居跡

調査区南側に位置する。南東側は33号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

平面形は4.49m×4.19mを測る方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で45cmである。主軸方位はN-80°-Eを示す。

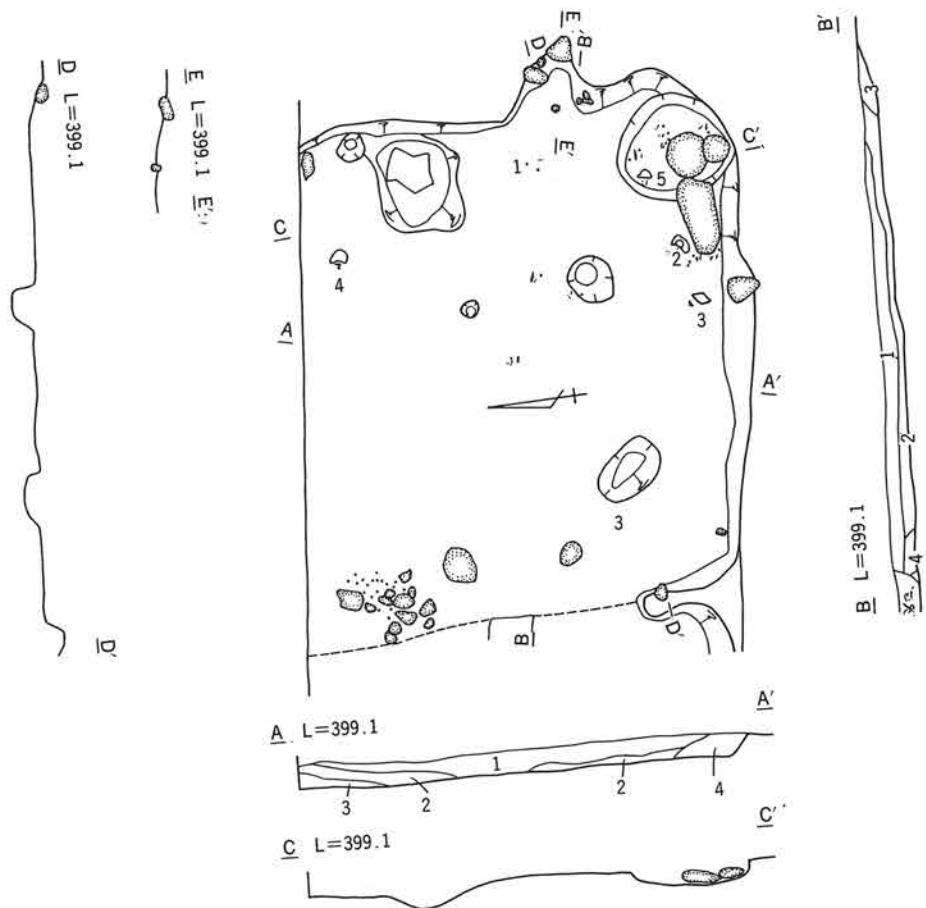
柱穴は4本検出された。また、南東コーナーに貯蔵穴が確認された。カマドは石組みで、東壁やや南よりに設置されている。

出土遺物は僅かで破片がほとんどである。

32号住居跡

調査区南側に位置する。31号住居跡の西2.7mの地点である。

南側が未調査であるが、平面形は東西4.88m程を測る方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い



1 黒褐色土 FP ローム粒子焼土粒まばらに含む。
2 黒褐色土 FP 若干ロームブロックまばらに含む。

3 暗赤褐色土 FP 若干、焼土粒若干含む。
4 暗褐色土 ロームブロックまばらに含む。

第37図 35号住居跡実測図

部分で33cmである。主軸方位はN-76°-Wを示す。

柱穴は4本検出された。カマドは調査区外で未検出である。

出土遺物は僅かである。

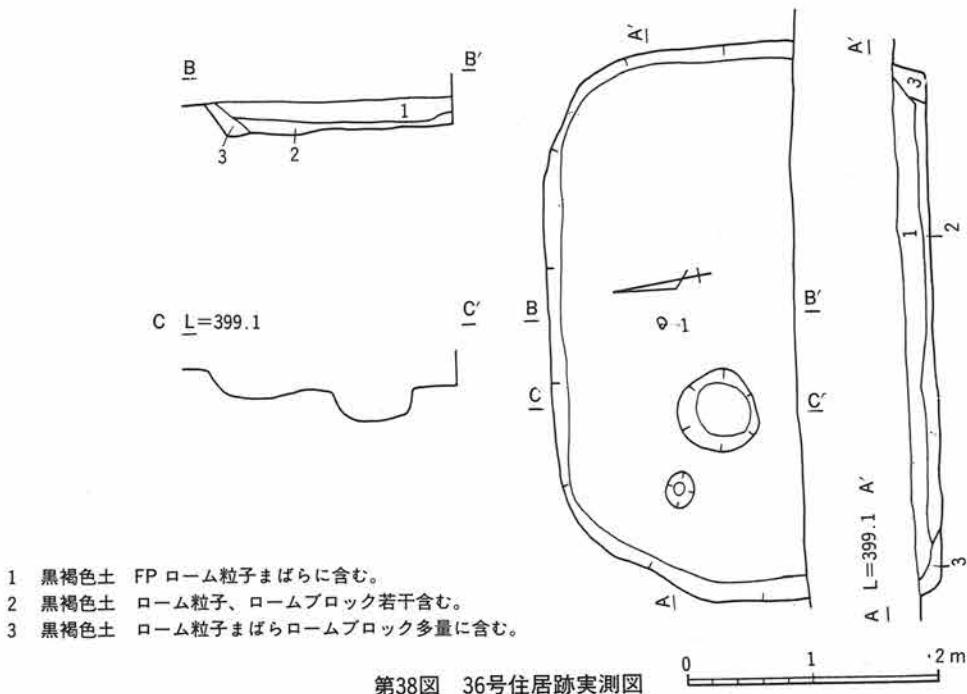
33号住居跡

調査区側に位置する。北西が31号住居跡、北東が40・41号住居跡と重複するが、いずれの住居跡より本住居跡が古い。

平面形は6.66m×6.70mを測る方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で19cmである。主軸方位はN-14°-Wを示す。

柱穴は7本検出された。炉は地床炉で中央やや西寄りに設置され、中央に枕石を有する。

出土遺物は少ないが、西側にややまとまりが認められた。



34号住居跡

調査区南側に位置する。北西が35号住居跡と接する地点である。

南側が未調査であるが、平面形は東西4.22mを測る隅丸方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で13cmである。浅い周溝が巡る。主軸方位はN-88°-Wを示す。

柱穴は3本検出された。カマドは東壁に設置される。

出土遺物は僅かであるが、カマド付近にまとまりが認められた。

35号住居跡

調査区南側に位置する。西側が34・36号住居跡と接する。

北側が未調査であるが、平面形は東西3.96mを測る隅丸方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で18cmである。主軸方位はN-84°-Wを示す。

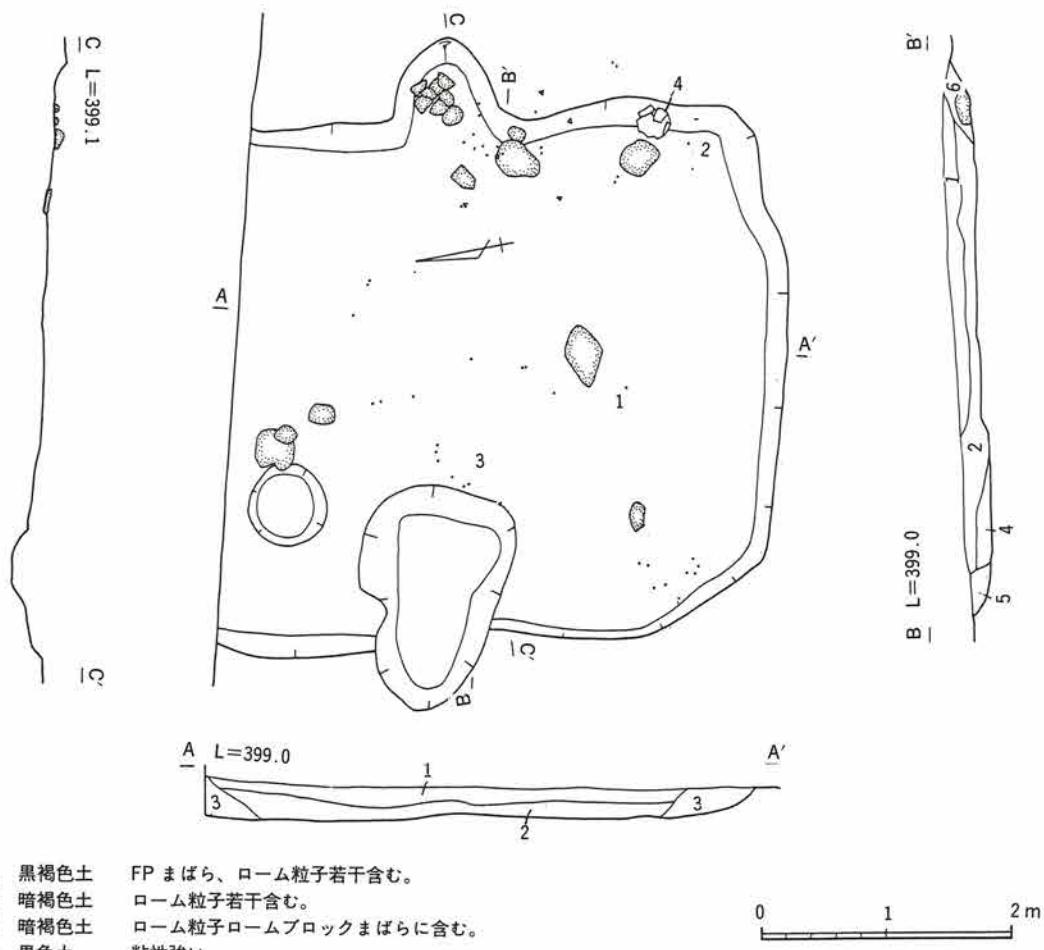
柱穴は3本検出された。西側コーナーには貯蔵穴認められた。カマドは石組みで、東壁やや南寄りに設置される。

出土遺物は僅かである。

36号住居跡

調査区南側に位置する。北側が35・37号住居跡と接する。

南側が未調査であるが、平面形は東西4.43mを測る隅丸方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良



第39図 37号住居跡実測図

い部分で26cmである。主軸方位はN-81°-Wを示す。

柱穴は2本検出された。カマドは調査区外のため未検出。

出土遺物は僅かである。

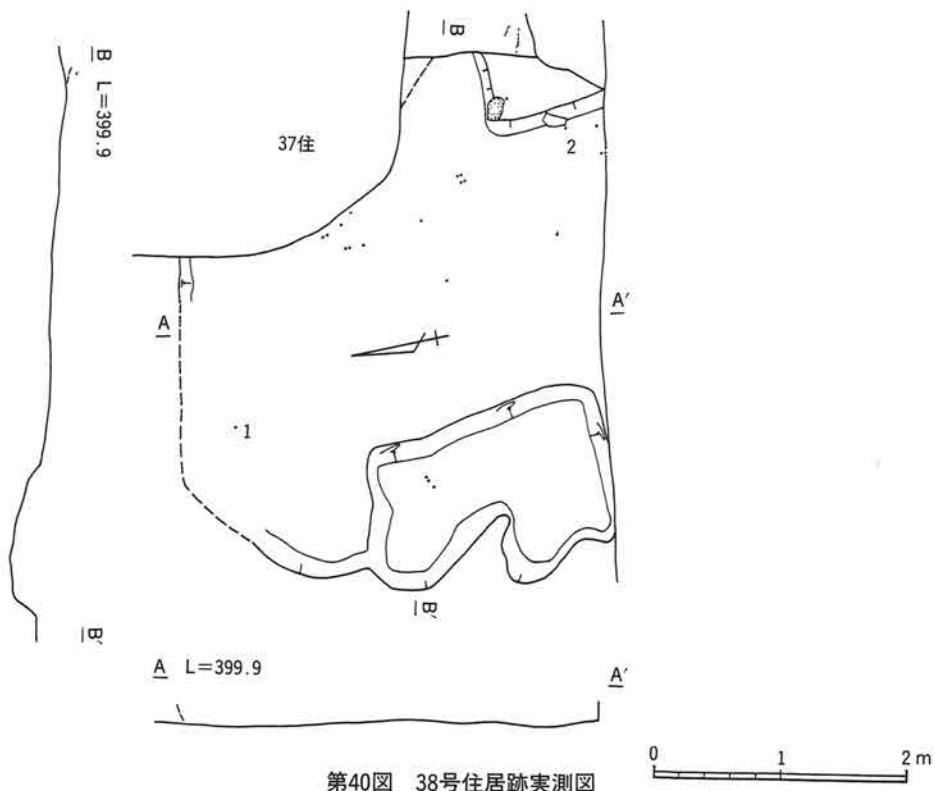
37号住居跡

調査区南西側に位置する。南西側が38号住居跡と重複する。

北側が未調査であるが、平面形は東西4.29mを測る長方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で25cmである。主軸方位はN-81°-Wを示す。

明確な柱穴は未検出である。カマドは東壁に設置される。

出土遺物は少ないがカマド付近にまとまりが認められた。



38号住居跡

調査区南西側に位置する。北東側が37号住居跡と重複する。

南側が未調査であるが、平面形は東西3.5m程で方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で7cmである。主軸方位はN-79°-Wを示す。

柱穴は未検出。カマドは東壁に設置される。

出土遺物は僅かである。

40号住居跡

調査区南側に位置する。西側が33・41号住居跡と重複し、いずれの住居跡より新しい。

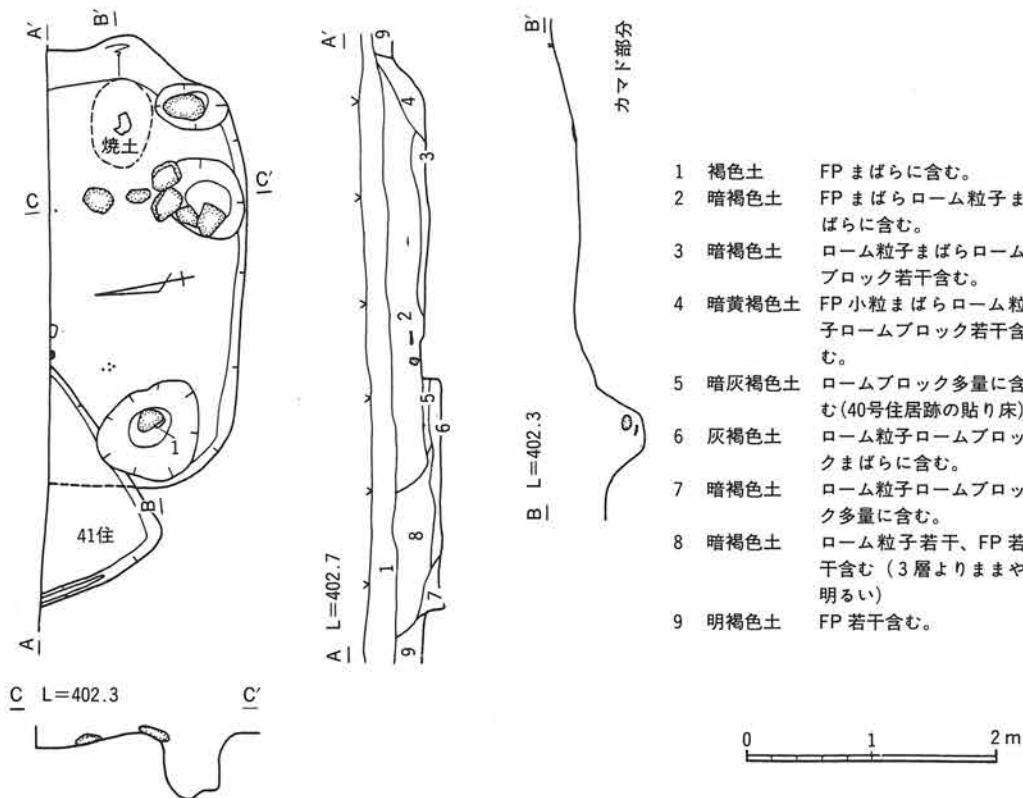
北側が未調査であるが、平面形は東西3.45mを測る隅丸方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で21cmである。主軸方位はN-80°-Wを示す。

柱穴は3本検出された。カマドは東壁南側に設置される。

出土遺物は僅かである。

41号住居跡

調査区南側に位置する。東側が40号住居跡と西側が33号と重複し、前者より古く、後者より新しい。



第41図 40、41号住居跡実測図

大部分が調査区外のため、平面形・規模は不明である。壁高は比較的残りの良い部分で12cmである。

遺物検出されなかった。

42号住居跡

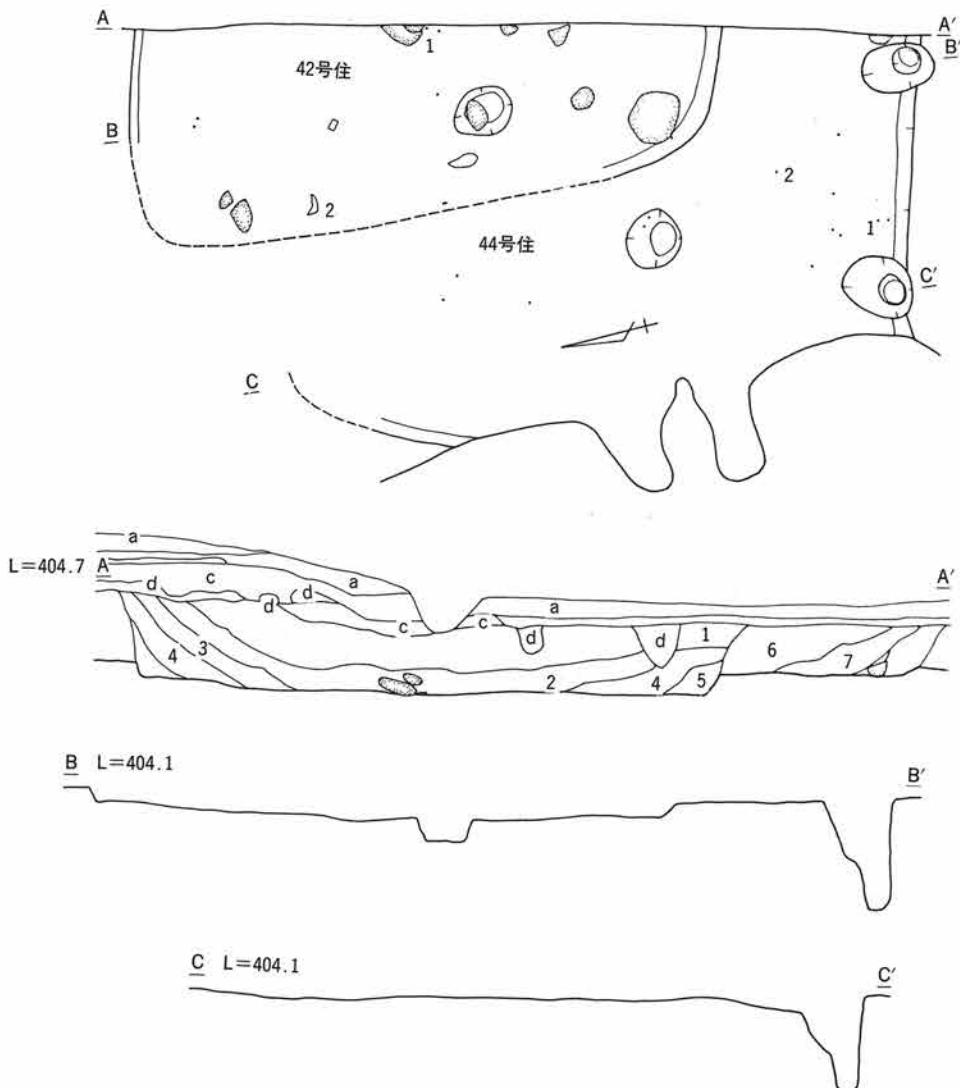
調査区北東側に位置する。43・44号住居跡と重複し、いずれの住居跡より本住居跡が新しい。東側が未調査であるが、平面形は南北4.72mを測る隅丸方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で66cmである。主軸方位はN-78°-Wを示す。

柱穴は1本検出されたが、カマドは調査区外のため未検出。

出土遺物は僅かであるが、鉄鎌が2点検出された。

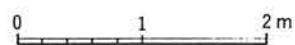
43号住居跡

調査区北東側に位置する。2・42・44号住居跡と重複し、2・42号住居跡よりも古く44号住居跡よりも新しい。



- 1 黒褐色土 FP 多量に含む。
 2 黒褐色土 FP まばらに含む。
 3 暗褐色土 FP まばらローム粒子まばらに含む。
 4 暗褐色土 FP まばらローム粒子若干含む。
 5 暗褐色土 FP 若干ローム粒子まばらに含む。
 6 黒褐色土 FP まばらに含む。
 7 黒褐色土 FP 若干ローム粒子若干含む。

- a 青褐色土 現水田土壤 FP 若干含む。
 b 赤褐色土 現水田鉄分沈着層 FP まばらに含む。
 c 暗褐色土 FP、As-BP まばらに含む。
 d 灰褐色土 As-BP 多量に含む。
 e 暗褐色土 FP 多量に含む。

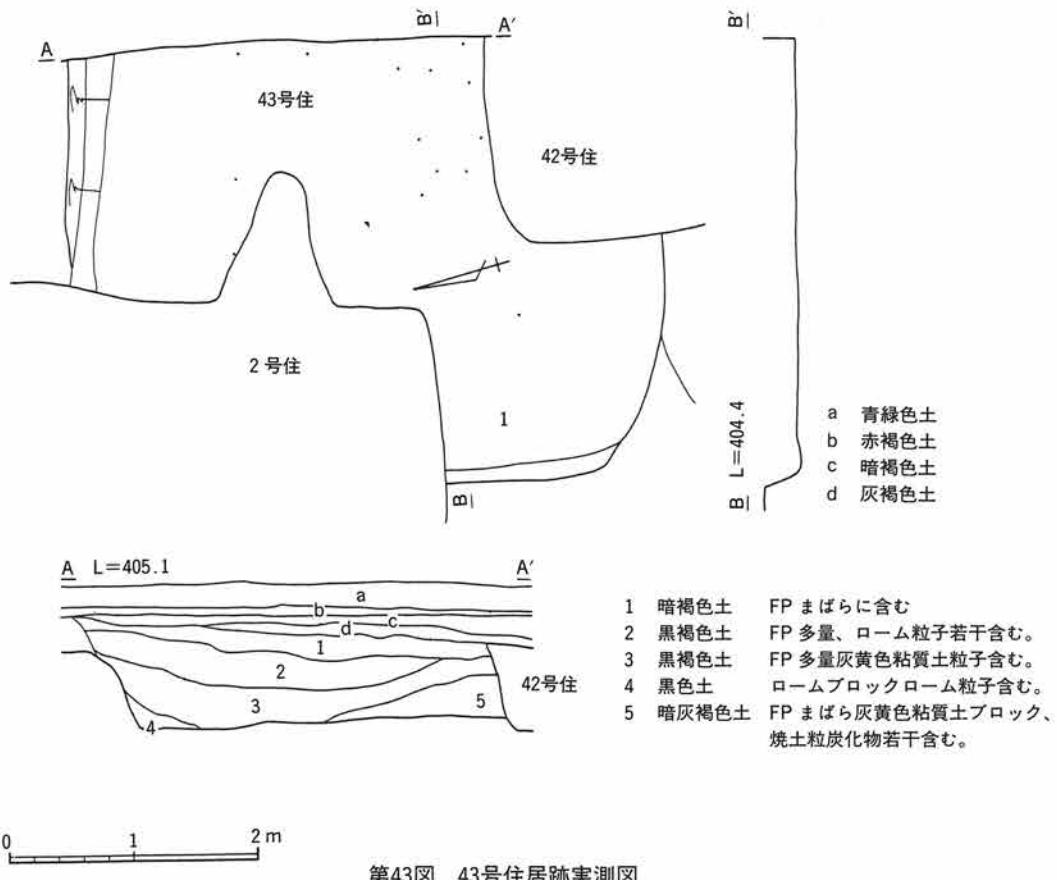


第42図 42号、44号住居跡実測図

東側が未調査であるが、平面形は南北7.79mを測る方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で61cmである。主軸方位はN-77°-Wを示す。

柱穴・カマドは未検出。

出土遺物は僅かである。



第43図 43号住居跡実測図

44号住居跡

調査区北東側に位置する。42・43号住居跡と重複し、いずれの住居跡より本住居跡が古い東側が未調査であるが、南北5.0mを測り壁高は比較的残りの良い部分で10cmである。主軸方位はN-75°-Wを示す。

柱穴は3本検出された。カマドは調査区外のため未検出である。

出土遺物は僅かであるが、破片のみである。

45号住居跡

調査区南西側に位置する。46号住居跡の南西0.8mの地点である。

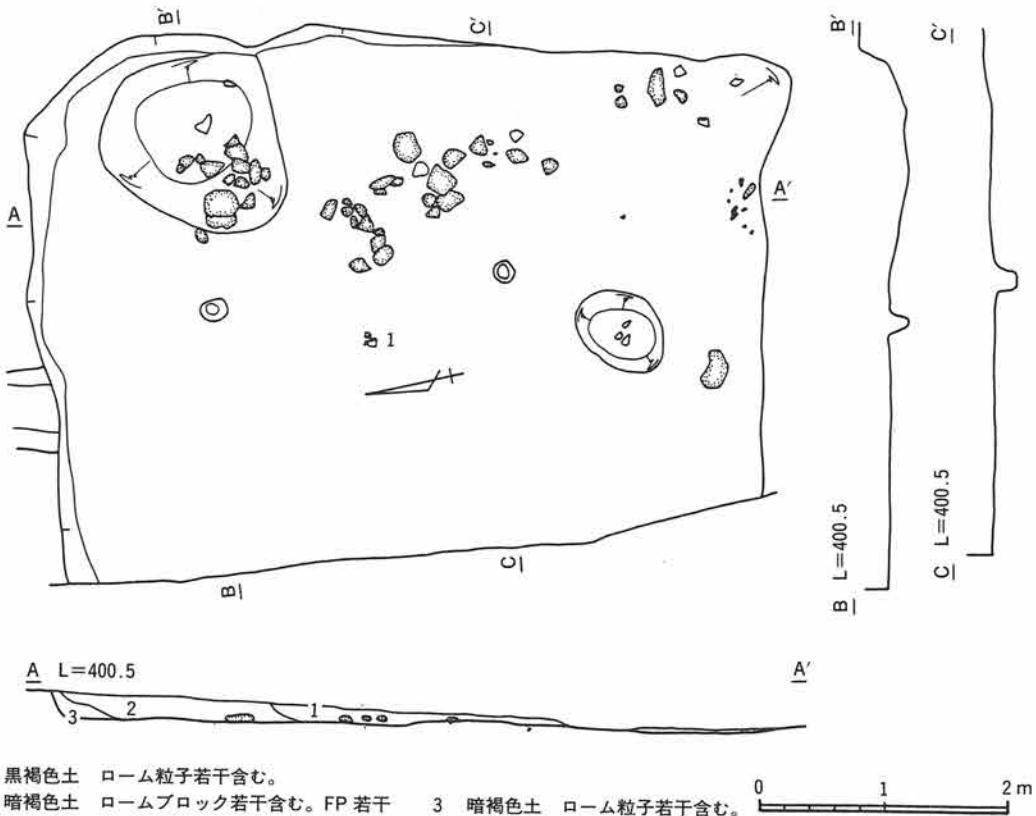
西側が未調査であるが、平面形は南北5.91mを測る隅丸方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で19cmである。主軸方位はN-80°-Wを示す。

柱穴は2本確認された。カマドは南東コーナーに痕跡が検出された。

出土遺物は石が多数を占めた。

46号住居跡

調査区南西側に位置する。45号住居跡の北東0.8mの地点である。



第44図 45号住居跡実測図

平面形は、 $4.01m \times 4.88m$ を測る不整方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で13cmである。主軸方位はN-89°-Eを示す。

柱穴は6本検出された。貯蔵穴はカマド右側に検出された。カマド東壁はほぼ中央に設置される。

出土遺物は比較的多く、カマド前面と貯蔵穴にまとまりが認められた。墨書き器が2点検出されている。

47号住居跡

調査区南西側に位置する。46号住居跡の南東2.5mの地点である。

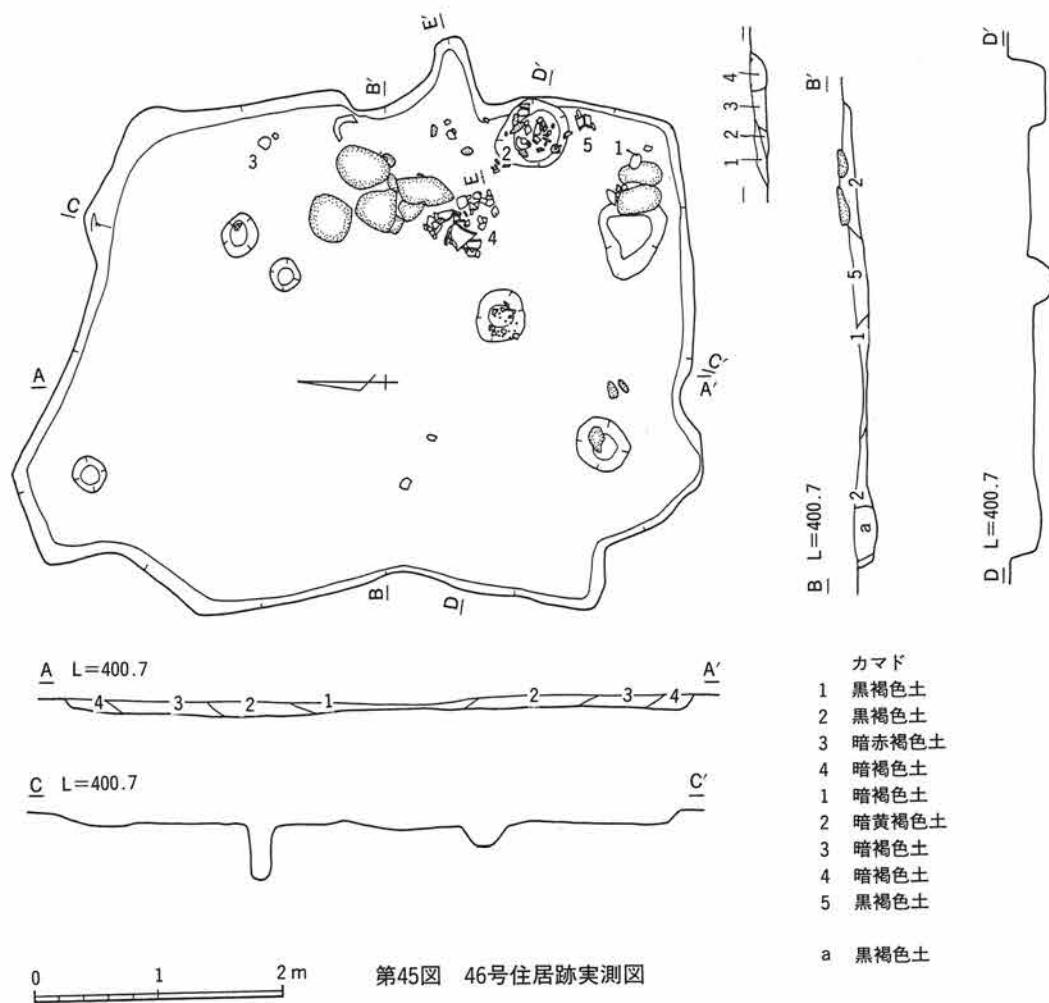
平面形は、 $3.28m \times 3.66m$ を測る不整隅丸方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で10cmである。主軸方位はN-88°-Wを示す。

柱穴は未検出。カマドは石組みで東壁やや南寄りに設置される。

出土遺物は僅かである。

48号住居跡

調査区西側に位置する。46号住居跡の北東10.6mの地点である。



平面形は、 $2.79m \times 2.74m$ を測る不整方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で26cmである。主軸方位はN-77°-Wを示す。

柱穴は1本検出された。カマドは南東コーナーに痕跡が認められた。

出土遺物は僅かであるが、鉄鎌が1点検出された。

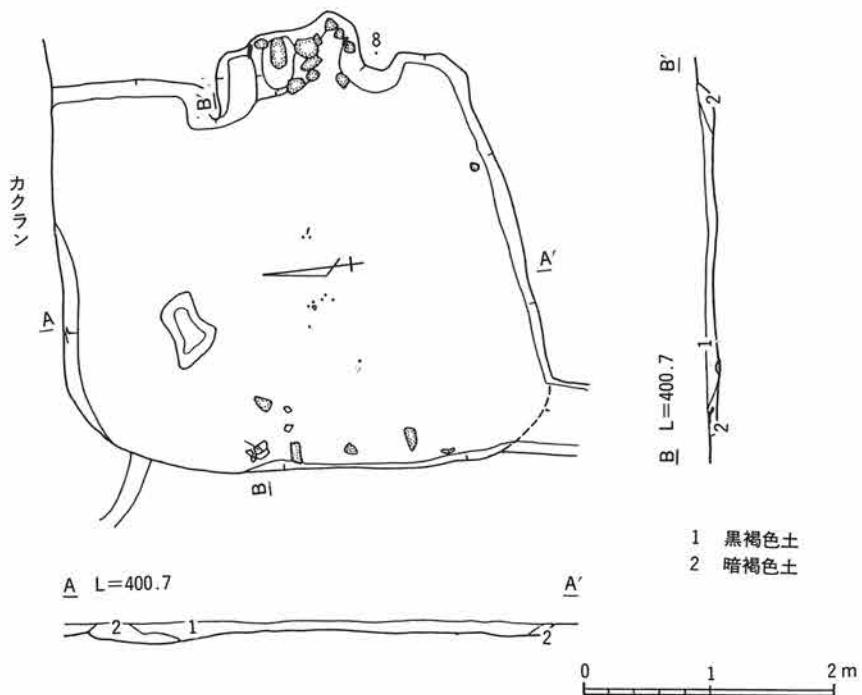
49号住居跡

調査区西側に位置する。48号住居跡の北8mの地点である。

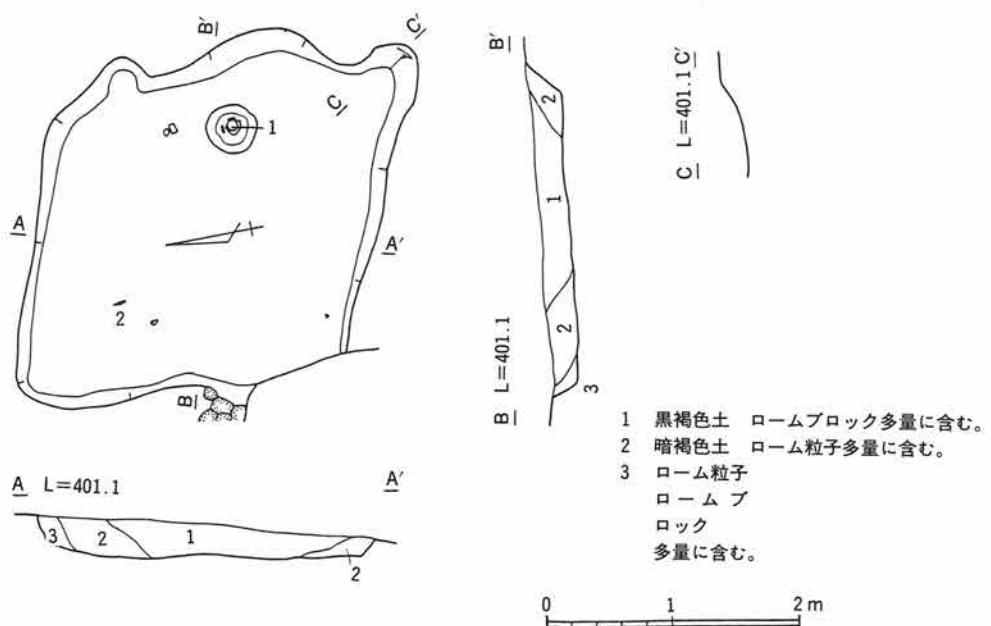
平面形は、 $3.78m \times 3.78m$ を測る方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で36cmである。主軸方位はN-81°-Wを示す。

柱穴は1本検出されたのみである。カマドは袖石を有し、東壁やや南寄りに設置される。

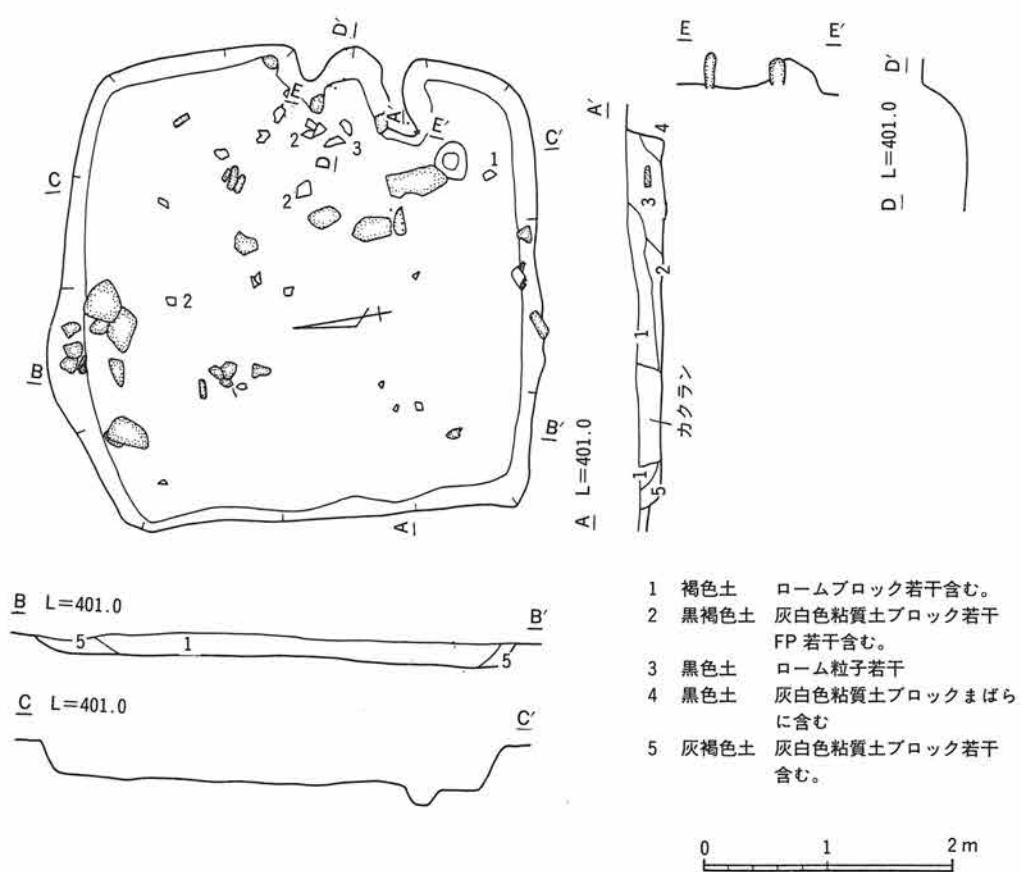
出土遺物は少量である。



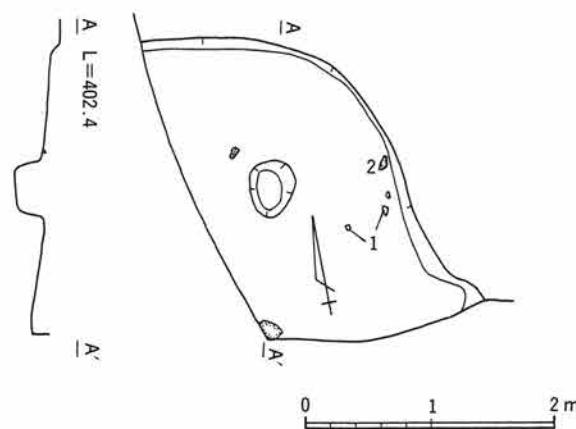
第46図 47号住居跡実測図



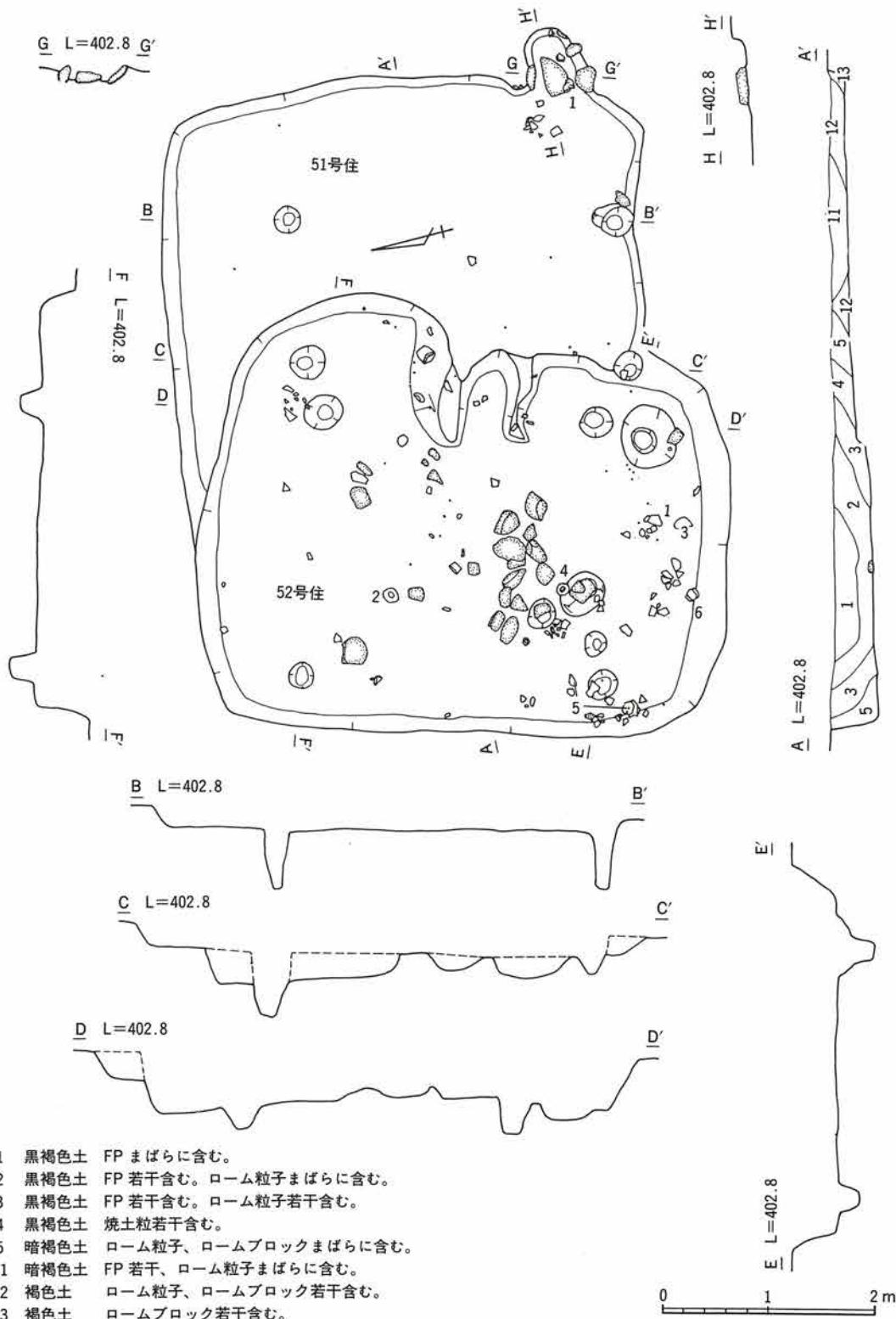
第47図 48号住居跡実測図



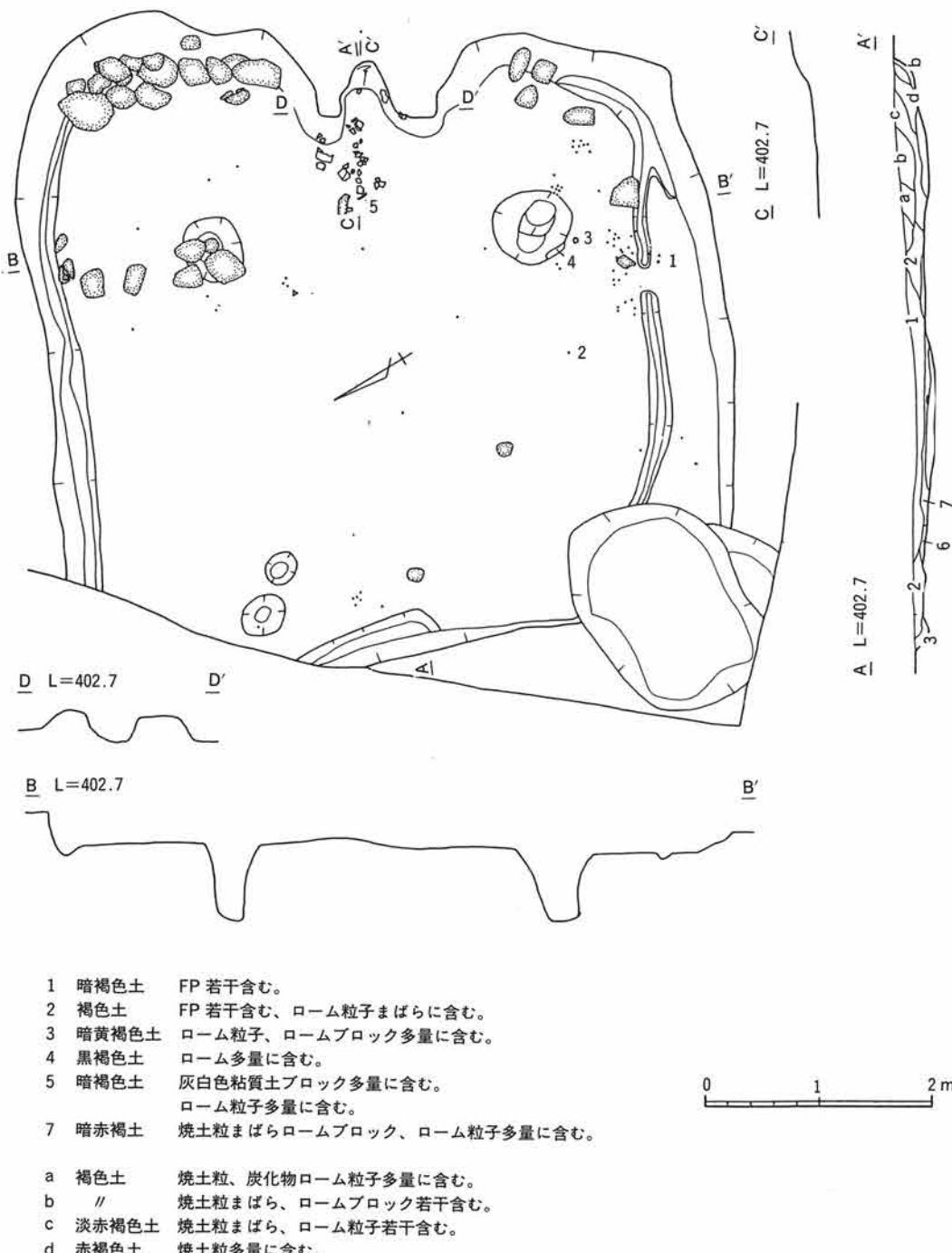
第48図 49号住居跡実測図



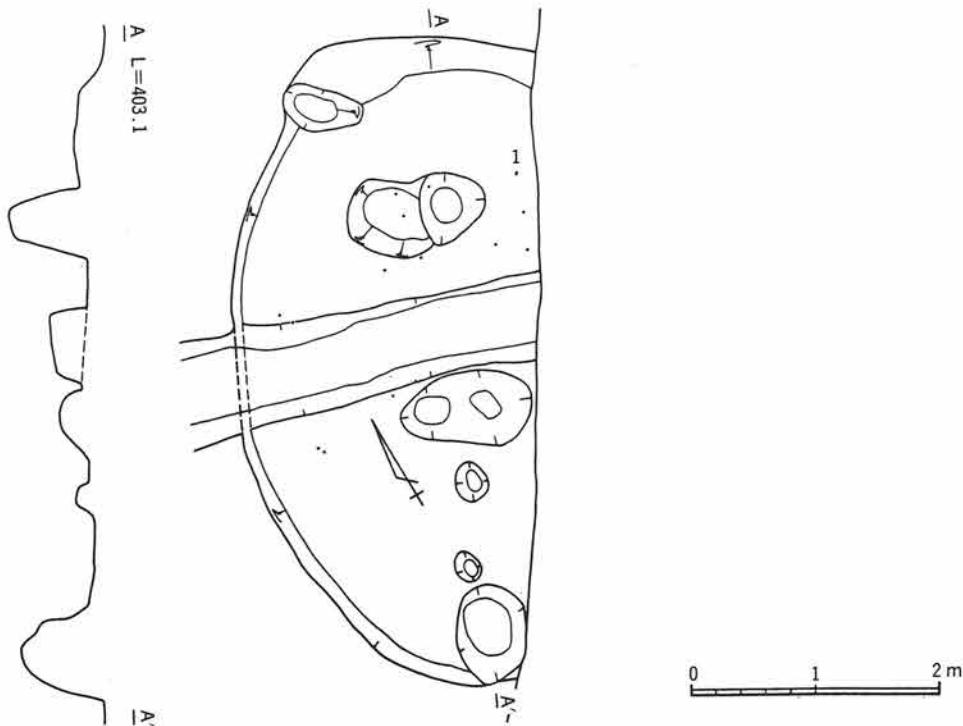
第49図 50号住居跡実測図



第50図 51号、52号住居跡実測図



第51図 53号住居跡実測図



第52図 54号住居跡実測図

50号住居跡

調査区北西側に位置する。4号住居跡の西4mの地点である。

南及び西側が調査区外となるため不明確であるが平面形は、円形状を呈し壁高は比較的残りの良い部分で8cmである。

柱穴は1本検出されたが炉は未検出。

出土遺物は僅かである。

51号住居跡

調査区西側に位置する。西側は52号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

平面形は、3.5m以上×4.52mを測る方形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で16cmである。

柱穴は4本検出された。カマドは東壁南側に設置される。

出土遺物は僅かであるが、カマド前にややまとまりが認められた。

52号住居跡

調査区西側に位置する。東側は51号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

平面形は、4.13m×5.50mを測る隅丸方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で45cmである。主軸方位はN-70°-Wを示す。

柱穴は7本検出されたが、4本主柱である。カマドは東壁ほぼ中央に設置される。

出土遺物は多く検出された。

53号住居跡

調査区西側に位置する。52号住居跡の南西1mの地点である。

平面形は、5.24m×6.02mを測る隅丸方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で20cmである。カマド付近を除いて周溝が巡る。主軸方位はN-63°-Wを示す。

柱穴は4本検出された。カマドは東壁中央に設置される。

出土遺物はカマド付近と南側にまとまりが認められたが、小破片がほとんどである。また、30cm大前後の河原石が東壁北側下にまとまって検出された。

54号住居跡

調査区西側に位置する。51号住居跡の北5mの地点である。

東側が未調査であるが、平面形は南北5.03mを測る円形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で20cmである。

柱穴は6本検出されたが、炉は未検出。

出土遺物は僅かである。

2 掘建柱建物跡

1号掘建柱建物跡

調査区東側に位置する。北側が3号竪穴住居跡と重複する。

2間(4.12m)×3間(5.13m)を測る10本の柱穴から成る建物で棟方位はN-16°-Eを示す。覆土は軽石を含む黒褐色土が主体である。

柱穴径は30cm～50cm、深さは26cm～71cmを測る。

出土遺物は僅かであるが、柱穴内から検出された。

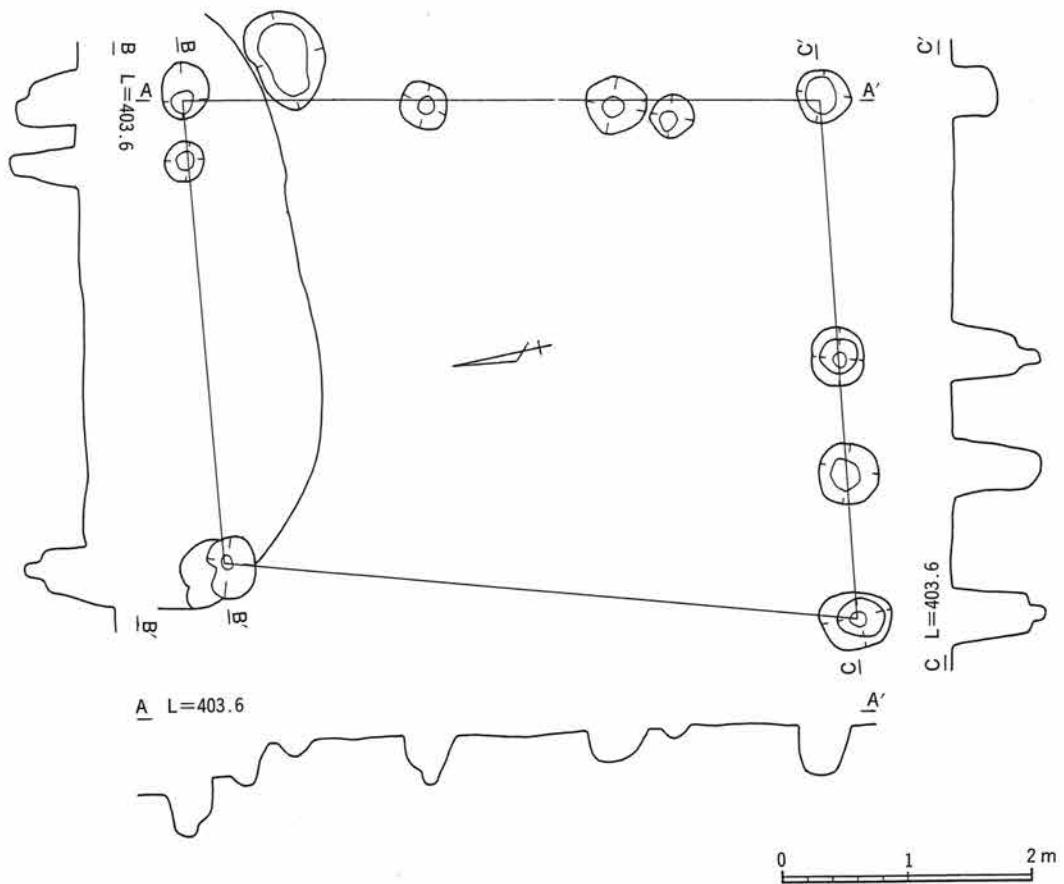
2号掘建柱建物跡

調査区東側に位置する。1号竪穴住居跡の南4mの地点で、3号掘建柱建物跡と重複する。

東側が未調査であるが、3間(5.08m)×3間(5.20m)以上を測る9本以上の柱穴から成る建物で、棟方位はN-47°-Wを示す。覆土は軽石を含む黒褐色土が主体である。

柱穴径は30cm～49cm、深さは48cm～70cmを測る。

出土遺物は僅かであるが、柱穴内から検出された。



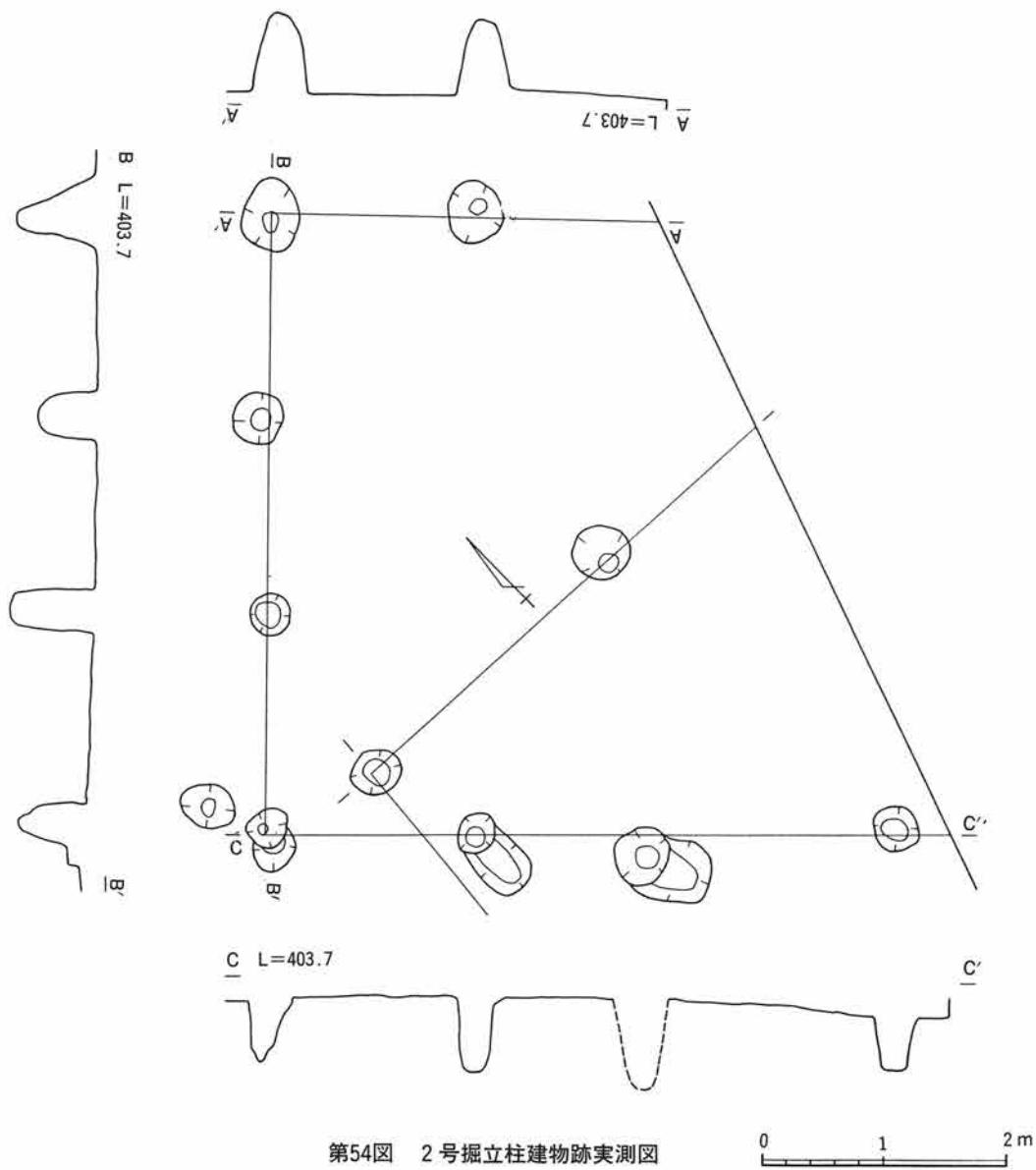
第53図 1号掘立柱建物跡実測図

3号掘建柱建物跡

調査区東側に位置する。北側が2号掘建柱建物跡と重複する。

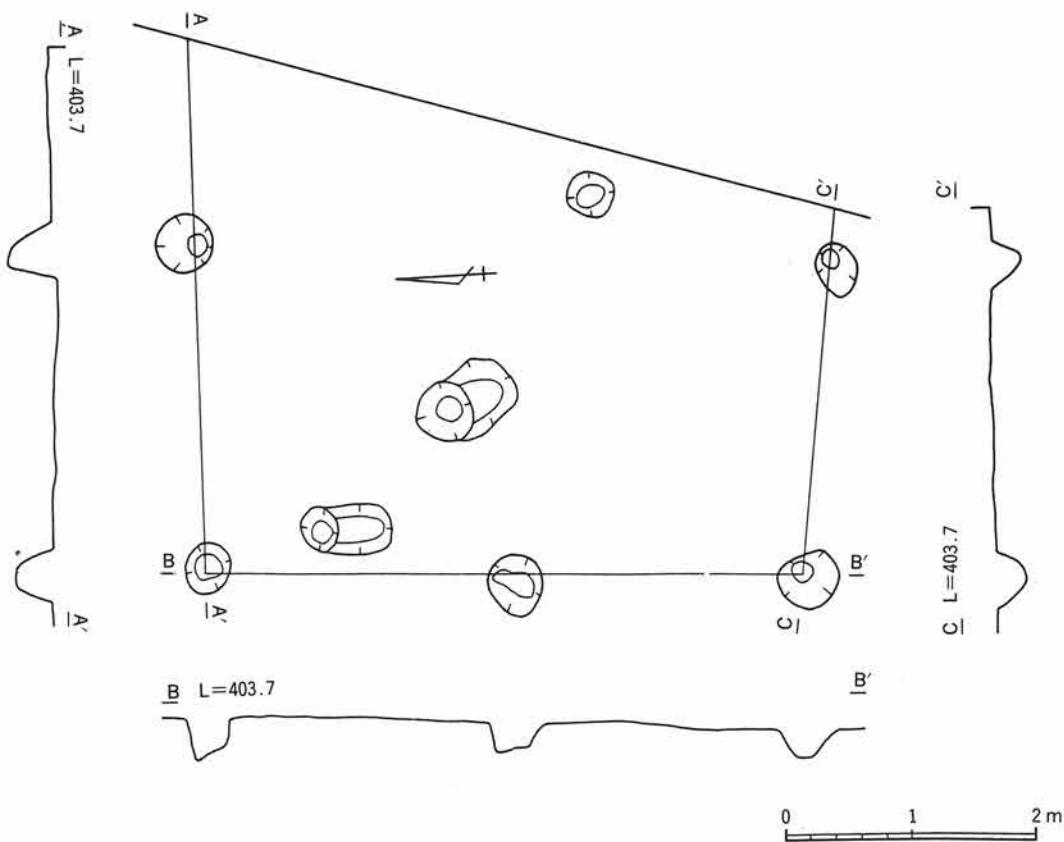
東側が未調査であるが、2間(4.82m)×2間以上を測る5本以上の柱穴から成る建物で、棟方位はN-85°-Wを示す未調査であるが、平面形は長径2.09mを測る長楕円形状を呈し、深さは比較的残りの良い部分で20cmである。

出土遺物は比較的多く認められた。



第54図 2号掘立柱建物跡実測図

0 1 2 m



第55図 3号掘立柱建物跡実測図

3 穴状遺構

1号穴状遺構

調査区東側に位置する。12号住居跡の東0.7mの地点である。

平面形は、 $4.55m \times 3.08m$ を測る不整長方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で22cmで、一部を除き壁下には浅い周溝が巡る。主軸方位はN-72°-Wを示す。

出土遺物僅かに検出されたのみである。

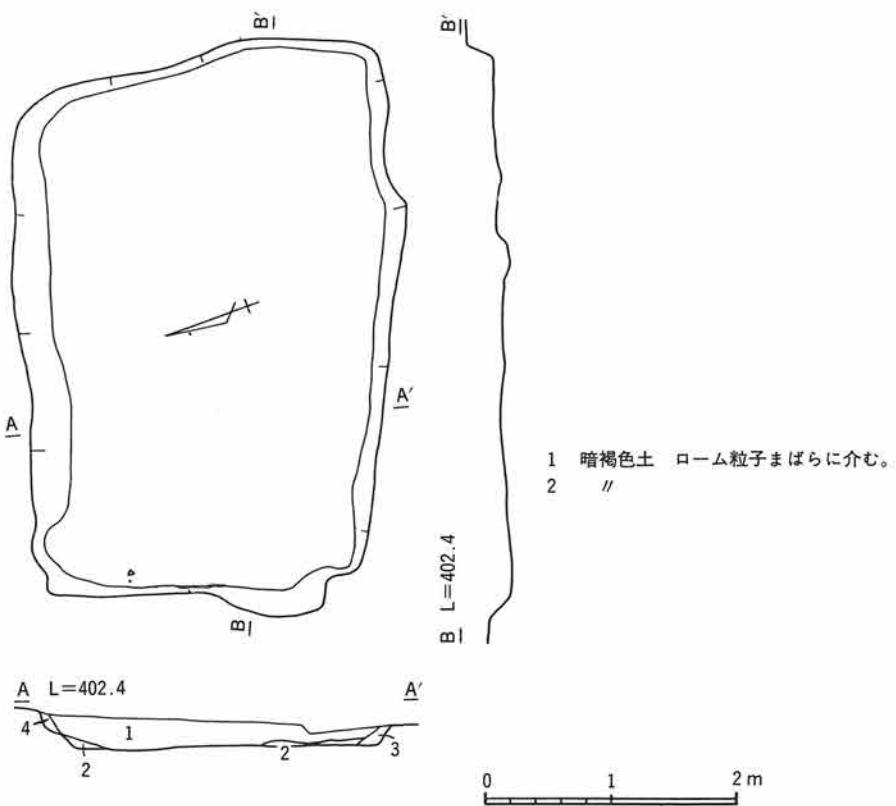
2号穴状遺構

調査区南東側に位置する。25号住居跡の北7mの地点である。

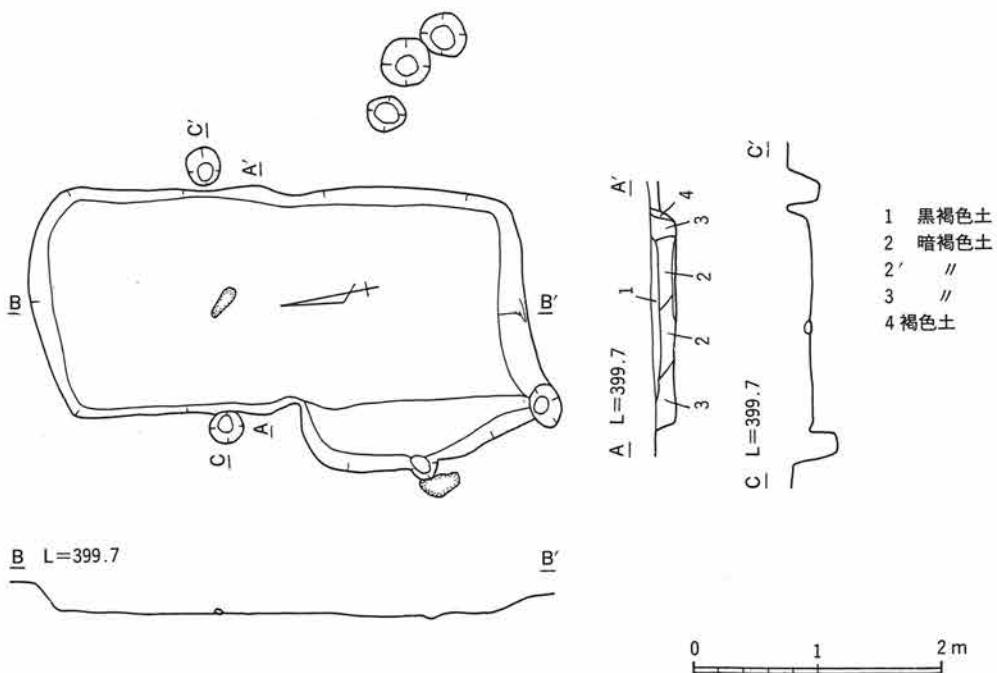
平面形は、 $1.81m \times 3.98m$ を測る不整長方形形状を呈し、壁高は比較的残りの良い部分で22cmである。主軸方位はN-80°-Wを示す。

近接して柱穴が検出されている。

出土遺物は認められなかった。



第56図 1号竪穴状遺構実測図



第57図 2号竪穴状遺構実測図

4 土 壤

1号土壤

調査区東側に位置する。11号住居跡と重複し、本土壙が新しい。

西側が未調査であるが、平面形は長径2.09mを測る長楕円形状を呈し、深さは比較的残りの良い部分で20cmである。

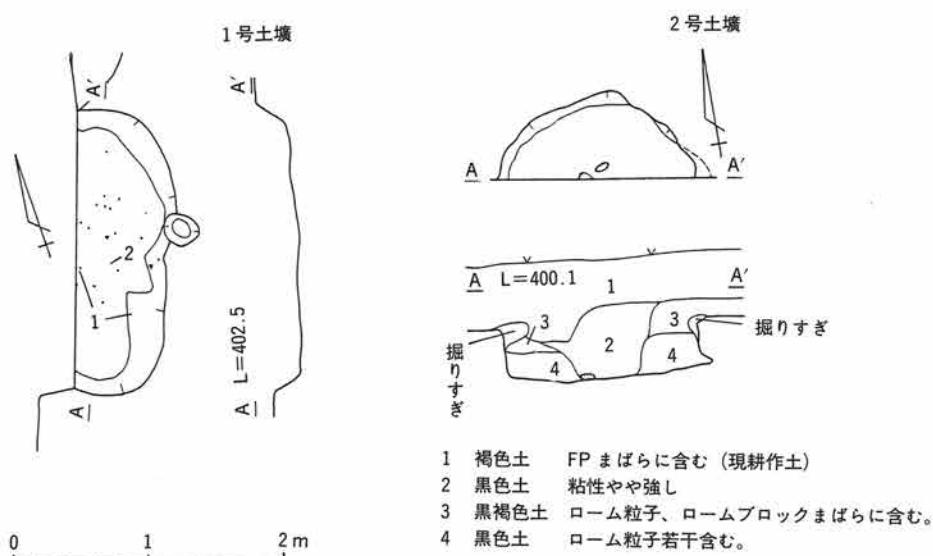
出土遺物は比較的多く認められた。

2号土壤

調査区南側に位置する。38号住居跡と一部重複し、本土壙が古い。

南側が未調査であるが、平面形は東西1.46mを測る円形状を呈し、深さは比較的残りの良い部分で35cmである。断面形は袋状を呈する。

出土遺物は石のみである。



第58図 1、2号土壤実測図

IV まとめ

今回の発掘調査で検出された遺構について、出土遺物等を参考に時代別に分類すると概ね以下の通りとなる。

縄文時代 50・54号竪穴住居跡、2号土壙

古墳時代 11・14・15・19~21・27・28・33・44・49号竪穴住居跡、1~3号掘建柱建物跡

奈良・平安時代 1~10・12・13・16~18・22~26・29~32・34~38・40~43・45~48・51~53

号竪穴住居跡・1号土壙・1・2号竪穴状遺構

この中から特に注目すべき遺構・遺物について、再度取り上げてまとめてみたい。

16号竪穴住居跡

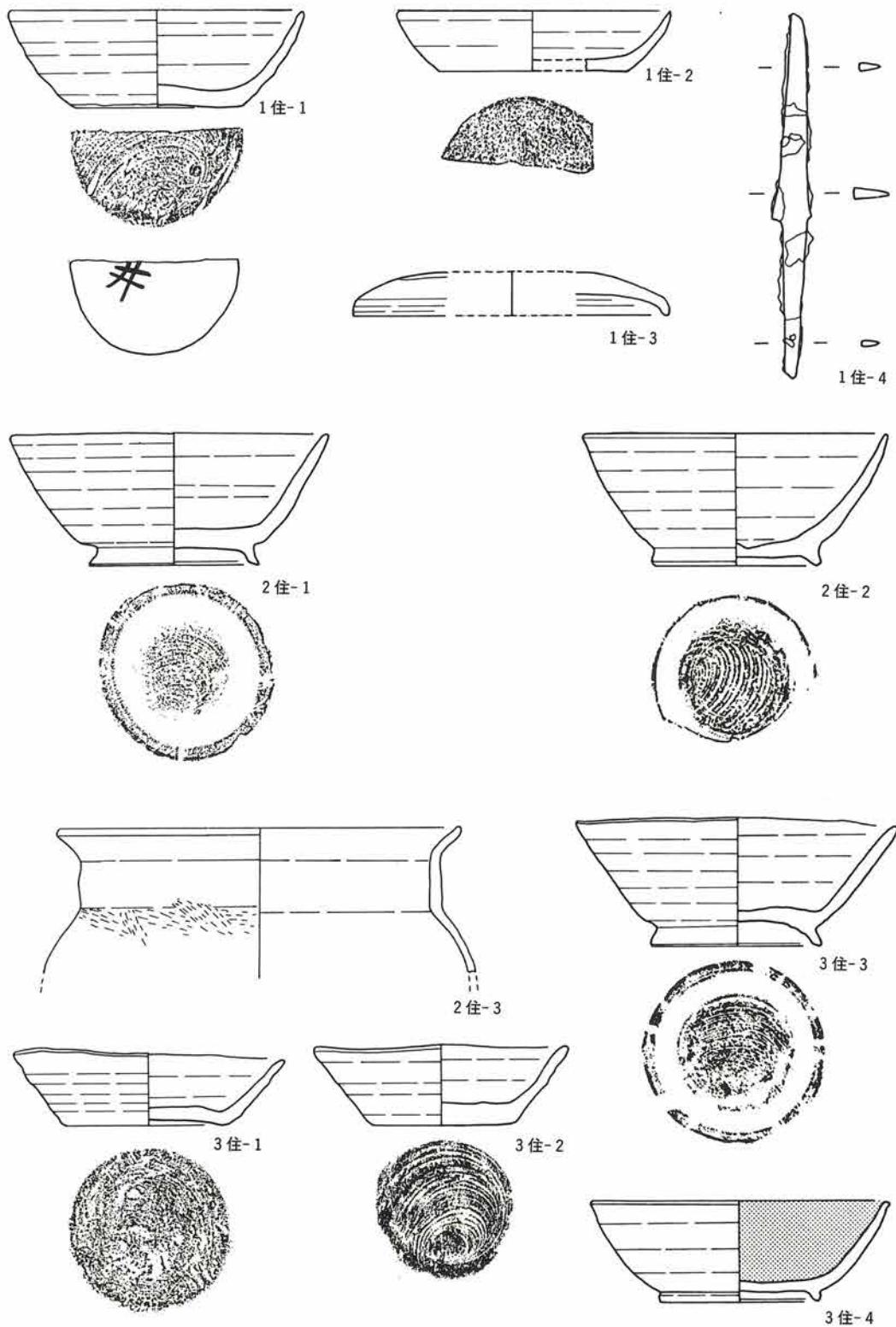
本住居跡は、火災に遭っていたため多量の遺物が検出されたが、その中に占める灰釉陶器の多さが注目された。一般的に、9世紀以降の灰釉陶器を伴出する竪穴住居跡であっても1軒当たりの出土点数は1点ないし数点の量であるが、本住居跡の場合図示したものだけで12点、それ以外の破片を含めると数十点を数える。これは、この住居跡が火災住居であるという特殊事情を考慮したとしても非常に多い数である。また、1cm程の細片であったため図示しなかったが、綠釉陶器片も1点検出されている。当時、竪穴住居に生活する人々にも搬入品である灰釉陶器が入手できるようになっていたようであるが、他の土器との出土量の比較から貴重品であったとされている。では、多数の灰釉陶器を所有した16号竪穴住居の住人は社会的にどのような位置を占める人であったのか。このことについて、竪穴住居跡の規模・施設について同時期の一般的なそれと比較したが、やや規模は大きいものの特に大きな差異は見出すことができなかった。これは、灰釉陶器以外の出土遺物についての差異についても同様であった。

18号竪穴住居跡

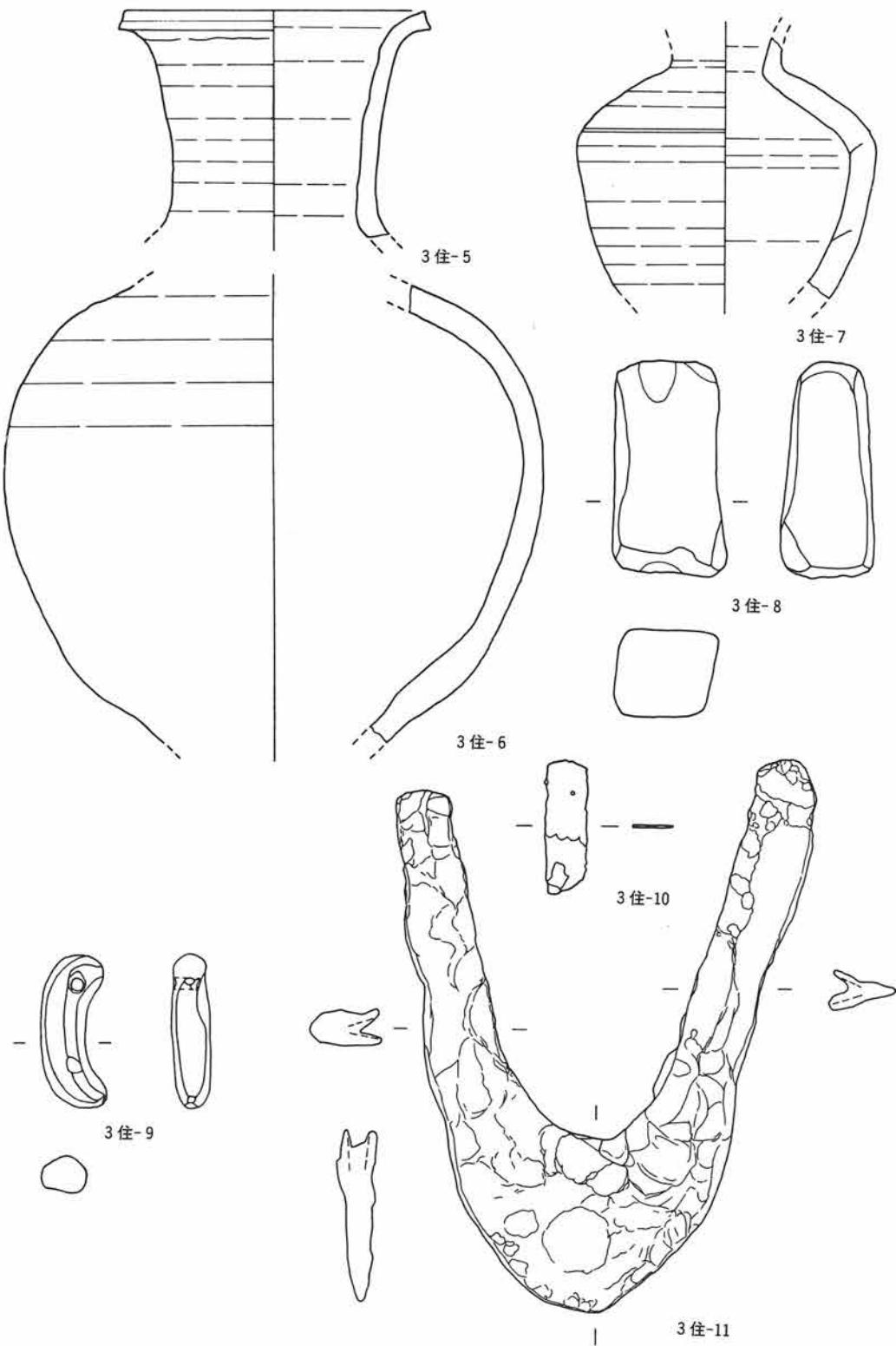
本住居跡の床面積は約44m²で同時期の平均的な竪穴住居跡のほぼ2倍以上の面積を有する。

また、特殊施設としてカマド部分を除き周囲の壁から60~90cmの幅で石を多く設置した施設が検出されたが、その用途は不明である。さらに、本住居跡からは柱穴は検出されなかつたが、それに相当する部分の床面上の3ヵ所にやや扁平な河原石の大石を用いた礎石が設置されていた。当時の竪穴住居跡で柱を有するものは4本が一般的であり、今回検出された3点の礎石の配置状況も考慮すると、北東側の床面にも礎石が存在していたことは確実であろう。竪穴住居跡において柱を床面を深く穿たず礎石を据えて設置した例は、本遺跡の北東側上位段丘面に位置する戸神諫訪II遺跡29号住居に認められ、最近の周辺における発掘調査においても同様の例が数例確認されている。また、特殊遺物として石製蛇尾が1点検出された。集落の一部を調査したのみであるが、本住居は集落の中でも中核的な性格を有する住居跡と位置づけすることができよう。

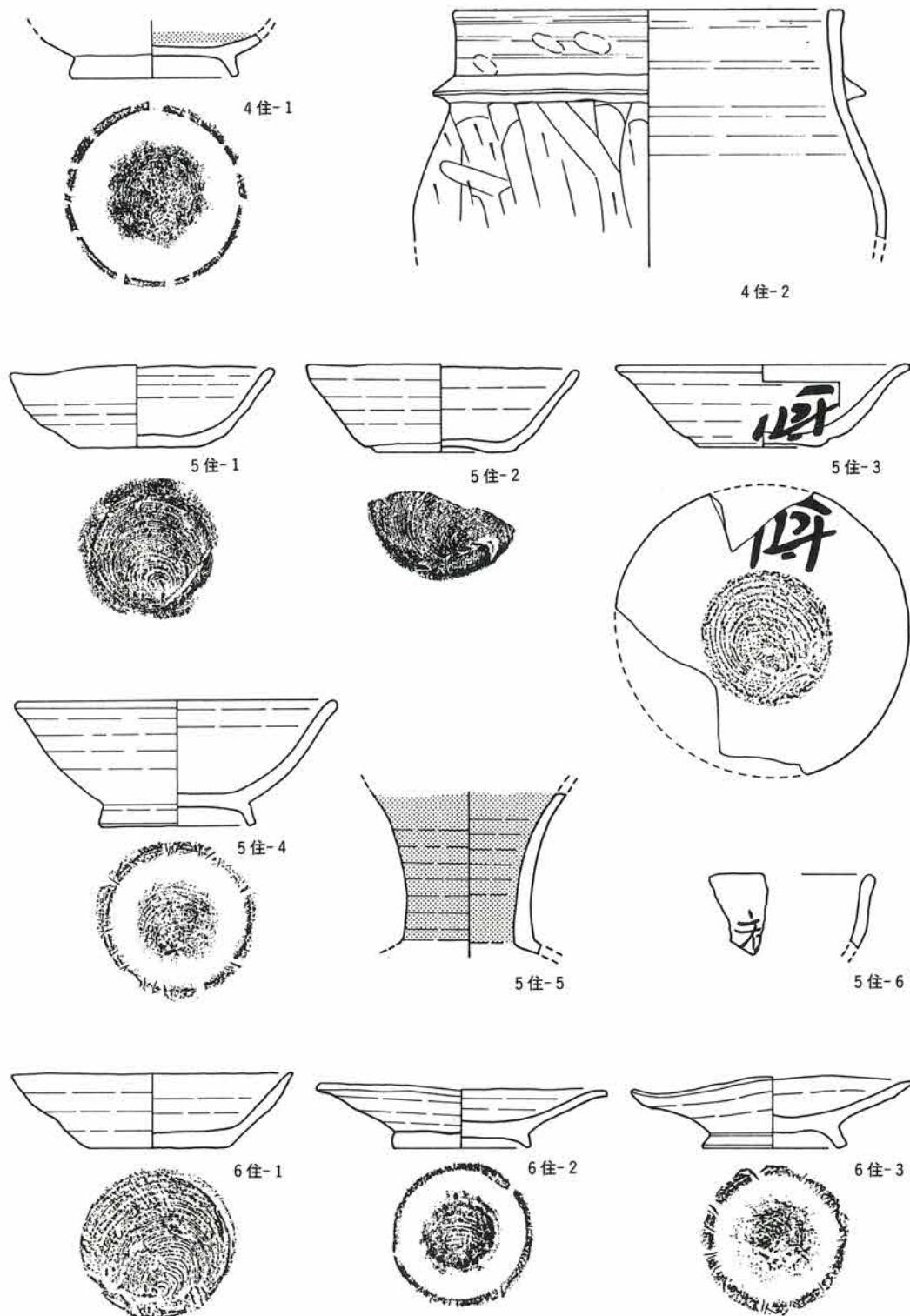
遺 物 実 測 図



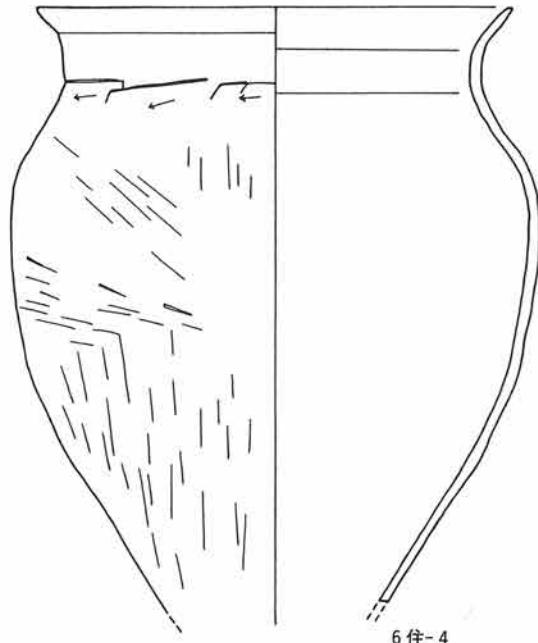
第59図 出土遺物実測図 (1)



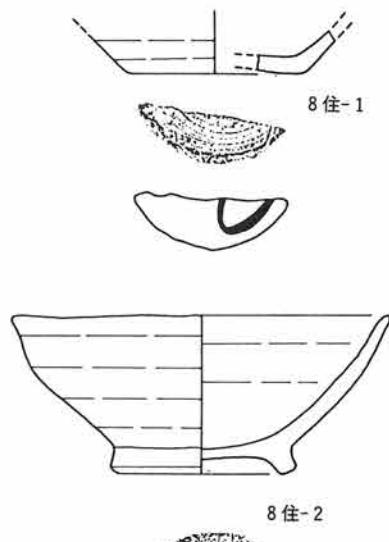
第60図 出土遺物実測図 (2)



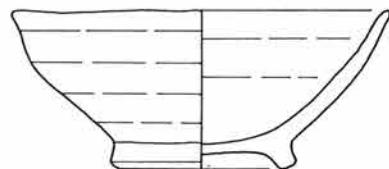
第61図 出土遺物実測図 (3)
— 61 —



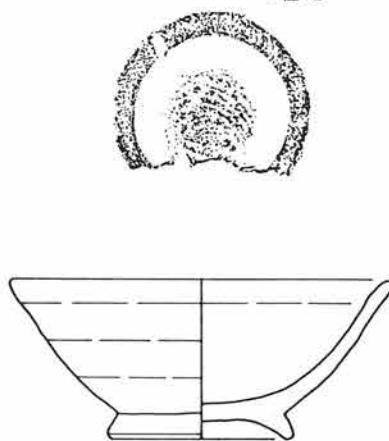
6住-4



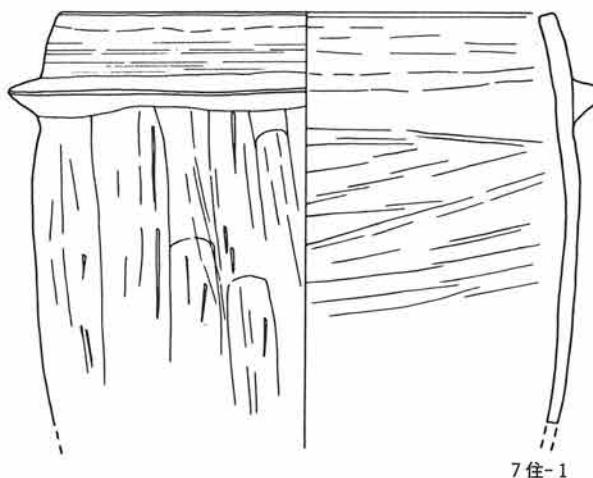
8住-1



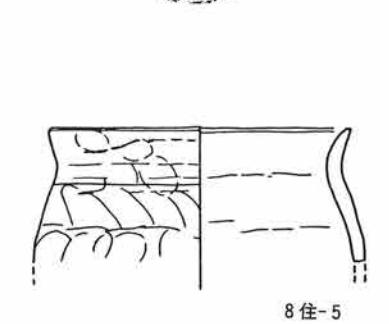
8住-2



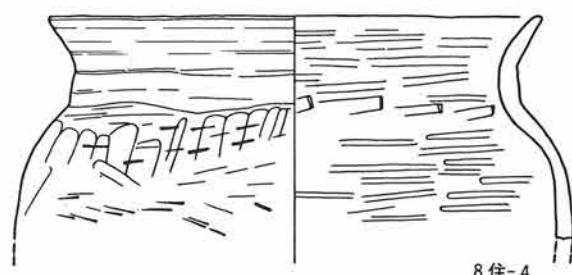
8住-3



7住-1

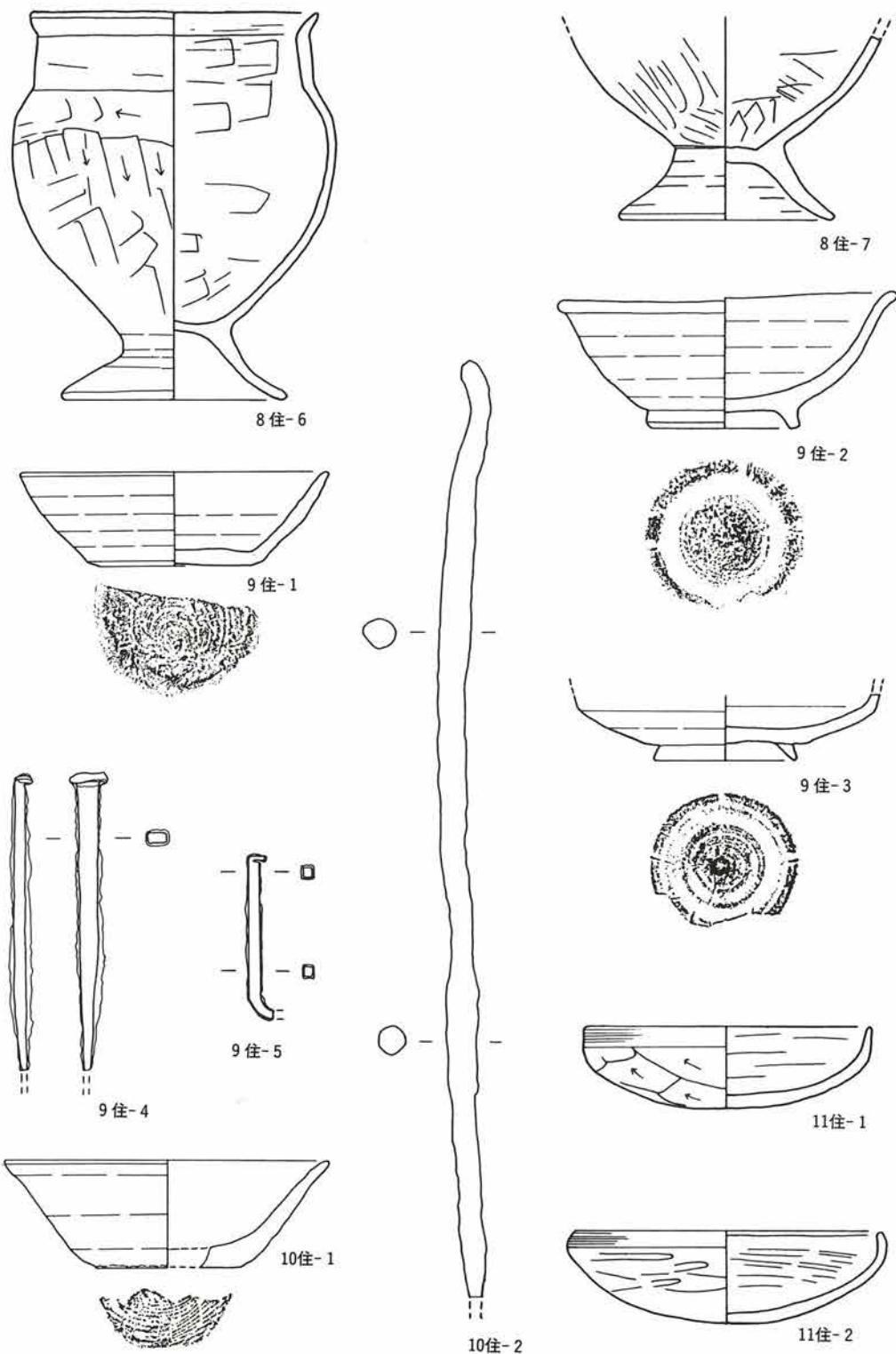


8住-5

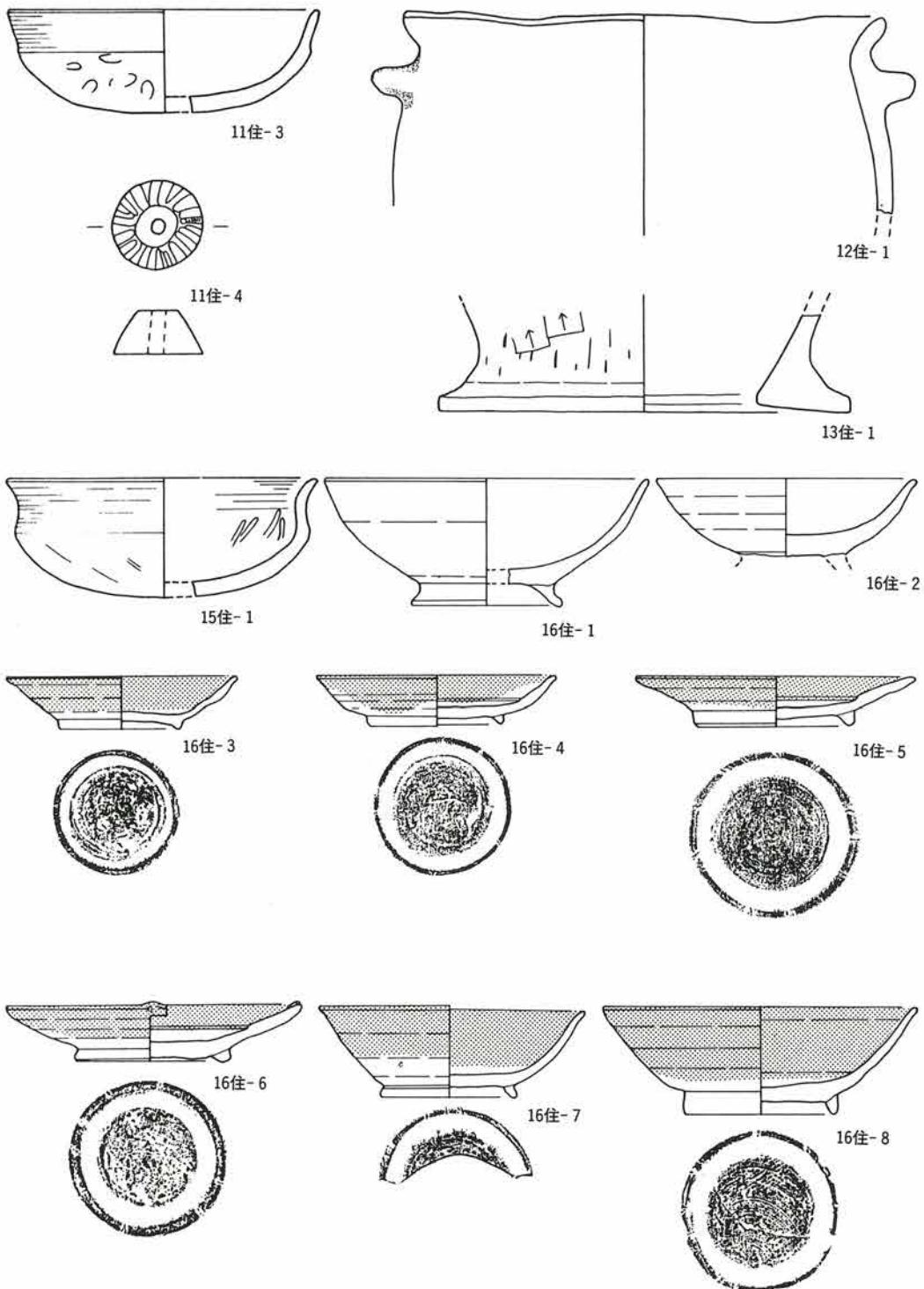


8住-4

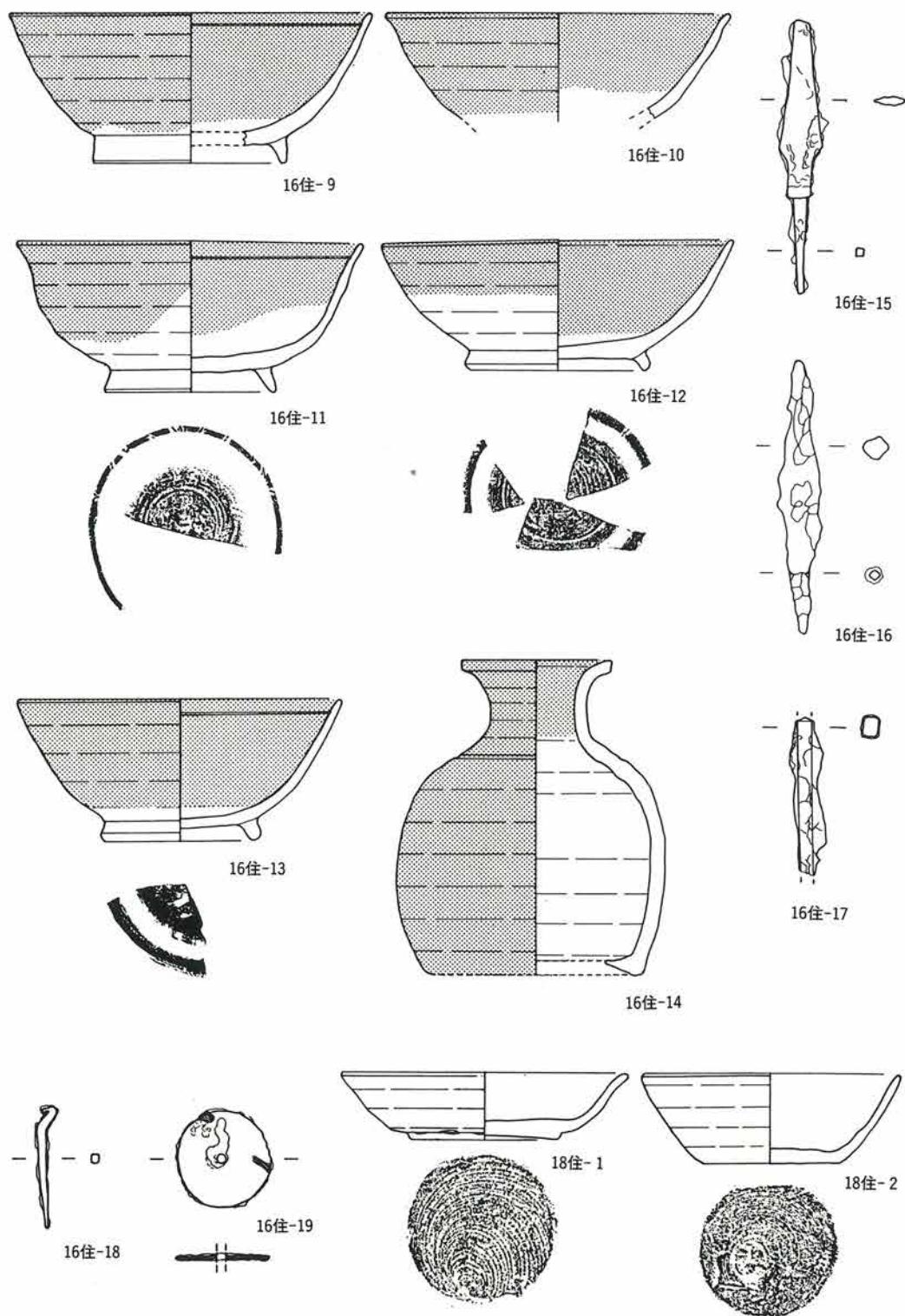
第62図 出土遺物実測図 (4)



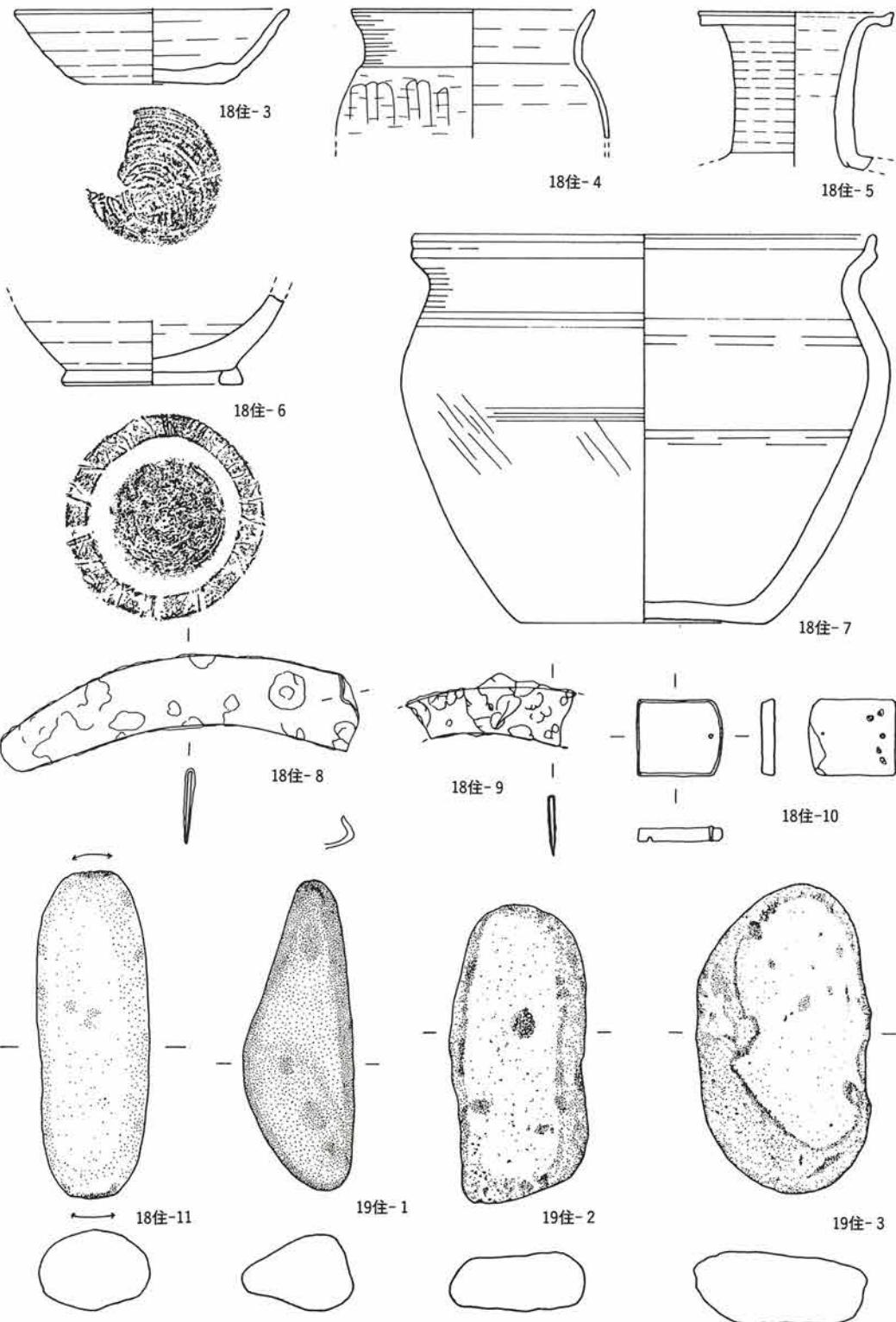
第63図 出土遺物実測図 (5)



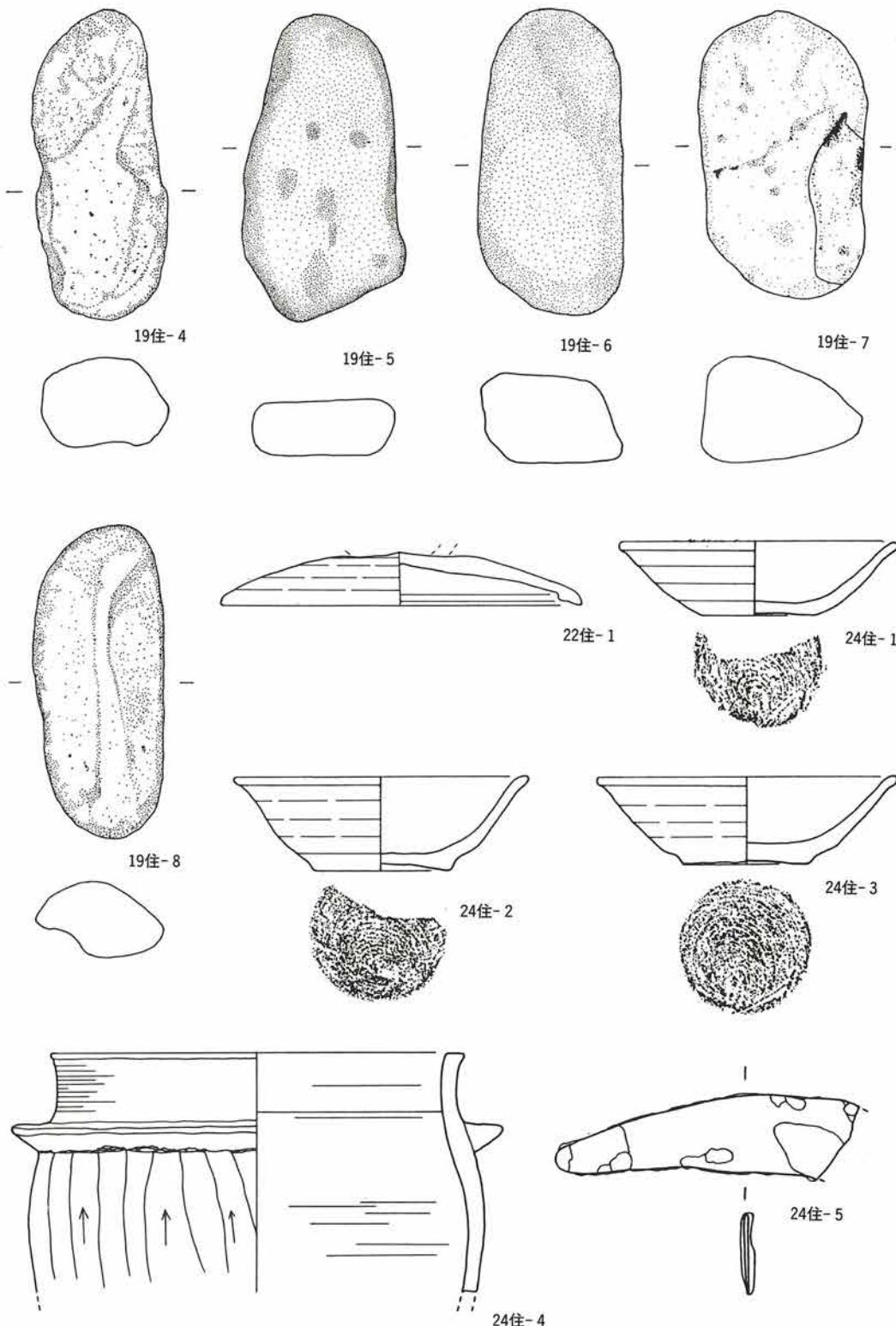
第64図 出土遺物実測図 (6)



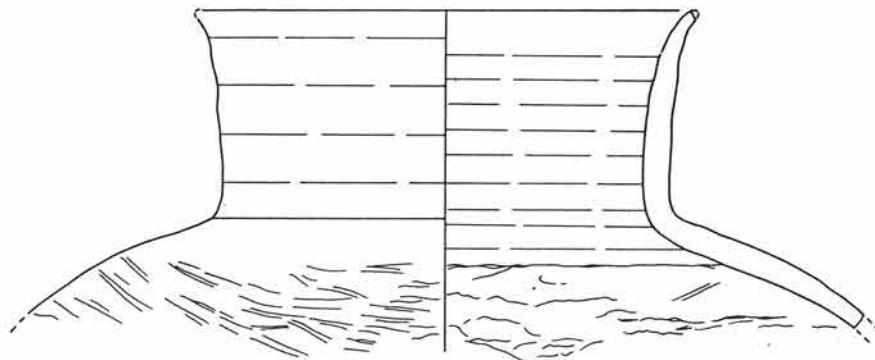
第65図 出土遺物実測図 (7)



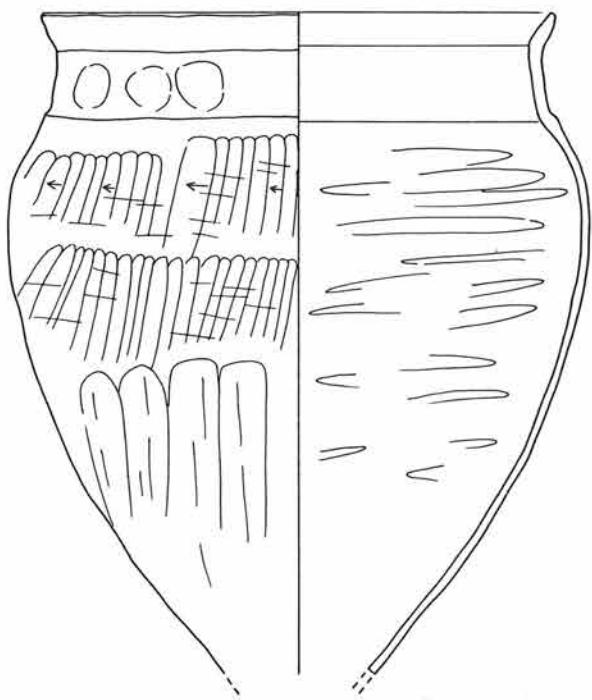
第66図 出土遺物実測図 (8)



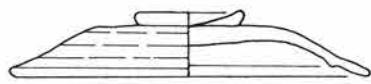
第67図 出土遺物実測図 (9)



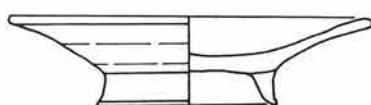
24住-6



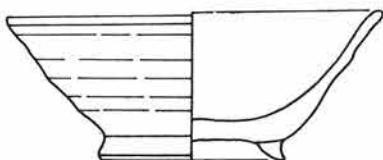
24住-7



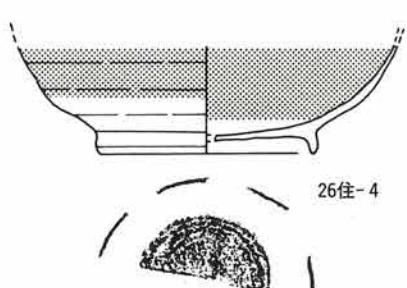
26住-1



26住-2



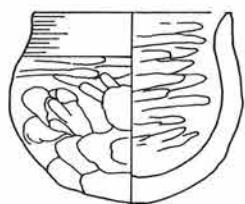
26住-3



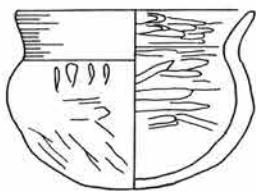
26住-4



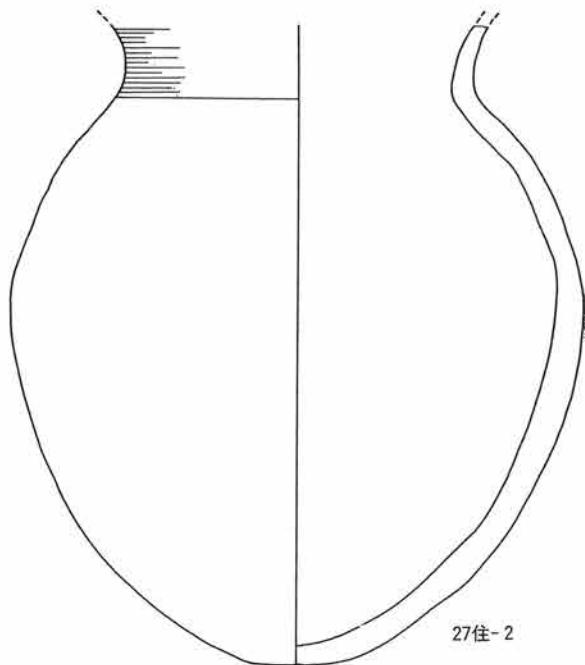
第68図 出土遺物実測図 (10)



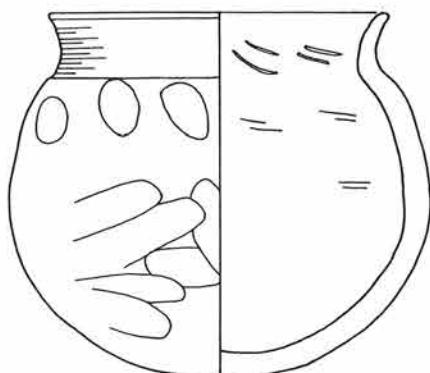
27住-1



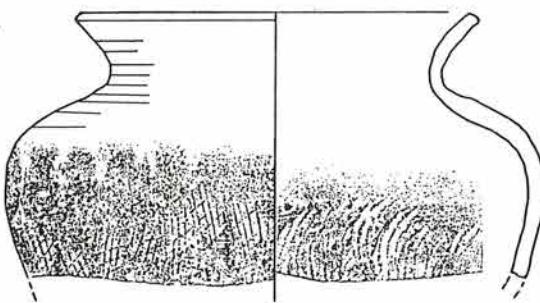
28住-1



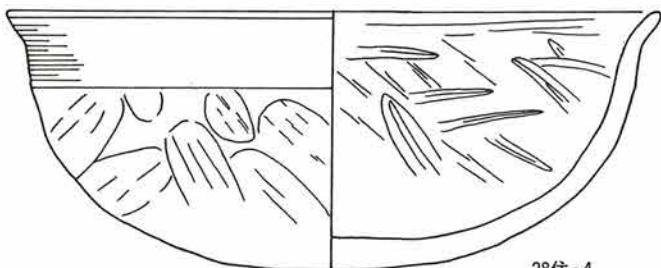
27住-2



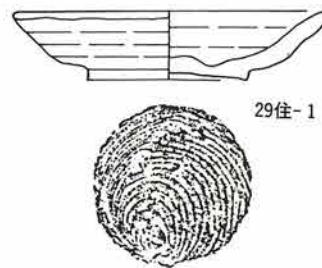
28住-2



28住-3

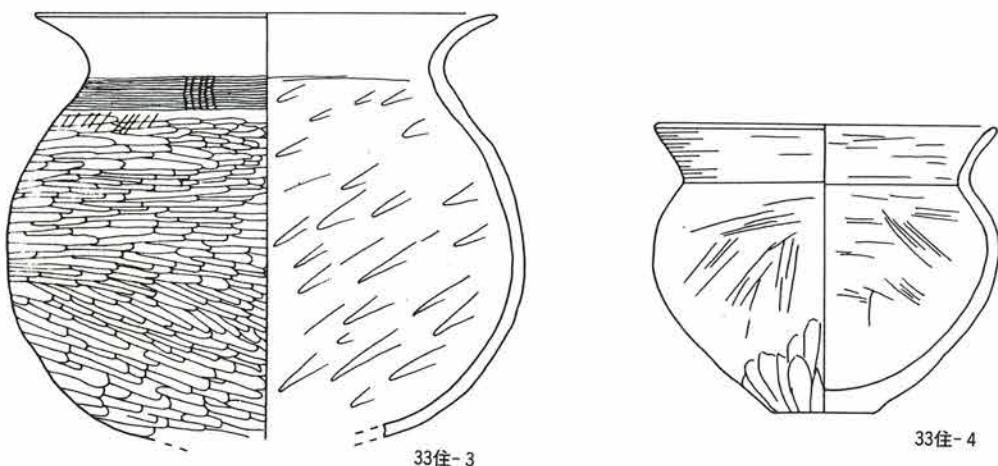
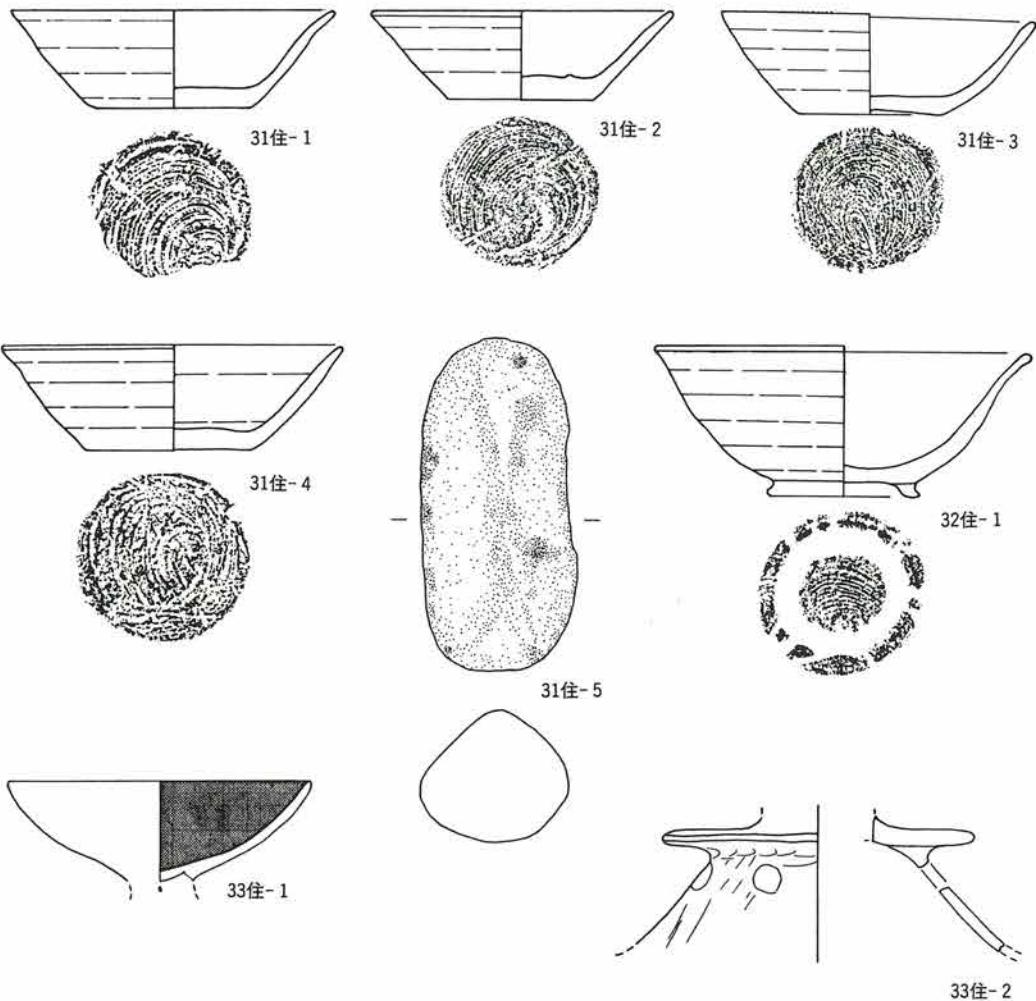


28住-4

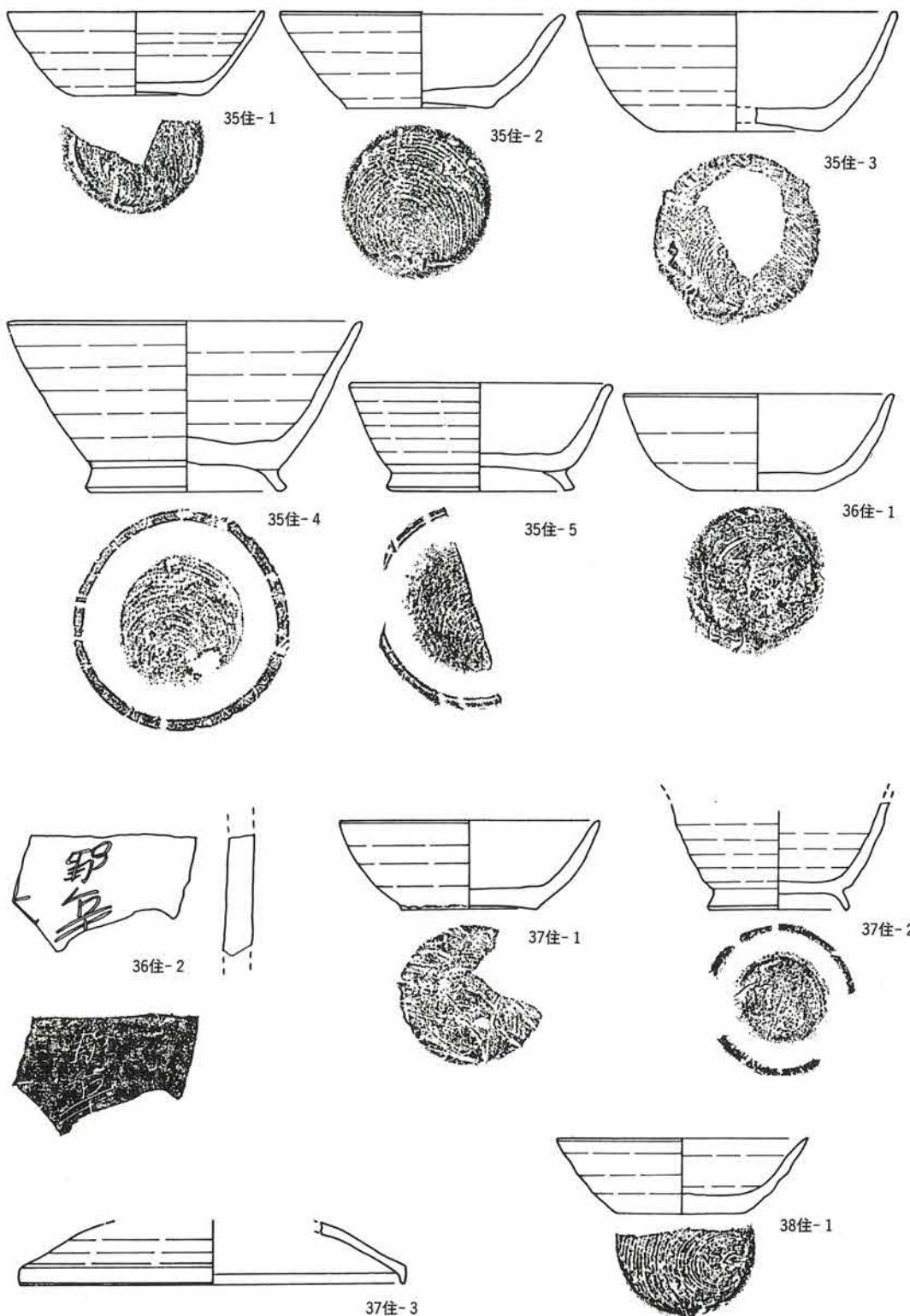


29住-1

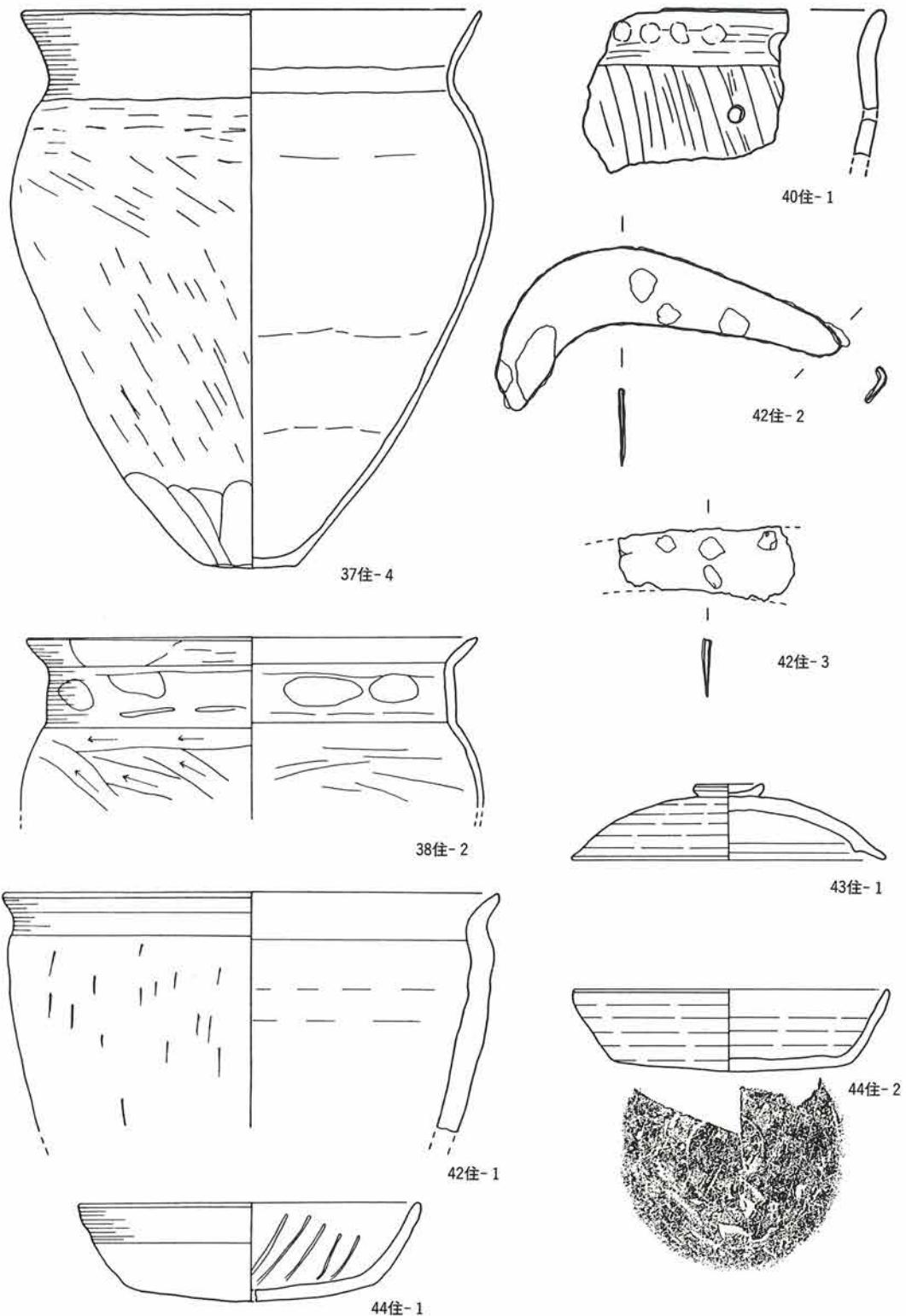
第69図 出土遺物実測図 (1)



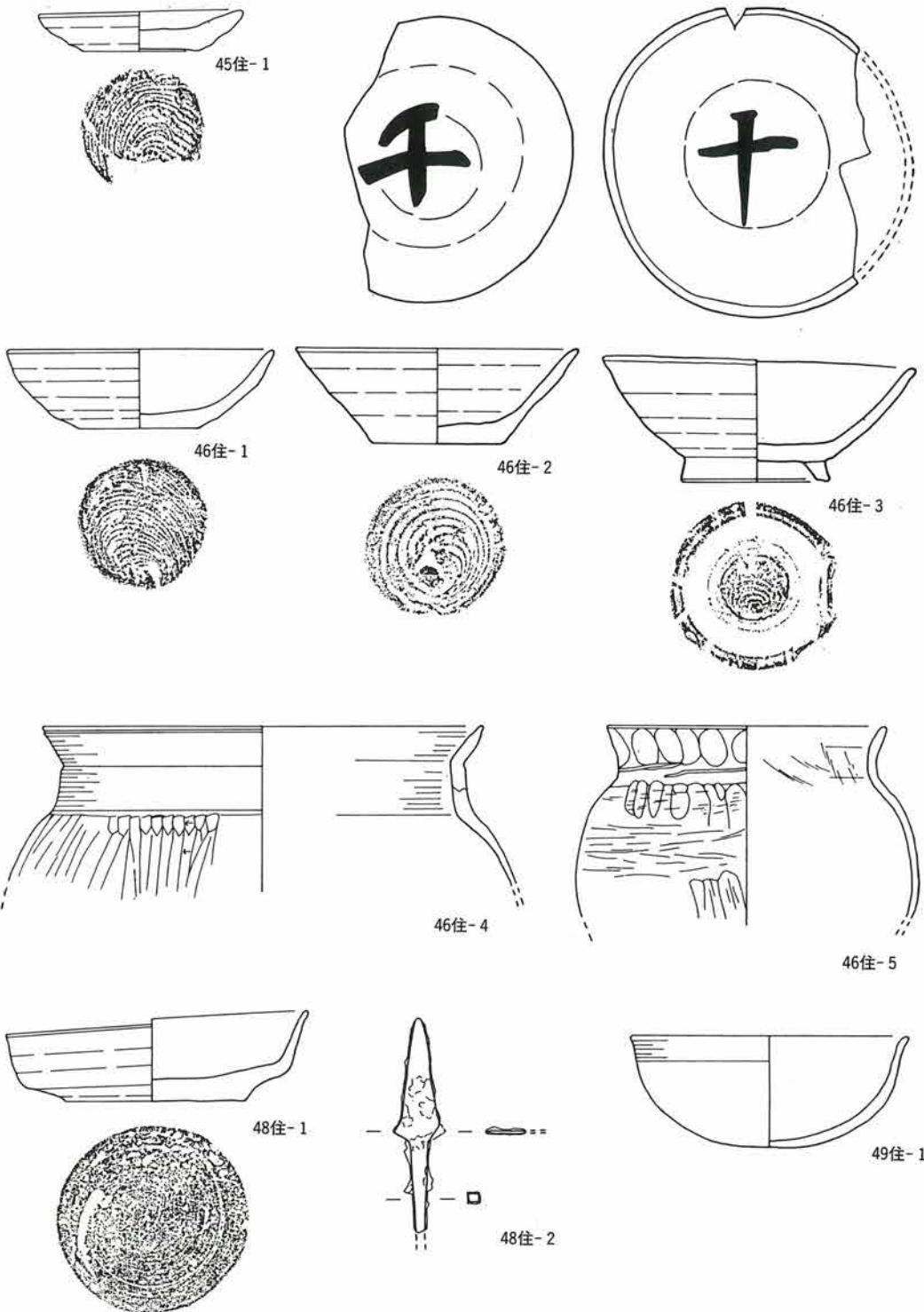
第70図 出土遺物実測図 (12)



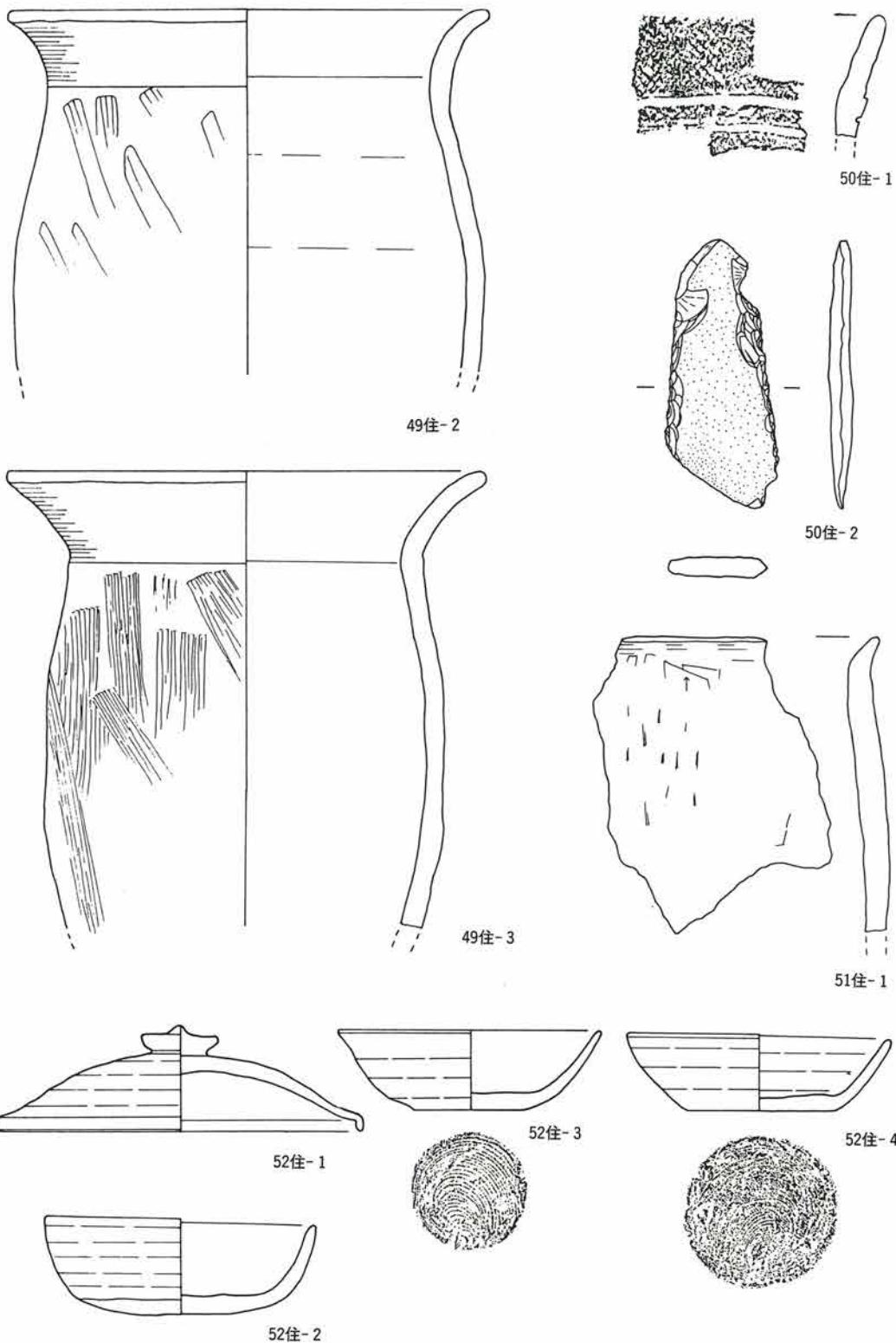
第71図 出土遺物実測図 (13)



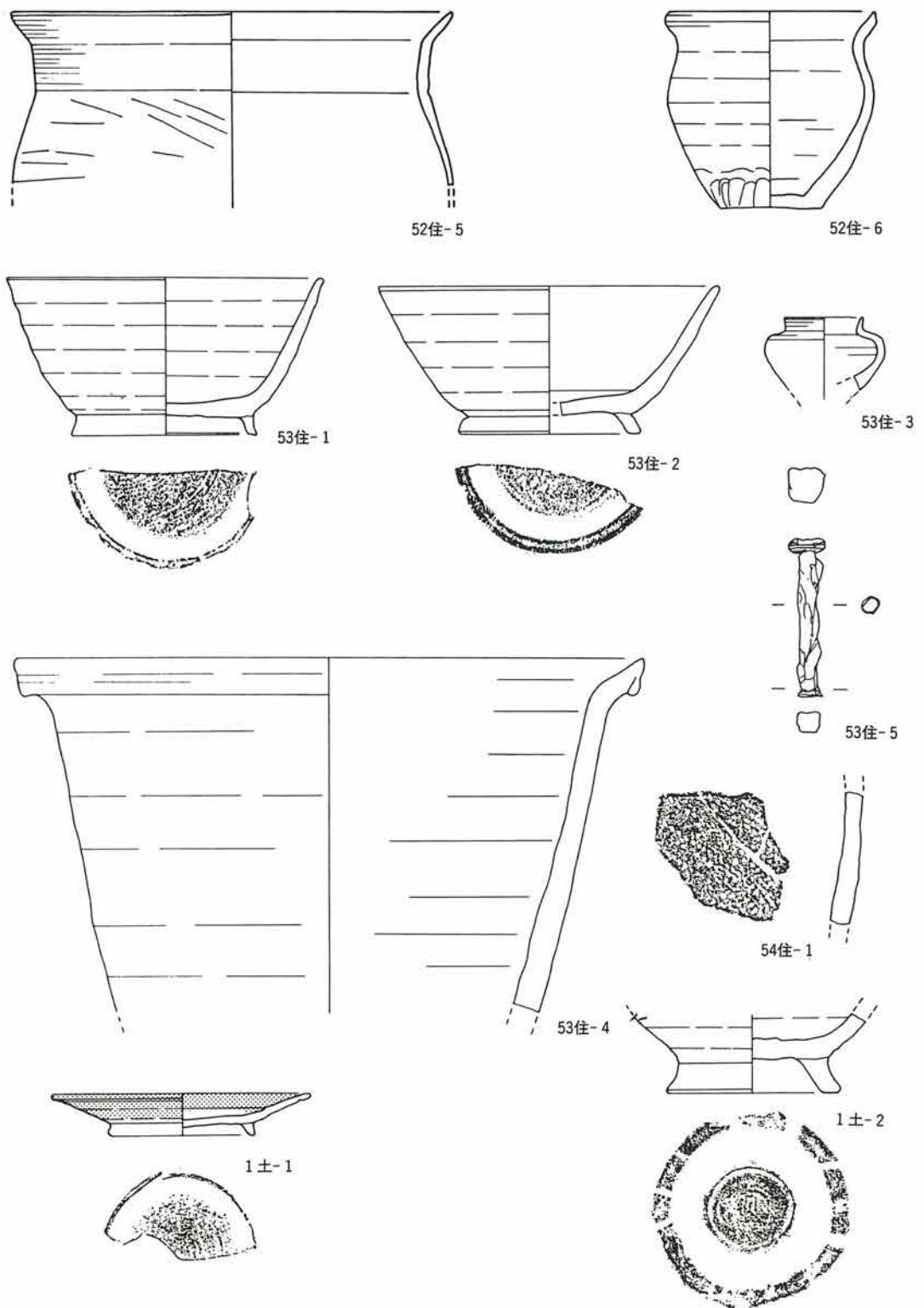
第72図 出土遺物実測図 (14)



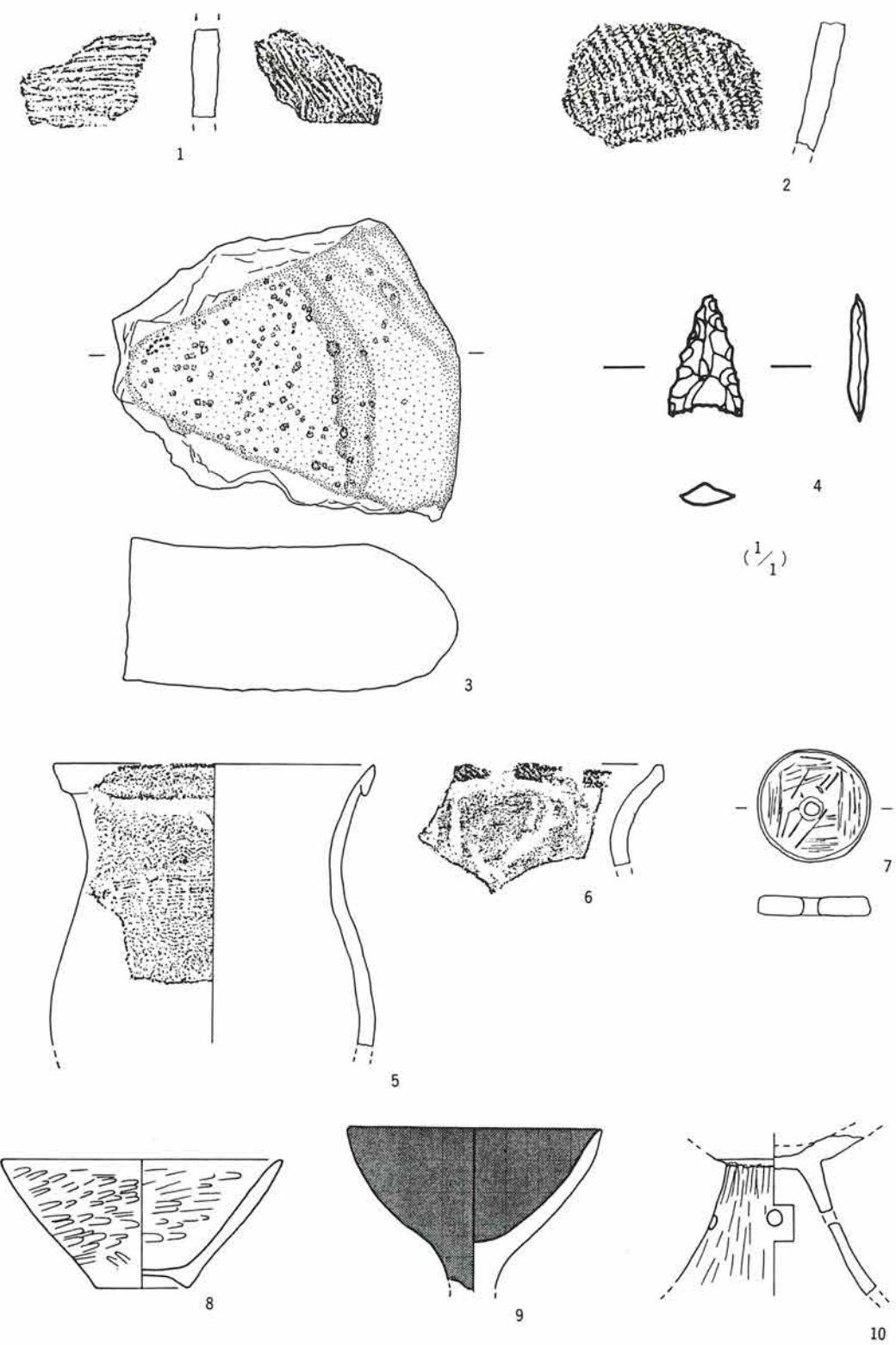
第73図 出土遺物実測図 (15)



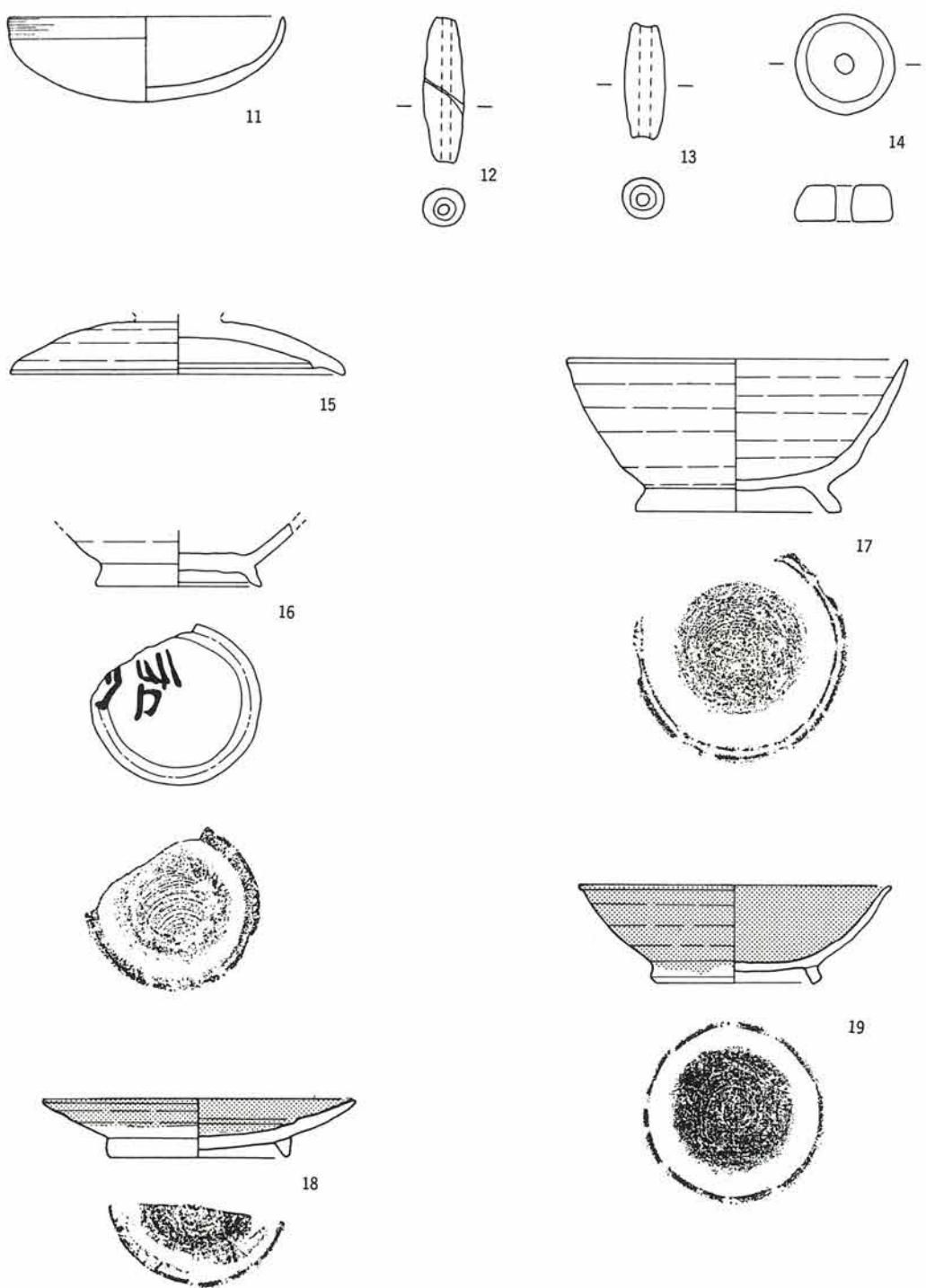
第74図 出土遺物実測図 (16)



第75図 出土遺物実測図 (17)



第76図 出土遺物実測図 (18)



第77図 出土遺物実測図 (19)

遺物觀察表

遺物番号	器種別	出土位置 遺存度	法量(cm) ()は推定	胎土・焼成・色調	器形・整形・調整の特徴	備考
1住 1	坏 須恵器	覆土 ½	口(12.8) 底 8.0 高(4.5)	砂粒多く含む。堅緻。還元。灰白色。	体部は内彎しながら立ち上がる。ロクロ整形。底部左回転糸切り未調整。	外面底部墨書有り。「井」か
1住 2	坏 須恵器	覆土 ½	口 23.0 底 9.0 高 2.7	砂粒を含む。普通。還元。灰白色。	体部は浅く丸みをもって開く。ロクロ整形。底部糸切り後、回転範削り。	
1住 3	蓋 須恵器	覆土 ½	口 25.0	砂粒・小石を含む。堅緻。還元。灰褐色。	偏平な器形で口唇部は垂直ぎみに下へ折れる。ロクロ整形。	
1住 4	刀子 鉄製品	覆土 ほぼ完形	現存長17.2cm、重量28g、銘化著しい。			
2住 1	壇 須恵器	覆土 ½	口 15.0 底 8.0 高 6.7	砂粒・小石を含む。堅緻。還元。灰黄色。	体部深く直線状に開く。高台は「ハ」の字状を呈す。ロクロ整形。底部中央回転糸切り未調整。	
2住 2	壇 須恵器	覆土 ½	口 14.2 底 8.0 高 6.2	砂粒・小石を含む。堅緻。還元。灰黄色。	体部は丸みをもって開く。底部中央回転糸切り未調整。ロクロ整形。高台は「ハ」の字状を呈する。	
2住 3	甕 土師器	覆土 口縁部片	口 19.0	砂粒を含む。普通。赤褐色。	口縁は大きく外反し「コ」の字を呈する。口縁部横撫で、体部範削り。	
3住 1	坏 須恵器	床 完形	口 12.7 底 7.8 高 3.7	砂粒を多く含む。還元。灰褐色。黒色。	口縁は直線状に開き、やや浅く底径が大きい。ロクロ整形。底部右回転糸切り未調整。	
3住 2	坏 須恵器	覆土 ½	口(11.7) 底 6.8 高 3.8	砂粒を多く含む。堅緻。還元。灰白色。	口縁は直線ぎみに開く。内外面ロクロ整形。底部は左回転糸切り未調整。	
3住 3	壇 須恵器	床 ほぼ完形	口 15.1 底 8.0 高 6.0	砂粒を多く含む。普通。灰褐色。	口縁は直線ぎみに開く。内外面ロクロ痕有り。高台は「ハ」字状を呈す。底部中央糸切り痕有り。	
3住 4	壇 灰釉陶器	覆土 ½	口(14.0) 底(6.6) 高(4.75)	砂粒を含む。堅緻。還元。灰白色。	体部内彎しながら立ち上がり口唇部や外反する。底い高台が付く。ロクロ整形。底部回転糸切り調整済。内部厚手の灰釉を施す。	
3住 5	壺 須恵器	覆土 土 頸部 片	口(14.0) 頸(9.4)	砂粒・小石少量含む。堅緻。還元。暗青灰色。	頸部直線ぎみに立ち上がり口縁部強く外反する。ロクロ整形。	
3住 6	壺 須恵器	床、カマド 胴部のみ付	胴(25.0)	砂粒を多く含む。堅緻。還元。暗青灰色。	最大径は胴中央に有する。ロクロ整形。	
3住 7	壺 須恵器	床 胴部 ½	胴(13.0)	砂粒多量に含む。堅緻。還元。暗青灰色。	最大径を肩(胴上部)にとる小型の壺。ロクロ整形。	
3住 8	砥石	床 ほぼ完形	長 10.0 幅 5.3 厚 4.0 重350g	4側面ともよく使用されている。 変質ダイサイト		
3住 9	勾玉 石製	床 完形	長 7.1 幅 2.1 大型。 径 0.55 重 34g 凝灰岩			
3住 10	不明 鉄製	床 破片	長 6.1 幅 1.9 重 8 g	銘化著しい。		
3住 11	錫 鉄製	覆土 完形	長 25.7 幅 19.5 重600g			
4住 1	壇 灰釉陶器	床 底部片	底 7.9	砂粒を含む。還元。灰白色。	底部は回転糸切り後調整。高台付く。内側一部灰釉を施す。	
4住 2	羽釜 須恵器	カマド 口縁部片	口(19.4)	砂粒を含む。還元。褐色。	胴上部はややくびれ、口縁部は直立ぎみに立ち上がる。鈎はやや小さい断面三角形状を呈する。ロクロ整形。口縁部横撫で。胴部縦位の範削り。	
5住 1	坏 須恵器	覆土 ½	口 12.0 底 5.9 高 3.8	砂粒を含む。堅緻。還元。褐灰色。	体部はやや丸みをもって開く。ロクロ整形。底部右回転糸切未調整。	
5住 2	坏 須恵器	貯藏穴 ½	口(12.4) 底(6.4) 高 4.1	砂粒を含む。堅緻。還元。褐灰色。	体部はやや丸みをもって開く。ロクロ整形。底部は右回転糸切り未調整。	
5住 3	坏 須恵器	床 ¾	口 13.6 底 5.8 高 3.8	砂粒を多量に含む。還元。灰白色。	体部丸みをとげて立ち上がり口縁部大きく開き、口唇部は強く外反する。ロクロ整形。底部右回転糸切り未調整。	外面体部に墨書有り。
5住 4	壇 須恵器	覆土 ½	口(15.0) 底 7.2 高 5.8	砂粒・小石を含む。普通。還元。灰白色。	体部はやや丸みをもって開き、口縁部は外反する。底部中央回転糸切り未調整。高台は太く「ハ」の字状を呈し、内側で接地する。ロクロ整形。	
5住 5	長頸壺 灰釉陶器	覆土 頸部片付	頸(6.0)	砂粒を含む。堅緻。還元。灰白色。	口縁部はやや外傾して立ち上がり、ロクロ整形。外側とも灰釉を施す。	
5住 6	坏 須恵器	覆土 口縁部片		砂粒を含む。堅緻。灰褐色。	口唇部やや外反する。ロクロ整形。	内面に墨書有り。「若」か?
6住 1	坏 須恵器	床 ほぼ完形	口 13.0 底 7.0 高 3.5	砂粒・小石を含む。堅緻。還元。灰白色。	体部や内彎しながら立ち上がる。ロクロ整形。底部左回転糸切り未調整。	
6住 2	皿 須恵器	床 完形	口 13.4 底 6.3 高 3.0	砂粒多く含む。堅緻。還元。灰黄色。	体部は直線状に大きく開き、口縁部は強く外反する。ロクロ整形。	
6住 3	皿 須恵器	覆土 完形	口 13.0 底 6.3 高 3.3	砂粒・小石を含む。堅緻。還元。灰白色。	体部は直線状に大きく開き、口縁部、ロクロ整形。底部中央回転糸切り痕有。「ハ」字状の高台付く。上部大きく重む。	
6住 4	甕 土師器	床 ½	口 19.0 脇 21.0	砂粒を含む。普通。橙。	脇上位に最大径を有し、口縁部は弱い「コ」の字状を呈す。口縁部横撫で。体部範削り。	
7住 1	羽釜 須恵器	カマド 口縁部片	口(20.0)	砂粒・小石を含む。普通。酸化。明褐灰色。	口縁部はやや内彎する。鈎は断面三角状を呈す。胴部縦位の範削り。	

遺物番号	器種別	出土位置 遺存度	法量(cm) ()は推定	胎土・焼成・色調	器形・整形・調整の特徴	備考
8住1	壺須恵器	カマド底部破片	底(6.5)	砂粒を含む。堅緻。還元。灰褐色。	ロクロ整形。底部回転、糸切痕有り。	底部に墨書有り。
8住2	壺須恵器	貯蔵穴 %	口 75.2 底 7.0 高 6.3	荒い砂粒を含む。やや軟質。褐色。	体部は丸みをもって開き、口縁は外反する。底部には厚い高台がつき中央に糸切痕が残る。ロクロ整形。	
8住3	壺須恵器	覆土 %	口 15.4 底 7.4 高 6.4	砂粒・小石を多く含む。普通。黒。	体部やや丸みを持って大きく開き、口縁僅かに外反する。底部「ハ」の字状の高台付く。底部中央回転糸切痕。ロクロ整形。	
8住4	甕土師器	貯蔵穴 カマド口縁部片	口(20.0)	砂粒を含む。普通。黒みがかった橙色。	口縁部は崩れた「コ」の字状を呈す。同上部横位の箇削り。	
8住5	甕土師器	覆土 口縁部片	口(12.0)	微砂粒小石少量含む。酸化。普通。暗褐色。	口縁外部に指圧痕。口縁部ゆるやかに外反する。胴部に輪積痕残る。	
8住6	小形台付土師器	床 %	口 13.0 脇 14.6 底 10.0 高 17.5	砂粒を含む。酸化。普通。暗褐色。	胴上部に最大深さを有し、口縁は「コ」の字状を呈す。台は「ハ」の字状で大きく開く。口縁部と台部は横ナナ。胴部継位の箇削り。	
8住7	台付甕土師器	覆土部、土胴の部分	台底 9.8	砂粒少量含む。酸化。堅緻。明赤褐色。	高台「ハ」の字状に大きく開く。胴部継位の箇削り。	
9住1	壺須恵器	カマド %	口 14.0 底 6.6 高 4.2	砂粒小石を含む。堅緻。褐灰色。	やや内聳しながら立ち上がり。ロクロ整形。底部右回転糸切り未調整。	
9住2	壺須恵器	床 完全形	口 15.2 底 7.0 高 6.2	砂粒を多く含む。普通。オリーブ黒色。	体部は内聳しながら立ち上がり。口縁は強く外反する。ロクロ整形。底部に太い高台付く。底部中央回転糸切痕有り。	
9住3	甕須恵器	床 底部のみ	底 6.5	砂粒を含む。堅緻。還元。褐灰色。	体部は大きく開き、口縁部で直立状に屈曲する。ロクロ整形。径の大きい高台付く。	蓋?
9住4	鉄釘	覆土	長 13.5 重 30g	錆化が著しい。		
9住5	鉄釘	覆土	長 7.5 重 10g	錆化が著しい。		
10住1	壺土師器	覆土 %	口(14.6) 底(6.4) 高 4.9	荒い砂粒を多量に含む。酸化。普通。明赤褐色。	体部は直線ぎみにひらき、口縁は外反する。ロクロ整形。底部に回転糸切痕有り。	
10住2	鉄製品	床 ほぼ完形	長 42.4cm 重 165g	錆化が著しい。		
11住1	壺土師器	床 %	口(7.0) 高(3.6)	砂粒やや多く含む。酸化。普通。明赤褐色。	丸底で内聳しながら立ち上がり。口縁部短く直立する。外面体部箇削り。口縁部横撫で。	
11住2	壺土師器	床 %	口(14.0) 高(4.2)	砂粒少量含む。酸化。普通。赤褐色。	丸底で口縁部内聳する。体部箇削り後口縁部横撫で。	
11住3	壺土師器	覆土 %	口(14.2) 高(4.7)	砂粒を多く含む。普通。内一黒褐色。外一によい褐色。	丸底ぎみの底部で口縁部やや外反する。口縁部と胴部境に棱を有す。口縁部横撫で。	
11住4	石製織機車	覆土 完形	径 2 重 47g	蛇紋岩 断面台形を呈す。 厚 2		
12住1	甕土師器	床 口縁部片	口(22.0)	砂粒を多量に含む。普通。明赤褐色。	口縁部は短く外反する。胴上部に鉗状の取手が付く。	
13住1	瓶土師器	床 底部片	底(19.0)	砂粒を含む。普通。橙色。	底部「く」字状を呈し、厚手幅広で安定感有。	
15住1	甕土師器	覆土 %	口(14.2) 高 5.4	砂粒を含む。堅緻。酸化。外一褐色。内一黒。	丸底ぎみの底部で、口縁は直立ぎみに立ち上がり、上部で外反する。	
16住1	甕土師器	カマド土 覆土 %	口(14.8) 底(7.0) 高 5.8	砂粒少量含む。酸化。堅緻。明赤褐色。	内聳しながら大きく開き、口縁で外反する。「ハ」の字状の高台が付く。全体にていねいな磨き。ロクロ整形。	
16住2	甕土師器	覆土 高台欠損	口 12.0	砂粒少量含む。酸化。堅緻。によい褐色。	内聳しながら立ち上がり、口縁で外反する。ロクロ整形。	
16住3	皿灰釉陶器	覆土 ほぼ完形	口 10.6 底 5.5 高 2.4	砂粒を少量含む。還元。堅緻。灰白色。	口縁は直線的に大きく開く。直立ぎみの低い削り出し高台が付く。ロクロ整形。体部から口縁部にかけ施釉。底部右回転糸切り未調整。	内側底部に墨が残る。(転用硯)
16住4	段皿灰釉陶器	床 完形	口 11.0 底 6.1 高 3.2	砂粒を少量含む。還元。堅緻。褐灰色。	内聳ぎみに大きく開き、口唇部が外反する。削り出し高台が付く。内側の段は浅い。	漬け掛けにより施釉。転用硯
16住5	段皿灰釉陶器	床 完形	口 12.8 底 7.2 高 3.2	砂粒を少量含む。還元。堅緻。灰白色。	大きく開く器形で口縁部がやや肥厚する。内側の段は明瞭である。直立ぎみの高台が付く。	漬け掛けにより施釉。
16住6	輪花段皿灰釉陶器	カマド土 完形	口 13.4 底 7.0 高 2.6	砂粒を少量含む。還元。堅緻。灰白色。	体部は直線状に大きく開き、口唇部でやや内傾ぎみになる。内側の段は明瞭である。口縁部は5輪花。短い高台付く。右回転糸切り未調整。	漬け掛けにより施釉。
16住7	甕灰釉陶器	カマド %	口 12.3 底 6.0 高 4.2	砂粒少量含む。還元。堅緻。灰白色。	体部小さく内聳し、口唇部で外反する。底部「ハ」字状の高台が付く。回転糸切り未調整。	漬け掛けにより施釉。
16住8	甕灰釉陶器	覆土 %	口 14.3 底 7.0 高 4.0	砂粒少量含む。還元。堅緻。灰白色。	体部から口縁にかけて直線ぎみに開く。直立状の高い高台が付く。底部右回転糸切り未調整。	漬け掛けにより施釉。
16住9	甕灰釉陶器	カマド %	口(16.8) 底(9.0) 高 7.0	砂粒少量含む。還元。堅緻。灰白色。	体部深く丸みをもって立ち上がる。口縁内側に1条の沈線が造る。底部には直立ぎみの足高高台が付く。回転糸切り未調整。	漬け掛けにより施釉。
16住10	甕灰釉陶器	カマド %	口(16.0)	砂粒少量含む。還元。堅緻。灰白色。	体部内聳しながら開き、口唇部僅かに外反する。ロクロ整形。	漬け掛けにより施釉。

遺物番号	器種別	出土位置 遺存度	法量(cm) ()は推定	胎土・焼成・色調	器形・整形・調整の特徴	備考
16住 11	壺 灰釉陶器	カマド %4	口 16.0 底 8.0 高 7.0	砂粒少量含む。還元。 堅緻。灰白色。	体部は深く丸みをもって立ち上がり口縁部は外反する。「ハ」の字状の高台が付く。糸切痕調整。口縁内側に1条の沈線が巡る。	漬け掛けにより施釉。
16住 12	壺 灰釉陶器	床 底部欠損	口 16.3 底 8.2 高 6.0	細砂粒少量含む。還元。 堅緻。灰白色。	体部内壁しながら開き「ハ」の字状の高台付。糸切痕調整。ロクロ整形。	漬け掛けにより施釉。
16住 13	壺 灰釉陶器	覆 土 %5	口(15.0) 底(7.0) 高(6.6)	砂粒少量含む。還元。 堅緻。灰白色。	体部深く丸みをもって開く。底部外縁に「ハ」の字状の高台付く。口縁内側に1条の沈線が巡る。	漬け掛けにより施釉。
16住 14	短頸壺 灰釉陶器	床 %4	口 7.1 頸 12.4 頸 4.4 底(10.0)	砂粒少量含む。還元。 堅緻。灰色。	平で広い底部のすん胴形小窓。ロクロ整形。肩部に1条の沈線が巡る。外面にはすべて施釉。内面は口縁部のみ施釉。	
16住 15	鉄 錫 ほば完形	覆 土	現存長12.8 重25g	錆化著しい。		
16住 16	鉄 製品	覆 土	現存長12.6	重23g 錆化著しい。		
16住 17	鉄 製品	覆 土	現存長 7.3	重14g 錆化著しい。		
16住 18	鉄 刃 ほば完形	覆 土	長 5.7 重 3g	錆化著しい。		
16住 19	紡錘車 鉄 製光形	覆 土	径 4.4 孔 0.4 重11g	錆化著しい。		
18住 1	壺 須恵器	覆 土 %5	口(13.3) 底(7.0) 高 3.1	細粒を含む。還元。 堅緻。灰白色。	体部はやや丸みをもって立ち上がり口縁部で外反する。ロクロ整形。底部右回転糸切り未調整。	底部やや厚く、低い高台状を呈す。
18住 2	壺 須恵器	床 %5	口(12.0) 底(6.3) 高 41.0	砂粒を含む。普通。還元。 内一灰白色。外一灰色。	体部はやや丸みをもって立ち上がる。ロクロ整形。底部右回転糸切り未調整。	
18住 3	壺 須恵器	覆 土 %2	口 12.8 底 6.2 高 3.5	砂粒・小石を含む。普通。 酸化。灰黄褐色。	体部はやや内轉しながら開く。ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	
18住 4	小型甕 土師器	床 口縁剥離	口 11.0	細粒を含む。普通。 暗赤褐色。	胴上位に最大径をもち、口縁は崩れた「コ」の字を呈する。ロクロ整形。	
18住 5	長・頸壺 須恵器	床 頸 部	頸部 5.8	砂粒を含む。堅緻。還元。 褐色。	頸部は直立ぎみに立ち上がり、口縁は強く横に張り出す。ロクロ整形。	
18住 6	壺 須恵器	床 底部のみ	底 8.4	砂粒を含む。堅緻。還元。 茶褐色。	底部は低く太い高台が付く。ロクロ整形。一部(内外)に縁の釉薬付着。	
18住 7	甕 須恵器	床 %4	口 21.6 底 11.5 高 18.1	砂粒小石を含む。堅緻。 明赤褐色。	体部上位に最大径をもち、口縁部は外反し、口唇部は直立する。ロクロ整形。	
18住 8	鉄 錫 ほば完形	床	現存長 16.8 重52g	錆化が著しい。		
18住 9	鉄 錫 破 片	覆 土 破 片	現存長 8.0 重22g	錆化が著しい。		
18住 10	鉈 尾 石 帯	覆 土 ほば完形	長 4.0 幅 3.6 爪紋岩 厚 0.6	先端が丸みを帯びた方形状を呈し、先端孔の一部に金具が残る。基部側の孔は貫通せず。		
18住 11	敲 石	覆 土	長15.2 幅 5.2 粗粒安山岩	重430g 両先端に磨滅痕有。		
19住 1	編 物 石	床	長14.4 幅 5.2 重385g	粗粒安山岩		
19住 2	編 物 石	床	長13.9 幅 6.3 重495g	粗粒安山岩		
19住 3	編 物 石	床	長14.4 幅 8.1 重650g	粗粒安山岩		
19住 4	編 物 石	床	長14.4 幅 6.0 重590g	粗粒安山岩		
19住 5	編 物 石	覆 土	長14.4 幅 7.1 重530g	粗粒安山岩		
19住 6	編 物 石	覆 土	長14.3 幅 7.7 重670g	粗粒安山岩		
19住 7	編 物 石	覆 土	長13.5 幅 7.5 重715g	粗粒安山岩		
19住 8	編 物 石	覆 土	長14.7 幅 6.1 重440g	砂岩		
22住 1	蓋 須恵器	床 %5	口 16.8	細粒を含む。堅緻。還元。 灰色。褐灰色。	天井はほぼ水平で体部は大きく開く。つまみ部分欠損。ロクロ整形。内側にカエリが付く。	
24住 1	壺 須恵器	カマド %5	口 13.0 底 5.0 高(3.5)	砂粒を含む。 還元。やや軟質。灰白色。	体部はやや丸みをもって開き、口縁僅かに外反する。ロクロ整形。右回転、糸切り未調整。	
24住 2	壺 土師器	覆 土 %5	口 14.0 底 6.0 高 4.6	砂粒を含む。 灰褐色。1部黒色。	体部はやや丸みをもって開き、口縁部僅かに外反する。底部右回転糸切り未調整。ロクロ整形。	

遺物番号	器種別	出土位置 遺存度	法量(cm) ()は推定	胎土・焼成・色調	器形・整形・調整の特徴	備考
24住3	環須恵器	覆土½	口14.0 底6.0 高4.1	砂粒を多量に含む。普通。還元。暗灰黄色。外面に黒色部あり。	体部はや丸みをとび、口線は外反する。 ロクロ整形。底部右回転糸切り調整。	
24住4	羽釜須恵器	覆土上片 口縁から片	口(19.2) 胴(21.4)	砂粒を多く含む。堅緻。還元。褐灰色。	口縁部直立ぎみに立ち上がり、先端でやや外反する。 口縁部平根状を呈す。脚は比較的水平に大きく張り出す。ロクロ整形。胴部縦位の範削り。	
24住5	鉄鑑	覆土一部欠損	現存長14.4 重43g	銷化著しい。		
24住6	甕須恵器	カマド上部破片	口(20.2) 頸18.0	砂粒を多く含む。堅緻。還元。褐灰色。	頸部から直立ぎみに立ち上り、口縁上部でゆるやかに外反する。ロクロ整形。胴部外面に平行叩き目。	
24住7	甕土師器	床½	口20.6	砂粒を含む。普通。橙色。	胴上部に最大径をもち口縁は「コ」の字を呈す。 胴部縦位の範削り。	
26住1	蓋須恵器	床½	口14.5 高2.6	砂粒を含む。堅緻。還元。灰色。	天井部はほぼ水平で体部は大きく開く。中央に環状摘有。内側に僅かにカエリが付く。	
26住2	皿須恵器	床½	口14.6 底7.2 高23.6	砂粒を多く含む。 ややもろい。灰褐色。	体部は直線状に大きく開き、口縁部は外反する。 内外面ロクロ整形。底部中央に回転糸切り痕有。足高高台付く。	
26住3	坏土師器	床ほぼ完形	口14.5 底7.4 高5.8	砂粒を含む。 堅緻。明褐灰色。	体部はゆるやかに立ち上がり、口唇部は外反する。 底部中央に回転糸切り痕有。断面三角形状の高台付く。	
26住4	壺灰釉陶器	覆土底部のみ½	底(8.8)	砂粒を含む。堅緻。還元。灰褐色。	体部内壁しながら立ち上がる。底部に三ヶ月高台付く。	ハケ塗りにより施釉
27住1	小形甕土師器	ほぼ完形	口8.0 胎8.8 高7.6	砂粒を含む。酸化。普通。内一黑。外一明赤褐色。	丸底で球胴状の甕。口縁部は短く直立する。 内部範磨き。	
27住2	甕土師器	床面½	頸(14.0) 胴(23.0)	粗い砂粒を含む。 やや軟質。	胴部に最大径をもち、口縁は外反する。	
28住1	小形甕土師器	床ほぼ完形	口6.0 胎9.2 高7.1	砂粒を多く含む。酸化。やや軟質。明赤褐色。	丸底で球胴状の甕。口縁部「く」字に外反する。 内外面共範磨き。	
28住2	甕土師器	床½	口13.6 高14.5	砂粒を含む。普通。酸化。赤褐色。	胴は球状を呈し、口縁は外反する。口縁部横撫で。 胴部は斜の範削り。	
28住3	甕須恵器	床縁胴部½ 頸	口16.2 胎21.1 頸12.0	砂粒を含む。 堅緻。還元。灰黒色。	胴上部に最大径をとる。口縁は外反する。ロクロ整形。 外面格子目叩き。内面同心円状叩き目有。	
28住4	鉢土師器	床½	口(26.0) 高10.0	砂粒を含む。堅緻。酸化。明赤褐色。	底部より内壁しながら立ち上がり、口縁は外反する。 口縁部横撫で。胴部ヘラ削り。	
29住1	皿(土師器)完形	床	口12.5 底6.4 高2.7	砂粒を含む。内一赤褐色。 堅緻。酸化。外一黒褐色。	大きく開きながら立ち上がる。底部は低い高台状を呈する。ロクロ整形。底部右回転糸切り未調整。	
31住1	坏須恵器	床½	口(13.0) 底6.0 高4.0	砂粒を多く含む。堅緻。酸化。明褐色。	体部直線状に開く。口縁部わずかに外反する。底部左回転糸切り未調整。ロクロ整形。	
31住2	坏須恵器	床½	口(12.2) 底6.0 高3.5	砂粒を多く含む。堅緻。還元。灰白色。	体部は直線状に開き、口縁部わずかに外反する。ロクロ整形。底部左回転糸切り未調整。	
31住3	坏須恵器	覆土½	口12.5 底5.8 高4.3	砂粒を多く含む。普通。還元。暗青灰色。一部灰白色。	体部や丸みをもって立ち上がり口縁直線状に開く。 ロクロ整形。底部回転糸切り痕。	
31住4	坏須恵器	床縁一部欠失	口13.6 底6.6 高4.2	砂粒含む。堅緻。還元。灰色と青灰色。	体部や丸みをもって開き、口縁部僅かに外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り痕有り。	
31住5	敲石	床	長13.4 幅6.2 重610g	兩先端部に打痕有。粗粒安山岩。		
32住1	壺土師器	床縁一部欠損	口15.0 底6.0 高6.0	砂粒を含む。普通。還元。褐灰色。	体部は九味をもって開き、口縁部は僅かに外反する。 ロクロ整形。高台は太く、内側で狭く。底部中央回転糸切り未調整。	
33住1	高坏土師器	床縁のみほぼ完形	口12.0	砂粒少量含む。堅緻。酸化。明赤褐色。	坏部内溝しながらやかに開く。横位の範磨き。	外面に赤彩痕が認められる。
33住2	器台土師器	床破片	ツバ径12.6 孔径1.3	砂粒やや多く含む。酸化。堅緻。明褐色。	脚上部に孔有。(6孔)。脚上は錐状を呈し上部は欠損する。	
33住3	甕土師器	床½	口19.0 底(10.0) 高(17.0)	粗い砂粒を含む。堅緻。黄褐色。一部橙。	胴中位に最大径をもち、口縁は大きく外反する。内外ともに丁寧な範磨き。11条1単位巻状文右廻り4連止め。	
33住4	甕土師器	床½	口13.8 底4.4 高11.6 胎部14.0	砂粒を多く含む。酸化。堅緻。赤褐色。	口縁部「く」の字に外反。広口の口縁で胴部とほぼ同径。口縁部横撫で。	
35住1	坏須恵器	床½	口12.0 底6.4 高6.0	砂立をやや多く含む。還元。堅緻。灰褐色。	体部や内溝し、直線状に開く。底部は右回転糸切り未調整。ロクロ整形。	
35住2	坏土師器	床口部欠失	口13.4 底7 高4.6	砂粒を少量含む。酸化。黒褐色。	体部や丸味をもって開く。底部上げ底ぎみで、右回転糸切り痕残る。ロクロ整形。	
35住3	坏土師器	床底部口縁一部欠失	口15.0 底7.8 高5.6	砂粒をやや多く含む。酸化。堅緻。内一明褐色。外一灰褐色。	体部深く、丸味をもって開く。底部上げ底ぎみ右回転糸切り痕。	
35住4	壺須恵器	床ほぼ完形	口16.6 底9.6 高8.0	砂粒・小石多く含む。還元。堅緻。内一灰色。外一暗青灰色。	体部深くや丸味を持って立ち上がる。「ハ」字状の高台付く。底部中央に左回転糸切り痕。ロクロ整形。	
35住5	壺須恵器	床½	口12.4 底8.8 高5.0	砂粒を含む。還元。堅緻。灰色。	体部や丸味をもって立ち上がり、口縁部がやや外反する。「ハ」字状の高台付く。ロクロ整形。底部糸切痕あり。	

遺物番号	器種別	出土位置 遺有度	法量(cm) ()は推定	胎土・焼成・色調	器形・整形・調整の特徴	備考
36住 1	壺 土師器	床 底部の片	口 12.6 底 5.8 高 4.5	砂粒少量含む。酸化。普通。 明褐色。内黒。	体部丸みをそびて立ち上がり、口縁わずかに外反する。 回転糸切りの後、底部施返箆削り。体部全体に 鏡磨き。	
36住 2	甕 須恵器	覆 土 胴部片		細砂粒を多く含む。 還元。堅緻。灰色。	外面に篆書文字有。中はどの2文字のうち上は「那」 左端にも文字痕跡有。	
37住 1	壺 須恵器	覆 土 片	口 12.2 底 6.4 高 4.2	砂粒・小石を含む。 堅緻。還元。灰白色。	体部は、内彎しながら立ち上がる。 ロクロ整形。「ハ」字状の高台付く。	
37住 2	壺 須恵器	床 底	6.5	砂粒を含む。 普通。灰白色。	体部は、やや丸味をもって立ち上がる。小型の壺。 ロクロ整形。底部回転糸切り調整済。	
37住 3	蓋 須恵器	覆 土 口縁部片	口 18.0	砂粒を含む。 堅緻。還元。灰色。	口唇部は、垂直に下へ折れる。 ロクロ整形。	
37住 4	甕 土師器	床 片	口 21.6 底 4.5 高 26.1 頭 19.0 腹 22.6	砂粒を多く含む。酸化。 普通。暗赤褐色。	薄手の作りで口縁「く」の字状に外反する。胴上部 に最大径を有する。小さいめの底部。	
38住 1	壺 須恵器	床 片	口 12.0 底 6.0 高 3.5	砂粒を含む。 堅緻。還元。黑色。	体部は、直線状に立ち上がる。 ロクロ整形。底部右回転糸切り未調整。	
38住 2	甕 土師器	床 口縁大片	口 12.0	砂粒を多く含む。酸化。堅緻。 暗赤褐色。	「コ」の字状口縁。 頸部に指圧痕残る。口縁部横撫で。胴部箆削り。	
40住 1	甕 土師器	床 口縁部片		砂粒を多く含む。普通。内一に ぶい黄褐色。外一黒褐色。	胴上部に穿孔有。口縁は横撫で。 胴上部は縦位の箆削り。	
42住 1.	甕 土師器	床 口縁部片	口 23.0	粗い砂粒を含む。 堅緻。褐色。	口縁に最大径を有し、短く外反する。	
42住 2	鉄 錠	床 ほぼ完形	現存長16.5 重43g	錆化が著しい。		
42住 3	鉄 錠	覆 土	現存長 8.2 重32g	錆化が著しい。		
43住 1	蓋 須恵器	覆 土 口縁部片	口(12.8)	細粒を含む。 堅緻。灰色。	体部は大きく開く。ロクロ整形。天井中央に環状摘。 内側にカエリが付く。	
44住 1	壺 土師器	覆 土 片	口(15.9)	砂粒を含む。普通。内一橙。 外一白縁部一明褐色。 底一黒色。	平底ぎみの底部からやや丸みをもって立ち上がり、 口縁部ゆるやかに外反する。 底、体部はヘラ削り。口縁部横撫で。内面に暗文有。	
45住 2	壺 須恵器	覆 土 片	口 14.8 底 11.0 高 3.85	砂粒を含む。堅緻。還元。 内一黒色 外一灰色。	体部は直線状に立ち上がる。ロクロ整形。 底部は、手持ちヘラ削り。	
45住 1	甕 土師器	覆 土 片	口(9.2) 底 5.3 高 1.8	砂粒を含む。普通。 酸化。明赤褐色。	底部は、器厚で直線状に短く開く。ロクロ整形。 回転糸切り痕有り。	
46住 1	壺 須恵器	床 完 形	口 12.0 底 5.5 高 3.7	砂粒・小石を含む。 堅緻。灰白色。	体部は、内彎しながら立ち上がり、口縁部はゆるや かに外反する。ロクロ整形。底部右回転糸切り。	
46住 2	壺 須恵器	床 片	口 13.0 底 6.0 高 4.3	小石を含む。普通 暗灰黄	体部は、直線状に開く。ロクロ整形。 底部回転糸切り未調整。	内面底部に墨書有 り「千」か
46住 3	壺 土師器	床 口縁部 欠失完形	口 14.2 底 6.6 高 5.7	粗砂粒多く含む。 酸化。普通。黒褐色。	体部丸みをもって大きく開き、口縁部僅かに外反す る。高台は肉厚で「ハ」の字状に付。ロクロ整形。	内面底部に墨書有 り「十」か
46住 4	甕 土師器	床 口縁部片	口縁部のみ	細砂粒。 普通。明褐色。	同上位に最大径をもち、口縁部は、「コ」の字を呈す。	
46住 5	甕 土師器	床 口縁部 片	口 12.6	細砂粒を含む。 普通。黒褐色。	胴上部に最大径をもち、口縁部はゆるやかに外反す る。胴上部縦位のヘラ削り。	
48住 1	壺 須恵器	覆 土 片	口 13.5 底 8.2 高 3.5	砂粒を含む。 普通。ぶい橙。	底部広く、体部下方で屈曲して立ち上がり、口縁部 ゆるやかに外反する。ロクロ整形。底部は右回転ヘ ラ削り。	
48住 2	鉄 錠	床 茎 欠損	現存長 9.8 重 15g	錆化が著しい。		
49住 1	壺 土師器	床 片	口(12.5) 高(5.0)	細砂粒。普通。 内一黒褐色。外一暗褐色。	胴部は、丸みをもち、口縁部は、やや外反する。 内面良好な磨。	
49住 2	甕 土師器	床 口縁部 片	口 22.0	粗い砂粒を含む堅緻。 ぶい褐色。	胴上位に最大径をもち、口縁部は、外反する。	
49住 3	甕 土師器	覆 土 片	口 22.0	砂粒を含む堅緻。 赤褐色。	口縁部に最大径を有し、「く」字状に大きく外反す る。胴部縦位の箆削り。	
50住 1	繩 文	覆 土 破 片	砂粒多量に含む。明赤褐色。地文は繩文 RL。横線の沈線2本。			
50住 2	打製石斧	床 刃部欠損	長12.5 重67g 摱形。細粒安山岩。 巾 5.7			
51住 1	土 釜 土 師 器	覆 土 破 片		砂粒多く含む。 酸化。灰褐色。	直立ぎみに立ち上がり、口縁部で短く外反する。胴 外面縦位のヘラ削り。	
52住 1	蓋 須恵器	覆 土 片	口 17.0	砂粒・小石を含む。 堅緻。還元。灰オリーブ色。	口唇部は、垂直に下へ折れる。天井部は、擬宝珠様 のつまみが付く。ロクロ整形。	
52住 2	壺 土 師 器	床 完 形	口 12.6 底 5.0 高 4.6	砂粒を多く含む。 酸化。堅緻。淡褐色。	丸底ぎみの底部からゆるやかに立ち上がり、口縁部 わざかに開く。底部糸切後中心部以外ヘラ削り。ロ クロ整形。	

遺物番号	器種別	出土位置 遺存度	法量(cm) ()は推定	胎土・焼成・色調	器形・整形・調整の特徴	備考
52住3	壺須恵器	床 %	口12.3 底5.4 高3.7	砂粒やや多く、小石少し含む。灰色。	体部や丸味をもって開く。底部右回転糸切り未調整。ロクロ整形。	
52住4	壺土師器	覆土 %4	口12.2 底7.0 高3.6	砂粒を多く含む。酸化。堅板。黒褐色。	体部や丸味をもって開く。ロクロ整形。底部左回転糸切り未調整。	
52住5	甕土師器	覆口縁部 大片	口(28.0)	砂粒を多く含む。酸化。普通。明赤褐色。	口縁ゆるやかな「コ」の字状を呈す。口縁部横撫で。	
52住6	小形甕土師器	覆土 %8	口(9.8)高9.3底5.0 頭8.8 脚9.8	砂粒を多く含む。酸化。普通。明褐色。	口縁部で最大径をとり、口唇部は外削ぎ状を呈す。	
53住1	壺須恵器	床 %2	口15.0 底8.6 高7.4	砂粒を多く含む。還元。堅板。灰白色。	体部は深く直線状に開く。ロクロ整形。「ハ」状の高台付く。底部中央部回転糸切り痕。	
53住2	壺須恵器	床 %2	口(16.0) (底8.6) 高6.9	砂粒を含む。堅板。還元。灰色。	体部は、ゆるやかに内脣しながら立ち上がる。高台は「ハ」の字を呈する。ロクロ整形。	
53住3	短頸小壺須恵器	床 %4	口(3.6) 胴(5.6)	砂粒やや多く含む。還元。堅板。灰色。	短頸で肩の強く張った小壺。	
53住4	甕須恵器	床 口縁大片	口(29.6)	砂粒を多く含む。還元。堅板。灰色。	口縁部で大きく外反する。ロクロ整形。	
53住5	鉄製品	覆土 ほぼ完形	現存長7.5 重17.5g	錆化が著しい。		
54住1	繩文	覆土	砂粒含む。橙色。撚糸文が施される。			
1土I	段皿灰釉陶器	覆土 %2	口12.2 底7.0 高4.0	細粒を含む。還元。堅板。灰色。	口縁は直線状に大きく開く。内側の段は不明瞭。底部に三角形状の高台が付く。	漬け掛けにより施釉
1土2	壺土師器	覆土 底部のみ	底8.0	細粒を多量に含む。普通。外一淡茶褐色。内一黑。	器厚で足高高台付く。底部中央に回転糸切痕有。ロクロ變形。	
1	繩文	破片	内外面に条痕文を施す。胎土に纖維を含む。			
2	繩文	破片	繩文RL・LRを施す。胎土に纖維を含む。			
3	石皿	破片	重さ5.0kg 溶結凝灰岩。 厚さ9.0cm			
4	石鑓	ほぼ完形	長さ1.9 幅1.1 黒色安山岩 重さ0.5			
5	甕弥生	口縁から 胴部片	口(15.0) 胴(15.0)	砂粒を多量に含む。普通。茶褐色。	口縁と胴上部に櫛描波状文。頭部に8条1単位簾状文有り。折返し口縁。	
6	甕弥生	口縁部片	口唇部に繩文を施す。			
7	紡錘車土製	完形	径5.3cm 厚さ0.9cm 重量34g 黒色。	断面偏平の長方形を呈す。表面ていねいな簾磨き。		
8	鉢弥生	ほぼ完形	口13.2 底4.8 高6.0	砂粒を多く含む。酸化。茶褐色。	体部直線状に開く。底部小さめで上げ底状を呈す。横位の簾磨き。	
9	高彌生	口縁 环の破片	口(11.8)	細粒を含む。堅板。赤色塗彩。	环中央よりゆるやかに丸みをおびて立ち上がり、口縁部少し開く。内部横外面縦の簾磨き。	内外面に赤色塗彩。
10	高彌生	台部のみ	台頭4.4	砂粒含む。堅板。酸化。茶褐色。	脚部に5孔を有す。台部縦の簾磨き。	
11	壺土師器	完形	口12.3 高3.8	砂粒を含む。やや軟質。橙。	丸底ぎみの底部からゆるやかに立上がり、口縁は直立する。口縁部横撫で。	
12	土鍤	完形	長さ6.5cm巾1.9 重さ16g 孔径5mm	にぶい褐色を呈し胴中位に最大径をもち長軸に梢円形の貫通孔を有す。		
13	土鍤	完形	長さ4.6cm巾1.9cm 重さ15g 孔径6mm	にぶい褐色を呈し胴中位に最大径をもち長軸に円形の貫通孔を有す。		
14	紡錘車石製	完形	径4.4cm 口径8mm 厚さ1.6cm 重55g。蛇紋岩製で角のとれた台形状を呈す。			
15	蓋須恵器	口縁部 %4	口(15.0)	砂粒を含む。還元。堅板。灰黑色。	天井部は平坦で丸味をもって開く。内面にカエリを有する。ロクロ整形。	
16	壺須恵器	底部破片	底7.4	砂粒を少量含む。還元。堅板。灰白色。	ロクロ整形。底部に「ハ」の字状の高台が付く。底中央、回転糸切り未調整。	底部に墨書き有り。「和口」
17	壺須恵器	%2	口15.2 底9.2 高6.8	砂粒を含む。還元。堅板。黒灰色。	体部深く内脣しながらゆるやかに立ち上がる。高台は「ハ」の字状を呈する。ロクロ整形。底部中央に回転糸切痕あり。	
18	段皿灰釉陶器	%2	口14.0 底8.0 高2.6	細砂粒小量含む。還元。堅板。灰白色。	口縁は直線的に大きく開く。内側の段は明瞭。底部には三角形状の高台が付く。	漬け掛けにより施釉。
19	壺灰釉陶器	%4	口14.0 底7.7 高4.4	砂粒を含む。還元。堅板。灰白色。	体部は内脣しながら立ち上がり、口唇部で外反する。底部に三ヶ月高台が付く。	漬け掛けにより施釉。

写 真 図 版



調査地区全景

写真図版 2



調査区北側



調査区南側

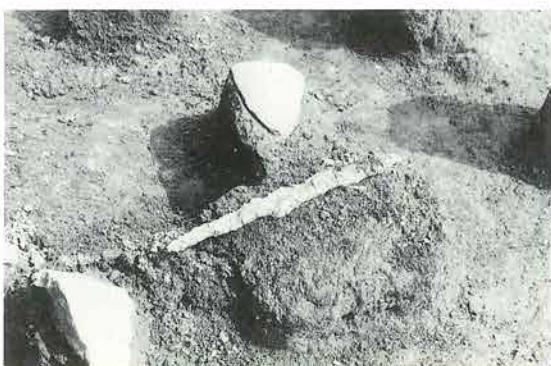
写真図版 3



1号住居跡遺物出土状況



同左部分



同上部分



1号住居跡全景



2号住居跡遺物出土状況



2号住居跡全景



2号住居跡カマド



3号住居跡遺物出土状況

写真図版 4



3号住居跡遺物出土状況



同 左



同 上



3号住居跡全景



3号住居跡カマド



4号住居跡遺物出土状況



4号住居跡カマド



4号住居跡全景

写真図版 5



5号住居跡遺物出土状況



同左部分



5号住居跡全景



5号住居跡カマド



6号住居跡遺物出土状況



6号住居跡カマド



7号住居跡遺物出土状況



7号住居跡カマド

写真図版 6



8号住居跡遺物出土状況



8号住居跡カマド



9号住居跡遺物出土状況



9号住居跡全景



9号住居跡カマド



10号住居跡遺物出土状況



10号住居跡遺物出土状況



10号住居跡全景



11号住居跡遺物出土状況



同左部分



同上部分



11号住居跡全景



12号住居跡遺物出土状況



12号住居跡全景



13号住居跡全景



14・15号住居跡全景

写真図版 8



16号住居跡遺物出土状況



同左部分



同上部分



16号住居跡遺物出土状況



16号住居跡全景



16号住居跡カマド



17号住居跡全景



18号住居跡遺物出土状況

写真図版 9



18号住居跡遺物出土状況



18号住居跡遺物出土状況



18号住居跡全景



18号住居跡カマド



19号住居跡遺物出土状況



19号住居跡全景



19号住居跡カマド



20号住居跡全景

写真図版 10



20号住居跡カマド



21号住居跡全景



21号住居跡カマド



22・23号住居跡遺物出土状況



24号住居跡遺物出土状況



同左部分



24号住居跡カマド



24号住居跡全景



25号住居跡全景



26号住居跡遺物出土状況



27号住居跡遺物出土状況



同左部分



28号住居跡遺物出土状況



同左部分



同上部分



28号住居跡全景

写真図版 12



29号住居跡全景



30号住居跡全景



31号住居跡遺物出土状況



31号住居跡カマド



31号住居跡全景



32号住居跡遺物出土状況



32号住居跡遺物出土状況



32号住居跡全景



33号住居跡遺物出土状況



同左部分



同上部分



33号住居跡炉



33号住居跡全景



34号住居跡遺物出土状況



35号住居跡遺物出土状況



同左部分

写真図版 14



35号住居跡全景



36号住居跡全景



37号住居跡遺物出土状況



同左部分



38号住居跡全景



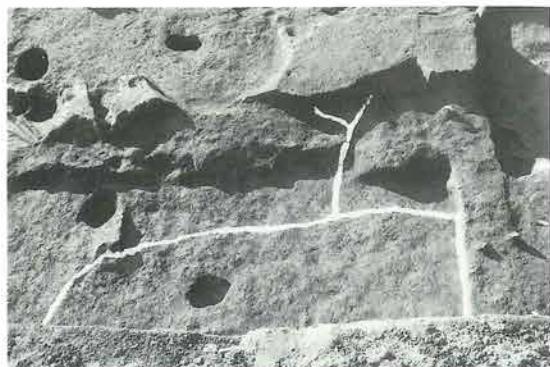
40・41号住居跡全景



42号住居跡遺物出土状況



同左部分



42号住居跡全景



43号住居跡全景



44号住居跡全景



45号住居跡全景



46号住居跡遺物出土状況



同左部分



46号住居跡全景



46号住居跡カマド

写真図版 16



47号住居跡遺物出土状況



47号住居跡全景



48号住居跡遺物出土状況



49号住居跡遺物出土状況



49号住居跡カマド



49号住居跡全景



50号住居跡遺物出土状況



51号住居跡全景



51号住居跡カマド



52号住居跡遺物出土状況



52号住居跡遺物出土状況



52号住居跡遺物出土状況



52号住居跡全景



52号住居跡カマド



53号住居跡遺物出土状況

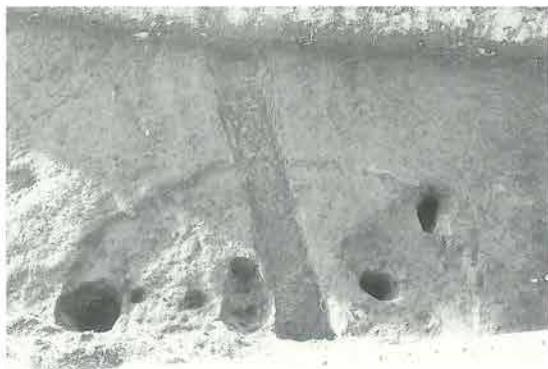


53号住居跡カマド

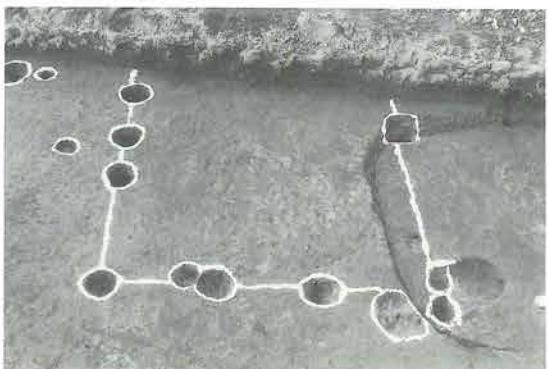
写真図版 18



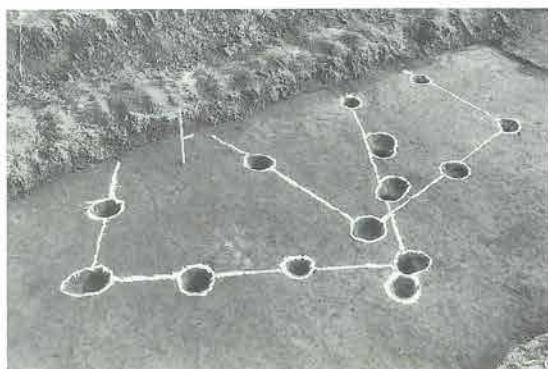
53号住居跡全景



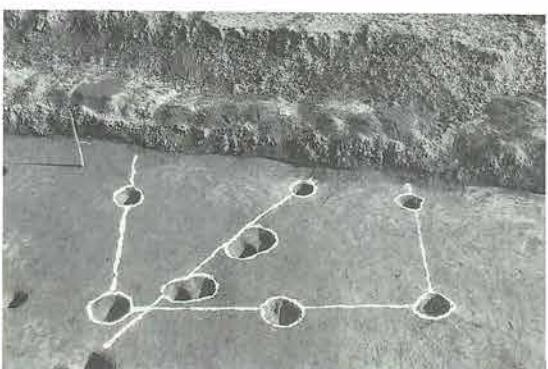
54号住居跡全景



1号掘立柱建物跡



2号掘立柱建物跡（手前）



3号掘立柱建物跡



2号竪穴状遺構



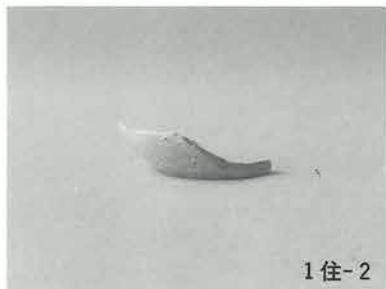
1号土壤遺物出土状況



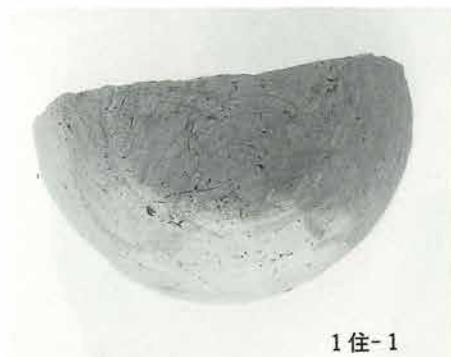
2号土壤全景



1住-1



1住-2



1住-1



1住-3



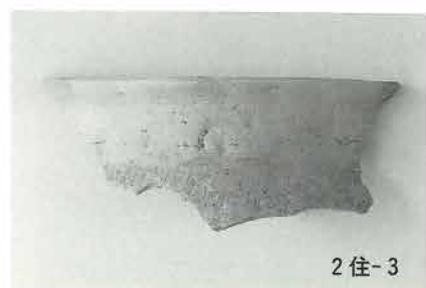
1住-4



2住-1



2住-2



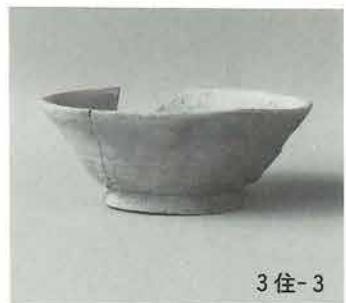
2住-3



3住-1



3住-2



3住-3



3住-4



3住-5

写真図版 20



3 住-6



3 住-7



3 住-10



3 住-8



3 住-9



3 住-11



4 住-1



5 住-1



4 住-2



5 住-2

写真図版 21



5住-3



5住-4



5住-5



5住-3



5住-4



6住-1



6住-2



6住-3



6住-4



7住-1



8住-1



8住-2

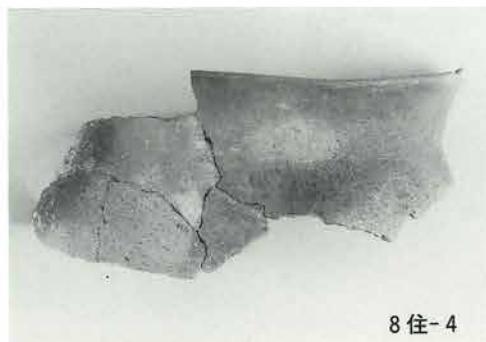


8住-3



8住-5

写真図版 22



8住-4



8住-6



8住-7



9住-1



9住-2



9住-3



9住-4



9住-5



10住-1



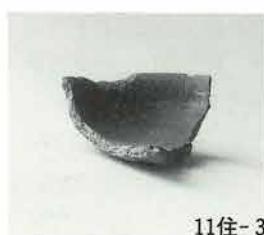
11住-1



10住-2



11住-2



11住-3



11住-4



12住-1



13住-1



15住-1



16住-1



16住-2



16住-3



16住-4



16住-5



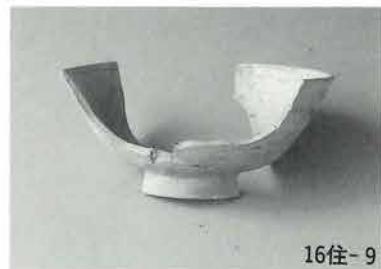
16住-6



16住-7



16住-8



16住-9



16住-10

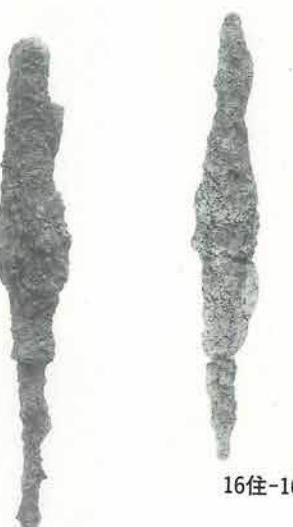
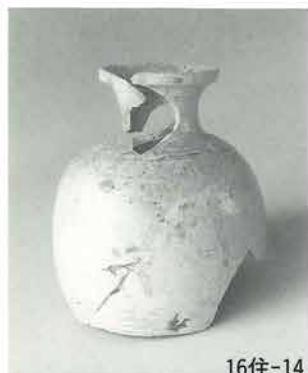


16住-11



16住-12

写真図版 24



16住-17



16住-18



16住-19



18住- 1



18住- 2



18住- 3



18住- 4



18住- 5



18住- 7



18住- 6

写真図版 25



18住-8



18住-10



18住-9



18住-10



18住-11



19住-1



19住-2



19住-3



19住-4



19住-5



19住-6

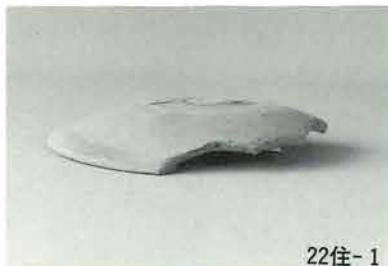


19住-7



19住-8

写真図版 26



22住-1



24住-1



24住-2



24住-3



24住-5



24住-4



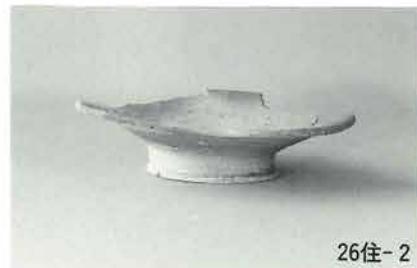
24住-6



24住-7



26住-2



写真図版 27



26住-3



26住-4



27住-1



27住-2



28住-1



28住-2



28住-3



28住-4



29住-1



31住-1



31住-2



31住-3



31住-4



32住-1

写真図版 28





37住-3



38住-1



38住-2



37住-4



40住-1



42住-1



42住-2



42住-3



43住-1



44住-1



44住-2



45住-1



46住-1



46住-5

写真図版 30



46住- 2



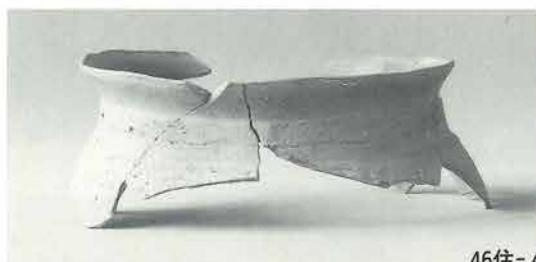
46住- 3



46住- 2



46住- 3



46住- 4



48住- 1



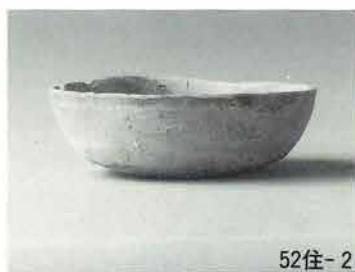
48住- 2



49住- 1



49住- 2



写真図版 32



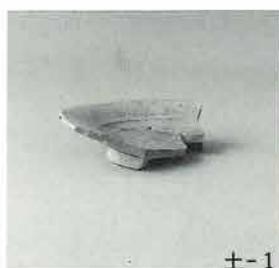
53住-4



53住-5



54住-1



土-1



土-2



4



1



1



2



3



5



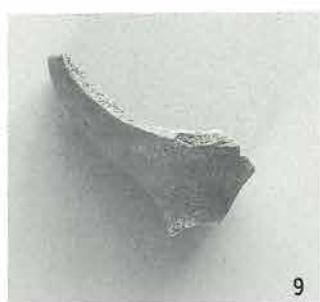
6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



16



19

沼田北部地区遺跡群II

平成2年度県営は場整備事業沼田北部
地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行 平成5年3月29日

編集・発行 沼田市教育委員会

〒378 群馬県沼田市西倉内町780番地
TEL(0278) 23-2111(代)

印 刷 有限会社コトブキ印刷

〒378 群馬県沼田市上沼須町659番地2
TEL(0278) 22-5400

